

管理マニュアル

LAN DISK

HDL-ZWLC2 シリーズ

すぐ取り出せる場所に保管してください

もくじ

注意事項など

本製品を使う上で、お守り
いただきたいご注意ください。
必ずお読みください。

使う前に

安全のために	3
使用上のご注意	5
内容物を確認する	7
動作環境	7
オプション HDD	9
各部の名称・機能	10

初期設定

本製品の設置・導入方法で
す。
運用にあたって必要最低限
の設定です。

導入する

初期設定	16
NarSuS に登録する	24
ユーザーを作成する	29
グループを作成する	30
共有フォルダーを作成する	32
Active Directory へ参加する	35
Active Directory で共有を作成する	37
電源を切る場合	40

詳細設定

新機能やその他の設定です。
初期設定の後に必要に応じ
てご確認ください。

その他の設定

Windows Update	41
RAID 設定	42
マルチディスク	43
iSCSI 設定	46
日時設定	50
コンピューター名 / ドメイン名の変更	51
フォーマット	52
IP アドレス設定	53
パスワード変更	54
メール設定	55
Func ボタン設定	56
バックアップ設定	57
回復	60
ユーザー数制限	64
アクセス許可	65
シャドウコピー設定	66
クォータ管理	69
DFS 設定	73
データ重複除去	80
記憶域プールと仮想ディスク	83
ボリュームを作成する	87
NIC チーミング	89

その他の情報

故障時の対応や、その他本
製品の資料情報です。
必要に応じてご確認ください。

故障時の対応

カートリッジの交換方法	90
システムリカバリーする	94

資料

出荷時設定	96
ランプの状態	96
ログ、メール一覧	97
ハードウェア仕様	98
ZWS Manager	99
対応ソフトウェア	103
アフターサービス	107
ハードウェア保証規定	113

使う前に

安全のために

お使いになる方への危害、財産への損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくための注意事項を記載しています。ご使用の際には、必ず記載事項をお守りください。

● 警告および注意表示

 危険	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険が生じます。
 警告	この表示の注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことがあります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

● 絵記号の意味

 禁止
 指示を守る

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

危険

本製品を修理・改造・分解しない



火災や感電、破裂、やけど、動作不良の原因になります。

警告

雷が鳴り出したら、本製品や電源コードには触れない



感電の原因になります。

故障や異常のまま、つながない



本製品に故障や異常がある場合は、必ずつないでいる機器から取り外してください。そのまま使うと、発火・感電・故障の原因になります。

AC アダプターや本製品をぬらしたり、水気の多い場所で使わない



水や洗剤などが AC アダプターや本製品にかかると、隙間から浸み込み、発火・感電の原因になります。

- ・お風呂場、雨天、降雪中、海岸、水辺でのご使用は、特にご注意ください。
- ・水の入ったもの（コップ、花びんなど）を上置きしないでください。
- ・万一、AC アダプターや本製品がぬれてしまった場合は、絶対に使用しないでください。

本製品の小さな部品を乳幼児の手の届くところに置かない



誤って飲み込み、窒息や胃などのへ障害の原因になります。

万一、飲み込んだと思われる場合は、ただちに医師にご相談ください。

本製品の周辺に放熱を妨げるような物を置かない



火災の原因になります。

本製品の取り付け、取り外し、移動は、必ず本製品の電源を切り、コンセントから電源コードを抜いてからおこなう



電源コードを抜かずにおこなうと、感電の原因になります。

決められた電源で使用する



所定以外の電源で、本製品を使用すると火災・感電の原因になります。

煙がでたり、変なにおいや音がしたら、すぐに使うのを止める



そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

警告 ●電源 (AC アダプター・コード・プラグ) について

AC アダプターや電源コードは、添付品または指定品のもの以外を使わない



電源コードから発煙したり、発火の原因になります。

添付の AC アダプターや電源コードは、他の機器につながらない



発火や感電の原因になります。
添付の AC アダプターや電源コードは、本製品専用です。

AC100V (50/60Hz) 以外のコンセントにつながらない



発火、発熱のおそれがあります。

コンセントまわりは定期的に掃除する



長期間電源プラグを差し込んだままのコンセントでは、つもったホコリが湿気などの影響を受けて、発火の原因になります。(トラッキング現象)
トラッキング現象防止のため、定期的に電源プラグを抜いて乾いた布で電源プラグをふき掃除してください。

熱器具のそばに配線しない



電源コード被覆が破れ、火災や感電、やけどの原因になります。

電源コードや AC アダプターにものをせたり、引っ張ったり、折り曲げ・押しつけ・加工などはない



電源コードがよじれた状態や折り曲げた状態で使用しないでください。
電源コードの芯線 (電気の流れるところ) が断線したり、ショートし、発火・感電の原因になります。

煙がでたり、変なおいや音がしたら、すぐにコンセントから電源プラグを抜く



そのまま使うと発火・感電の原因になります。

ゆるいコンセントにつながらない



電源プラグは、根元までしっかりと差し込んでください。根元まで差し込んでみがあるコンセントにはつながらないでください。発熱して発火の原因になります。

じゅうたん、スポンジ、ダンボール、発泡スチロールなど、保温・保湿性の高いものの近くで使わない



発火の原因になります。

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない



電源プラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると傷が付き、火災や感電の原因になります。

テーブルタップを使用する時は定格容量以内で使用する、たこ足配線はしない



テーブルタップの定格容量 (1500W などの記載) を超えて使用するとテーブルタップが過熱し、発火の原因になります。

注意

本製品を踏まない



破損し、ケガの原因となります。特に、小さなお子様にはご注意ください。

取り付け、取り外しの際は手袋をつける



ハンダ付けの跡やエッジ部分などがとがっている場合があります。誤って触れると、ケガをするおそれがあります。

人が通行するような場所に配線しない



足を引っ掛けると、ケガの原因になります。

使用上のご注意

《重要》データバックアップのお願い

本製品は精密機器です。突然の故障等の理由によってデータが消失する場合があります。

万一に備え、本製品内に保存された重要なデータについては、必ず定期的に「バックアップ」をおこなってください。

本製品または接続製品の保存データの破損・消失などについて、弊社は一切の責任を負いません。また、弊社が記録内容の修復・復元・複製などをする事もできません。なお、何らかの原因で本製品にデータ保存ができなかった場合、いかなる理由であっても弊社は一切その責任を負いかねます。

バックアップとは

本製品に保存されたデータを守るために、別の記憶媒体（HDD・BD・DVD など）にデータの複製を作成することです。（データを移動させることは「バックアップ」ではありません。同じデータが2か所にあることを「バックアップ」と言います。）

万一、故障や人為的なミスなどで、一方のデータが失われても、残った方のデータを使えますので安心です。不測の事態に備えるために、必ずバックアップを行ってください。

最新のファームウェアをご利用ください

本製品のハードウェア保証適用のために、ファームウェアまたはソフトウェアは常に弊社が提供する最新版にアップデートしてご利用ください。最新版でない場合、保証適用を受けられない場合もあります。

本製品を廃棄や譲渡などされる際のご注意

- ハードディスクに記録されたデータは、OS 上で削除したり、ハードディスクをフォーマットするなどの作業をおこなっただけでは、特殊なソフトウェアなどを利用することで、データを復元・再利用できてしまう場合があります。その結果として、情報が漏洩してしまう可能性もありますので、情報漏洩などのトラブルを回避するために、データ消去のソフトウェアやサービスをご利用いただくことをおすすめします。

※ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくハードディスクを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があります。

- 本製品を廃棄する際は、地方自治体の条例にしたがってください。

使う前

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

その他のご注意

- 動作中に本製品や外付HDDの電源を切らないでください。故障の原因になったり、データを消失するおそれがあります。
- 本製品はローカルネットワーク上でご利用ください。本製品にグローバルIPアドレスを割り当て、直接インターネットに公開すると非常に危険です。ルーターを設置するなどして、インターネットから攻撃を受けないようにするなど、お客様にてセキュリティ確保をお願いいたします。
- 動作確認済み以外のソフトウェアは、インストール（利用）しないでください。本製品の安定運用に影響を及ぼすおそれがあります。
動作確認済みのソフトウェアは以下の弊社ホームページをご確認ください。
http://www.iodata.jp/product/hdd/taiou/landisk_soft.htm
- 本製品を以下のような機能を設定して、利用することはできません。
 - ・ファイアウォール、VPN、Web キャッシュの役割
 - ・メールサーバー
 - ・認証サーバー（ドメインコントローラー等）
 - ・ネットワーク・インフラストラクチャ・サービス（DNS、WINS 等）
 - ・ネットワーク負荷分散
 - ・クラスタリング
- 本製品は「休止」「スリープ」には対応しておりません。

お手入れについて

本製品についた汚れなどを落とす場合は、本製品の電源を切り、電源コードを抜いてから、柔らかい布で乾拭きしてください。

- 汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布をひたして、よく絞ってから汚れを拭き取り、最後に乾いた布で拭く。
- ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使わない。変質したり、塗装をいためたりすることがあります。
- 市販のクリーニングキットは使わない。

JIS C 61000-3-2 適合品

4 ドライブモデル、6 ドライブモデルは、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

内容物を確認する

- | | |
|--------------------------------------|--|
| ☐ 本製品 (1 台) | ☐ LAN ケーブル (2 本) |
| ☐ 電源コード (1 本) | ☐ (2 ドライブモデルのみ) AC アダプター (1 個) |
| ☐ ロックキー (2 個) | ☐ サポート DVD (1 枚) ☒ 管理マニュアル (本書) |

ユーザー登録はこちら…<https://ioportal.iodata.jp/>

ユーザー登録にはシリアル番号 (S/N) が必要となりますので、メモしてください。
シリアル番号 (S/N) は本製品貼付のシールに印字されている 12 桁の英数字です。
(例: ABC1234567ZX)



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

動作環境

設定に必要な環境

本製品の設定を行うには、以下のどちらかの環境が必要です。

- 環境① Windows リモートデスクトップ接続可能なパソコン
(Windows 10、Windows 8.1、Windows 8、Windows 7、Windows Vista)
- 環境② VGA コネクターを搭載したパソコン用ディスプレイ、USB 接続のキーボード、
USB 接続のマウス (環境①が無い場合)

対応機種

本製品は、「LAN インターフェイスを搭載し、TCP/IP が正常に動作する機器」に対応しています。以下の機種のみサポート対象となります。

Windows パソコン	Windows 10(32/64 ビット版)	Windows 8.1(32/64 ビット版)
	Windows 8(32/64 ビット版)	Windows 7(32/64 ビット版)
	Windows Vista(32/64 ビット版)	Windows Server 2012/R2 ※1
	Windows Server 2008/R2 ※2	Windows Server 2003 SP1/R2 ※3
Mac	Mac OS 10.5 ~ 10.10 ※4	

※ 1 フルインストールのみ対応となります。

※ 2 Standard / Enterprise のみ対応、Server Core モードには対応していません。

※ 3 Standard (32 ビット) / Enterprise (32 ビット) のみ対応。

弊社製ソフトウェア「クローン for Windows」を使用しての、データ移行のみ対応です。

※ 4 SMB 接続のみでの対応となります。Time Machine 機能は利用できません。

ご注意

- 本製品および別売オプション HDD 以外のご利用はサポート対応外となります。
- 本製品の設定には、Windows のリモートデスクトップ機能を利用しています。Mac OS など他のパソコンからの設定はおこなえません。上記「本製品の設定に必要な環境」の「環境②」をご用意ください。
- 本製品は、RAID 構成により、ハードディスクの故障によるデータの破損およびシステムダウンを防ぐことはできませんが、ウィルスの感染やユーザーの操作ミス、使用中の停電などのトラブルに起因するデータ損失を防ぐことはできません。USB 接続した HDD などへのバックアップしてください。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

対応外付 HDD

以下の弊社ホームページをご確認ください。

<http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/hdd.htm>



ご注意

●外付 HDD をはじめて本製品に接続して使用する場合は、必要に応じてフォーマットをおこないます。

対応 UPS

以下の弊社ホームページをご確認ください。

<http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/ups.htm>



※ USB 3.0 ポートは対応しておりません。USB 2.0 ポートに接続してご利用ください。

UPS との電源連動方法について

- ①本製品の電源投入直後より、USB キーボードの [F2] キーを押しつづける
→ BIOS 設定画面が起動します。
- ②カーソルキーで [アドバンスド] → [サウスブリッジ設定] を選び、[Enter] キーを押す
- ③ [G3 後のステート] を選び、[Enter] キーを押す
- ④ [ステート S0] を選び、[Enter] キーを押す
- ⑤ [Esc] キーを 1 回押し、カーソルキーで [終了] → [変更の保存を終了] を選び、
[Enter] キーを 2 回押す

以上で設定完了です。電源が復旧すれば本製品は自動的に起動します。

※確認する場合は、いったん本製品の電源を OFF にしたあと、電源ケーブルを取り外します。

再び電源ケーブルを接続すると、約 5 秒で自動起動が開始されます。

対応ソフトウェア

以下の弊社ホームページをご確認ください。

<http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/soft.htm>



オプション HDD

弊社製 HDLZ-OPR シリーズ

※詳細な情報は、以下の弊社ホームページをご確認ください。

http://www.iodata.jp/pio/io/nas/landisk/nas_hdd.htm



ご注意

- オプション HDD には、システムはインストールされていません。
- 本製品の容量を後から増やすことはできません。

使う前に

導入する

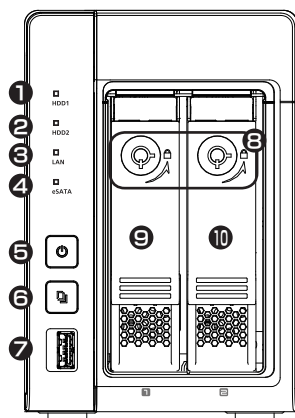
その他の設定

故障時の対応

資料

各部の名称・機能

2ドライブモデル 前面



① HDD1 ランプ	緑点灯	HDD 正常認識時
	緑点滅	HDD アクセス時
② HDD2 ランプ	赤点灯	HDD エラー時
	消灯	HDD 未接続時
③ LAN ランプ	橙点滅	LAN1/LAN2 アクセス時
	消灯	LAN1/LAN2 未接続時
④ eSATA ランプ	橙点滅	eSATA HDD アクセス時
	消灯	eSATA HDD 未接続時 / 非アクセス時
⑤ 電源ボタン STATUS ランプ		短押し（1 秒程度）→本製品の電源を ON/OFF します。 ※電源 ON の状態で 3 秒以上押し続けると強制電源 OFF になります。 3 秒以上電源ボタンを押し続けしないでください。 また、本製品の状態を示します。 詳しくは、【ランプの状態】（96 ページ）をご覧ください。
⑥ Func ボタン USB ランプ	ボタン	3 秒以上押すとあらかじめ登録したプログラムを実行できます。また、エラー発生時にブザーが鳴りつづけている時、2 秒以内押すとブザーを停止します。
	青点灯	USB 機器認識時
	消灯	USB 機器未接続時
⑦ USB ポート 1		増設用 USB ポートです。
⑧ カートリッジ固定ロック		カートリッジをロック / アンロックします。
⑨ HDD1		カートリッジを接続します。
⑩ HDD2		脱着レバーは、カートリッジを取り出す際に利用します。

使う前に

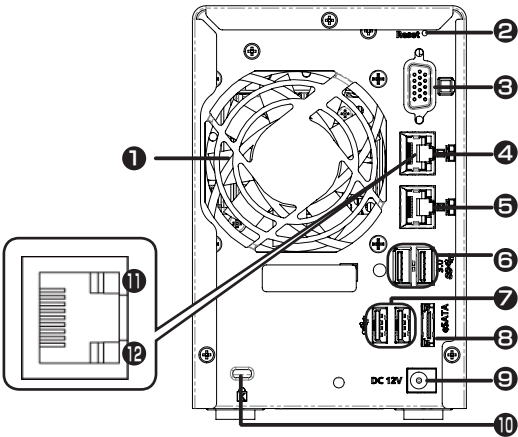
導入する

その他の設定

故障時の対応

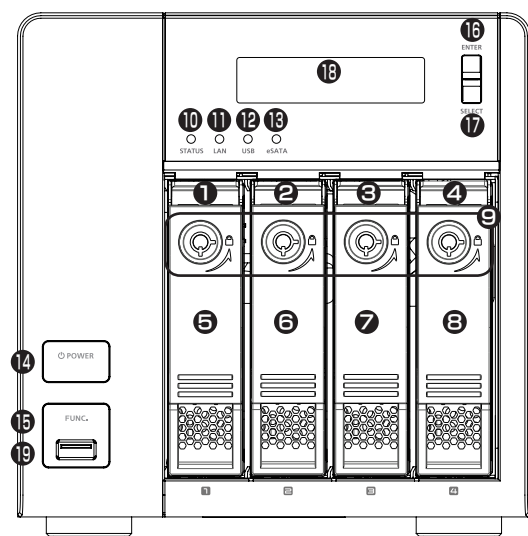
資料

2ドライブモデル 背面



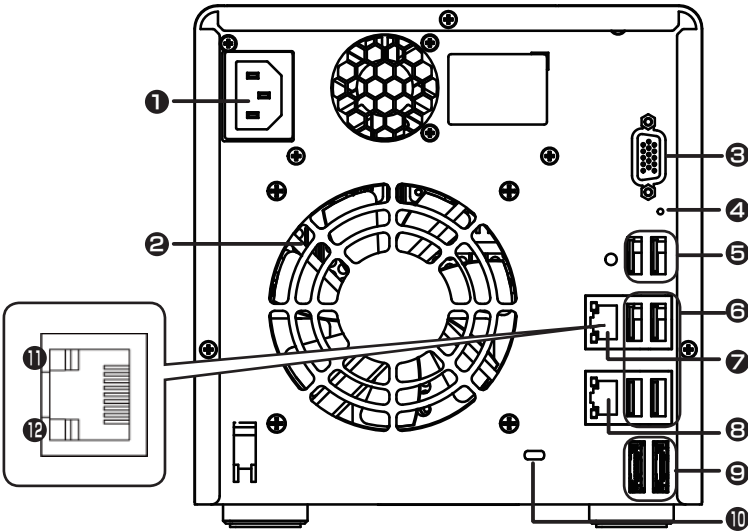
①ファン		冷却用ファンです。ふさがないでください。
②Reset スイッチ		使用しません。
③VGA コネクター		ディスプレイを接続できます。
④LAN ポート1		添付の LAN ケーブルを接続します。
⑤LAN ポート2		添付の LAN ケーブルを接続します。
⑥USB 3.0 ポート1、2		外付 HDD などを接続します。
⑦USB ポート2、3		外付 HDD などを接続します。
⑧eSATA ポート		外付 HDD などを接続します。
⑨DC-IN		添付の AC アダプターを接続します。
⑩セキュリティスロット		盗難防止用のロックケーブルを取り付けることができます。
⑪ ACT/LINK ランプ	橙点灯	LINK 中
	橙点滅	データを送受信中
	消灯	未接続
⑫ 1000/100/10 ランプ	緑点灯	1000BASE-T で接続中
	赤点灯	100BASE-TX で接続中
	消灯	未接続、または 10BASE-T で接続中

4 ドライブモデル 前面



① HDD1 ランプ	緑点灯	HDD 正常認識時
② HDD2 ランプ	緑点滅	HDD アクセス時
③ HDD3 ランプ	赤点灯	HDD エラー時
④ HDD4 ランプ	消灯	HDD 未接続時
⑤ HDD1 ⑥ HDD2 ⑦ HDD3 ⑧ HDD4		カートリッジを接続します。 脱着レバーは、カートリッジを取り出す際に利用します。
⑨ カートリッジ固定ロック		カートリッジをロック / アンロックします。
⑩ STATUS ランプ		本製品の状態を示します。 詳しくは、【ランプの状態】(96 ページ) をご覧ください。
⑪ LAN ランプ	橙点滅 消灯	LAN1/LAN2 アクセス時 LAN1/LAN2 未接続時
⑫ USB ランプ	青点灯 消灯	USB 機器認識時 USB 機器未接続時
⑬ eSATA ランプ	橙点滅 消灯	eSATA1/eSATA2 HDD アクセス時 eSATA デバイス未接続時 / 非アクセス時
⑭ 電源ボタン		短押し (1 秒程度) → 本製品の電源を ON/OFF します。 ※電源 ON の状態で 3 秒以上押し続けると強制電源 OFF になります。 3 秒以上電源ボタンを押し続けしないでください。
⑮ Func. ボタン		3 秒以上押すとあらかじめ登録したプログラムを実行することができます。また、エラー発生時にブザーが鳴りつづけている時、2 秒以内押すとブザーを停止します。
⑯ ENTER ボタン		LCD の表示を ON/OFF します。
⑰ SELECT ボタン		LCD の表示を変更します。 詳しくは、【ランプの状態】(96 ページ) をご覧ください。
⑱ 液晶ディスプレイ		本製品の情報を表示します。 表示内容については、【ランプの状態】(96 ページ) をご覧ください。
⑲ USB ポート 1		増設用 USB ポートです。

4ドライブモデル 背面



① AC-IN		添付の電源コードを接続します。
② ファン		冷却用ファンです。ふさがないでください。
③ VGA コネクター		ディスプレイを接続できます。
④ Reset スイッチ		使用しません。
⑤ USB 3.0 ポート 1、2		外付 HDD などを接続します。
⑥ USB ポート 2 ～ 5		外付 HDD などを接続します。
⑦ LAN ポート 1		添付の LAN ケーブルを接続します。
⑧ LAN ポート 2		添付の LAN ケーブルを接続します。
⑨ eSATA ポート 1、2		外付 HDD などを接続します。
⑩ セキュリティスロット		盗難防止用のロックケーブルを取り付けることができます。
⑪ ACT/LINK ランプ	橙点灯	LINK 中
	橙点滅	データを送受信中
	消灯	未接続
⑫ 1000/100/10 ランプ	緑点灯	1000BASE-T で接続中
	赤点灯	100BASE-TX で接続中
	消灯	未接続、または 10BASE-T で接続中

使う前に

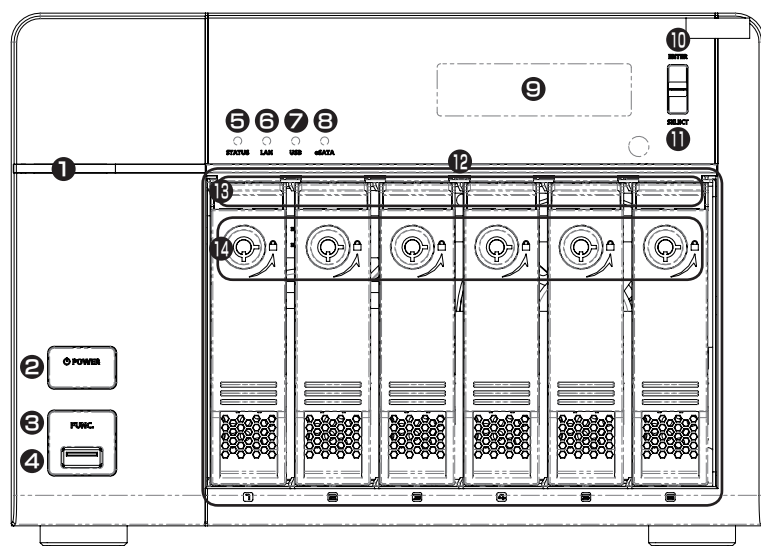
導入する

その他の設定

故障時の対応

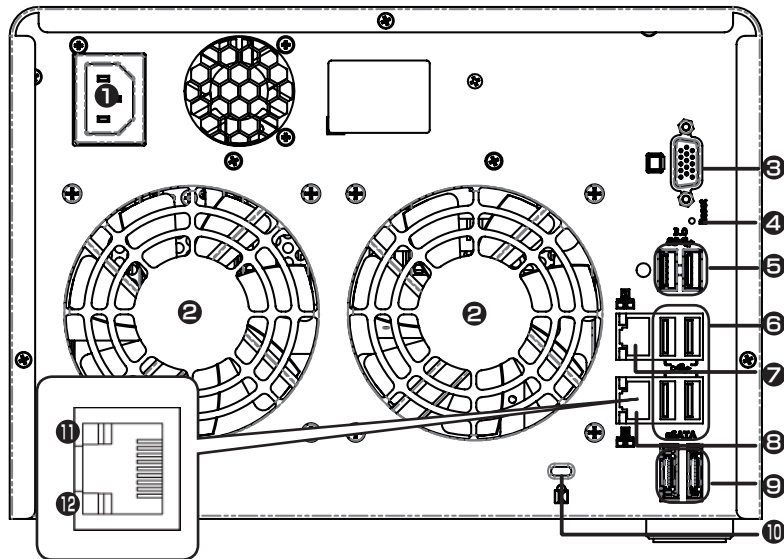
資料

6ドライブモデル 前面



① Power ランプ	緑点灯	システム稼働中
	緑点滅	システム起動中 / 終了中
	消灯	電源 OFF、システムなし
② 電源ボタン		短押し (1 秒程度) → 本製品の電源を ON/OFF します。 ※電源 ON の状態で 3 秒以上押し続けると強制電源 OFF になります。 3 秒以上電源ボタンを押し続けしないでください。
③ Func ボタン		3秒以上押すとあらかじめ登録したプログラムを実行できます。また、エラー発生時にブザーが鳴りつづけている時、2秒以内押すとブザーを停止します。
④ USB ポート 1		増設用 USB ポートです。
⑤ STATUS ランプ		本製品の状態を示します。 詳しくは、【ランプの状態】(96 ページ) をご覧ください。
⑥ LAN ランプ	橙点滅	LAN1/LAN2 アクセス時
	消灯	LAN1/LAN2 未接続時
⑦ USB ランプ	青点灯	USB 機器認識時
	消灯	USB 機器未接続時
⑧ eSATA ランプ	橙点滅	eSATA1/eSATA2 HDD アクセス時
	消灯	eSATA デバイス未接続時 / 非アクセス時
⑨ 液晶ディスプレイ		本製品の情報を表示します。 表示内容については、【ランプの状態】(96 ページ) をご覧ください。
⑩ ENTER ボタン		LCD の表示を ON/OFF します。
⑪ SELECT ボタン		LCD の表示を変更します。 詳しくは、【ランプの状態】(96 ページ) をご覧ください。
⑫ HDD 1 ~ 6		HDD カートリッジを接続します。 脱着レバーは、HDD カートリッジを取り出す際に利用します。
⑬ HDD ランプ 1 ~ 6	緑点灯	HDD 正常認識時
	緑点滅	HDD アクセス時
	赤点灯	HDD エラー時
	消灯	HDD 未接続時
⑭ カートリッジ固定ロック		HDD カートリッジをロック / アンロックします。

6ドライブモデル 背面



① AC-IN		添付の電源コードを接続します。
② ファン		冷却用ファンです。ふさがないでください。
③ VGA コネクター		ディスプレイを接続できます。
④ Reset スイッチ		使用しません。
⑤ USB 3.0 ポート 1、2		外付 HDD などを接続します。
⑥ USB ポート 2～5		外付 HDD などを接続します。
⑦ LAN ポート 1		添付の LAN ケーブルを接続します。
⑧ LAN ポート 2		添付の LAN ケーブルを接続します。
⑨ eSATA ポート 1、2		外付 HDD などを接続します。
⑩ セキュリティスロット		盗難防止用のロックケーブルを取り付けることができます。
⑪ ACT/LINK ランプ	橙点灯	LINK 中
	橙点滅	データを送受信中
	消灯	未接続
⑫ 1000/100/10 ランプ	緑点灯	1000BASE-T で接続中
	赤点灯	100BASE-TX で接続中
	消灯	未接続、または 10BASE-T で接続中

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

導入する

【初期設定

設定方法を選ぶ

本製品の設定は、Windows のリモートデスクトップを使用します。
また、DHCP サーバーの有無により手順が異なります。
ご利用の環境をご確認の上、該当する手順をご覧ください。

Windows Vista 以降のパソコンと DHCP サーバーがある場合
【設定方法①】（17 ページ）

Windows Vista 以降のパソコンがあり、DHCP サーバーがない場合
【設定方法②】（19 ページ）

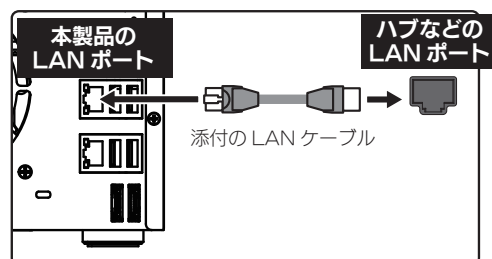
ネットワークを利用せずにセットアップする場合
【設定方法③】（22 ページ）

設定方法①

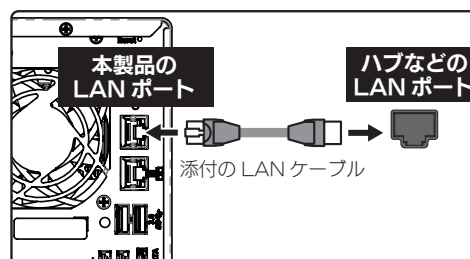
ネットワーク上に、Windows Vista 以降のパソコンと DHCP サーバーがある場合の設定手順です。

1 添付の LAN ケーブルを本製品とハブにつなぐ

▼ 4 ドライブモデル (6 ドライブモデルも同様)



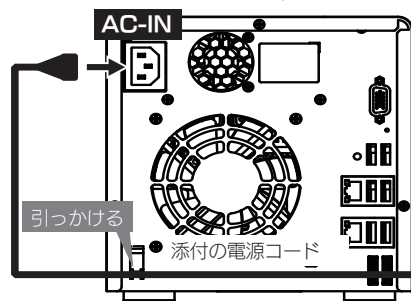
▼ 2 ドライブモデル



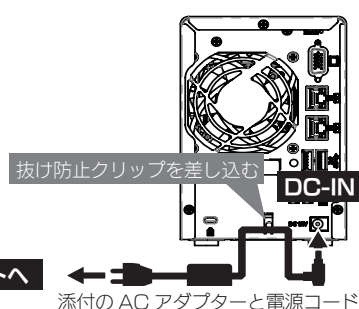
2 添付の電源コード (AC アダプター) を本製品とコンセントにつなぐ

※ケーブルフックに引っかけます。

▼ 4 ドライブモデル (6 ドライブモデルも同様)



▼ 2 ドライブモデル

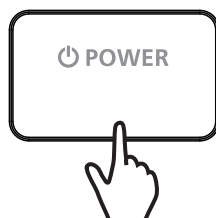


コンセントへ

添付の AC アダプターと電源コード

3 前面の電源ボタンを押す

▼ 4 または 6 ドライブモデル



▼ 2 ドライブモデル



ご注意

- 動作中にシャットダウンを完了せずに、電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】(40 ページ) をご覧ください。
- 必ず、LAN ケーブルが確実に接続されていることを確認してから本製品の電源を入れてください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

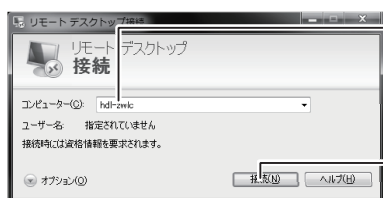
資料

4 [リモートデスクトップ接続] を起動する

[リモートデスクトップ接続] の起動方法

- Windows 10 の場合
[スタート]→[すべてのアプリ]→[Windows アクセサリ]→[リモートデスクトップ接続]
をクリック
- Windows 8 の場合
[スタート]→[リモートデスクトップ接続] をクリック
- Windows 7、Vista の場合
[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[リモートデスクトップ接続] を
クリック

5



① コンピューター名を入力

コンピューター名について

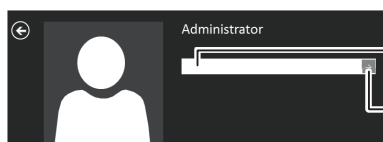
出荷時設定では、hdl-zwlc を入力します。

② [接続] をクリック

接続できない場合

【設定方法③】(22 ページ) をお試しください。

6



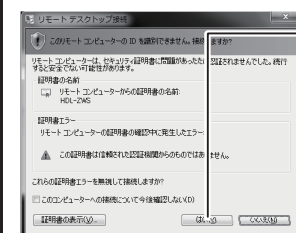
① [admin] を入力

② [→] をクリック

補足事項

- ユーザーが複数ある場合は、[Administrator]
を選択します。
- 出荷時パスワードは「admin」です。
Administrator のパスワードを変更した場合は、
変更後のパスワードを入力してください。

以下のような画面が表示された場合



[はい] をクリック

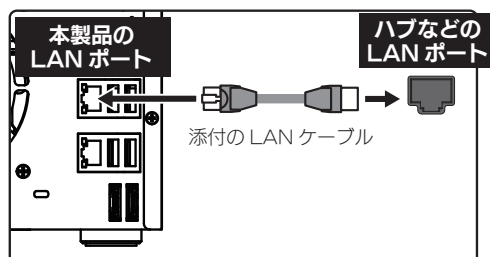
ログオンに成功すると、初期画面が開きます。この画面から設定をおこないます。
次に【NarSuS に登録する】(24 ページ) へお進みください。

設定方法②

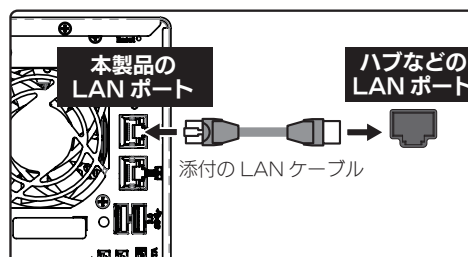
ネットワーク上に、Windows Vista 以降のパソコンがあり、DHCP サーバーがない場合の設定手順です。

1 添付の LAN ケーブルを本製品とハブにつなぐ

▼ 4 ドライブモデル (6 ドライブモデルも同様)



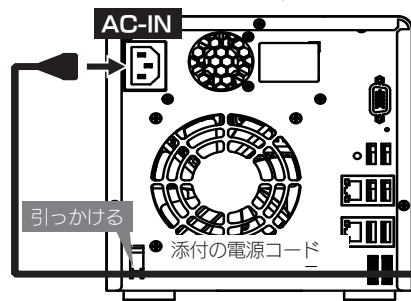
▼ 2 ドライブモデル



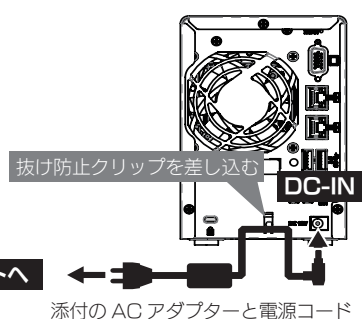
2 添付の電源コード (AC アダプター) を本製品とコンセントにつなぐ

※ケーブルフックに引っかけます。

▼ 4 ドライブモデル (6 ドライブモデルも同様)



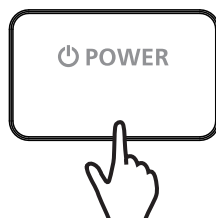
▼ 2 ドライブモデル



添付の AC アダプターと電源コード

3 前面の電源ボタンを押す

▼ 4 または 6 ドライブモデル



▼ 2 ドライブモデル



ご注意

- 動作中にシャットダウンを完了せずに、電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】(40 ページ) をご覧ください。
- 必ず、LAN ケーブルが確実に接続されていることを確認してから本製品の電源を入れてください。LAN ケーブルを接続する前に本製品の電源を入れると、正しくネットワークに参加できなくなります。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

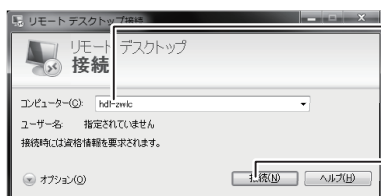
- 4 設定用パソコンの現在の IP アドレスを確認し、メモする
※後で、現在の IP アドレスに戻す必要がありますので、必ずメモしてください。
- 5 設定用パソコンの IP アドレスを [IP アドレスを自動的に取得する] に設定する

6 [リモートデスクトップ接続] を起動する

[リモートデスクトップ接続] の起動方法

- Windows 10 の場合
[スタート]→[すべてのアプリ]→[Windows アクセサリ]→[リモートデスクトップ接続]をクリック
- Windows 8 の場合
[スタート]→[リモートデスクトップ接続]をクリック
- Windows 7、Vista の場合
[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[リモートデスクトップ接続]をクリック

7



① コンピューター名を入力

コンピューター名について

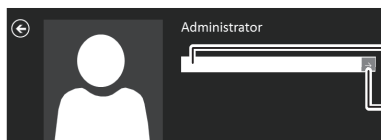
出荷時設定では、hdl-zwlc を入力します。

② [接続] をクリック

接続できない場合

【設定方法③】(22 ページ) をお試しください。

8



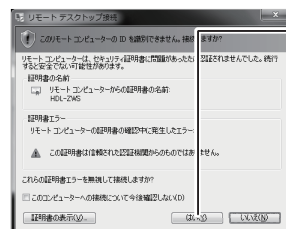
① [admin] を入力

② [→] をクリック

補足事項

- ユーザーが複数ある場合は、[Administrator] を選択します。
- 出荷時パスワードは「admin」です。
Administrator のパスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

以下のような画面が表示された場合



[はい] をクリック

ログオンに成功すると、初期画面が開きます。
この画面から設定をおこないます。
次に IP アドレスの設定をおこないます。次ページへお進みください。

9 本製品の IP アドレスを手順4でメモした IP アドレスを参考にネットワークに適した値に変更する

10 いったんリモートデスクトップ画面を閉じる
※ IP アドレスを変更したため、通信できなくなります。

11 設定用パソコンの IP アドレスを元に戻す

次に【NarSuS に登録する】(24 ページ) へお進みください。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

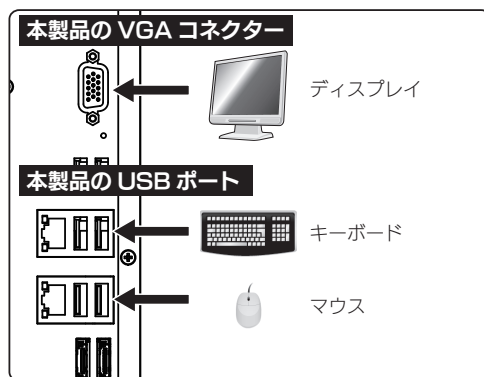
資料

設定方法③

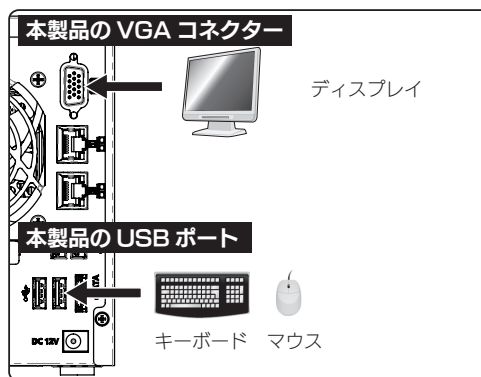
ネットワークを利用せずにセットアップをおこなう場合の設定方法です。

- 1 ① USB ポートにキーボード、マウスをつなぐ
② VGA コネクターにディスプレイをつなぐ

▼ 4 ドライブモデル (6 ドライブモデルも同様)

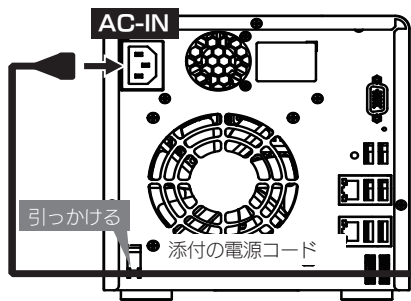


▼ 2 ドライブモデル

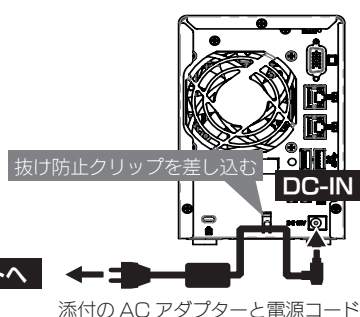


- 2 添付の電源コード (AC アダプター) を本製品とコンセントにつなぐ
※ケーブルフックに引っかけます。

▼ 4 ドライブモデル (6 ドライブモデルも同様)

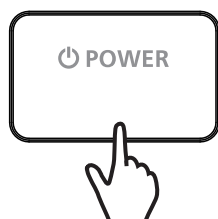


▼ 2 ドライブモデル



- 3 前面の電源ボタンを押す

▼ 4 または 6 ドライブモデル



▼ 2 ドライブモデル



ご注意

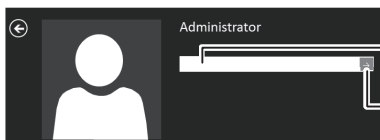
- 動作中にシャットダウンを完了せずに、電源コードを抜いたり、スイッチ付き AC タップのスイッチを OFF にするなどして電源を切らないでください。故障の原因になったり、データが消失する恐れがあります。電源の切り方については、【電源を切る場合】(40 ページ) をご覧ください。

4

サインインするには Ctrl + Alt + Del キーを押してください。

キーボードの
[Ctrl]+[Alt]+[Delete] キーを押す

5

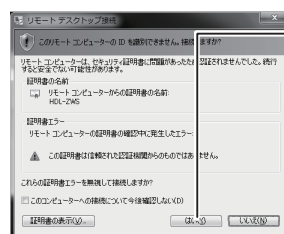


① [admin] を入力

② [→] をクリック

補足事項

- ユーザーが複数ある場合は、[Administrator] を選択します。
- 出荷時パスワードは「admin」です。
Administrator のパスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力してください。

以下のような画面が表示された場合

[はい] をクリック

ログオンに成功すると、初期画面が開きます。この画面から設定をおこないます。
次に【NarSuS に登録する】(24 ページ) へお進みください。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

NarSuS に登録する

NarSuS（ナーサス）とは？

NarSuS は、24 時間 365 日、あなたの NAS を見守る安心サービスです。NAS にトラブルが発生したら、自動的に NarSuS データセンターに状態が送信されます。

NarSuS データセンターは、それを受けてユーザーにメールでトラブルをお知らせします。画面に表示される対処方法にしたがって作業すればトラブル対策ができます。

- 問題が発生したら、メールでお知らせ。わかりやすい管理画面で、設置した NAS の状態を一括管理できます。
- 万一のトラブル時は、対処方法を管理画面で確認できます。あわてずに適切な対処ができます。
- RAID の状態やシステム情報、NAS の温度や利用容量などをログやグラフで表示できます。

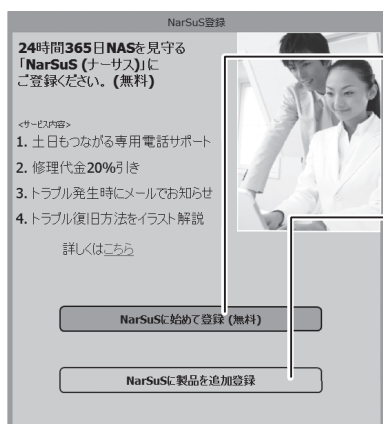
セキュリティへの配慮

- 通信は NAS から NarSuS データセンターへ的一方通行であり、NarSuS データセンターから NAS に接続しません。NAS から送信するデータは NAS の稼働情報であり、NAS 内のユーザーデータは一切送信しません。
- NarSuS の通信経路は HTTPS を使って暗号化されています。
- データセンターは国内のデータセンター専用施設に設置されており、情報セキュリティに十分な配慮をおこなっています。

ご注意

- 本機能を利用するためには、常時ネットワークに接続しておく必要があります。
- 本機能は、IPv4 ネットワークでのみ使用できます。
- インターネットエクスプローラーでご利用の場合、あらかじめ "https://www.narsus.jp" を [インターネットオプション] → [セキュリティ] から [信頼済みサイト] に登録しておいてください。

1 ※本製品へのログオンに成功したら、以下のような画面が表示されます。



● NarSuS に LAN DISK を登録したことがない場合
[NarSuS にはじめて登録（無料）]
をクリック

●すでに他の LAN DISK を登録している場合
[NarSuS に製品を追加登録] を
クリック

※ NarSuS 登録をしてから、本製品の設定をおこなってください。

2



[NarSuS 登録画面を開く] を
クリック

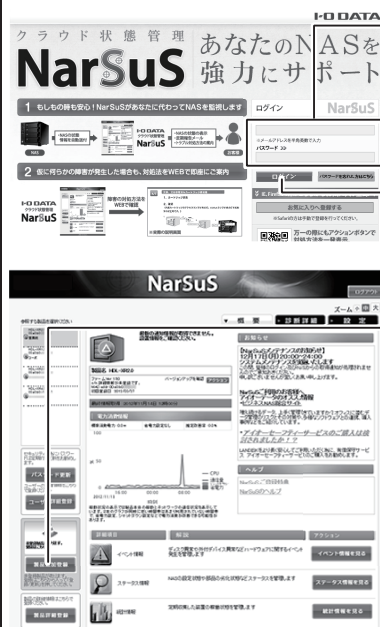
【プロキシサーバー設定】

インターネット接続にプロキシサーバーの設定が必要な場合は、ご利用のネットワーク管理者に設定等をご確認ください。

インターネットに接続できない場合

【インターネットに接続できない環境で NarSuS に登録する】(27 ページ) をご覧ください。

追加で登録する場合



①登録済みの [ID]、[パスワード] を
入力

②[ログイン] をクリック

③画面左下の [製品追加登録] を
クリック

このあと、手順 3 へお進みください。

3

画面の指示にしたがって、必要事項を入力し登録する

※ LAN ポートが複数ある LAN DISK の場合は、「MAC1」の MAC アドレスを入力してください。

4

登録が完了したら、Web ブラウザーを閉じる

登録通知メールが送付されますので、保管しておいてください。

以上で NarSuS 登録は完了です。

次に【ユーザーを作成する】(29 ページ) へお進みください。

使う
前に

導入
する

その
他の
設定

故障
時の
対応

資料

ご注意

●登録に失敗した場合、以下をご確認ください。

- ・本製品がインターネットに接続可能な環境に設置されていること（LAN ケーブルが正しく接続されていること）
- ・プロキシを介してインターネットへ接続する場合は、プロキシが正しく設定されていること
- ・本製品の TCP/IP 設定を手動でおこなっている場合は、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーが正しく設定されていること
- ・お使いの Web ブラウザーのキャッシュ（Cookie）をクリアして再度お試しください。

NarSuS へのログイン方法

方法 1 以下 URL にアクセスしてください。

<https://www.narsus.jp/>

方法 2 ①タスクトレイのアイコンをクリック

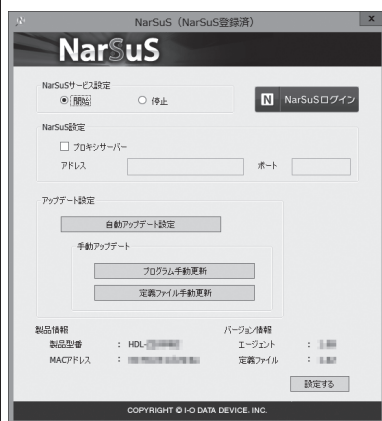


② NarSuS 設定画面右上の

[NarSuS ログイン] ボタンをクリック



NarSuS 設定画面



※アップデート時に再起動する場合があります。ご注意ください。

NarSuS 設定	プロキシの設定が必要な場合、[プロキシサーバー] にチェックをつけ、プロキシサーバーの[アドレス]と[ポート]を入力します。 ※設定内容については、ご利用のネットワーク管理者に確認してください。
アップデート設定	自動アップデート設定 本 NarSuS アプリや、NarSuS のイベント通知の定義ファイルが更新された場合の、自動アップデートについて設定します。 自動アップデートする場合は、実行する曜日、時刻を設定できます。 ※出荷時には、自動アップデートは有効になっています。
プログラム手動更新	クリックすると、本 NarSuS アプリを更新します。
定義ファイル手動更新	クリックすると、NarSuS のイベント通知の定義ファイルを更新します。

利用コードの確認

設定によっては、利用コードを求められます。

NarSuS の Web ページにログインし、本製品を選んだ後、[製品詳細登録] をクリックして、利用コードを確認してください。

NarSuS の利用方法

NarSuS へログイン後、

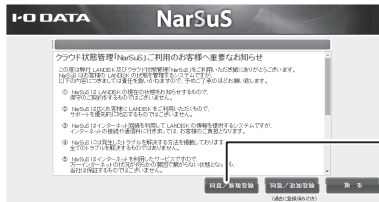
[NarSuS のヘルプ] をクリック



インターネットに接続できない環境で NarSuS に登録する

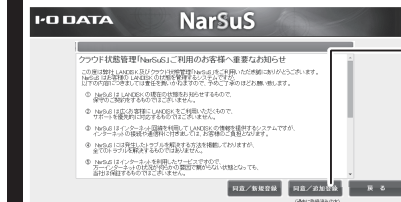
- 1 インターネットに接続できるパソコンから、次の URL にアクセスする
<https://www.narsus.jp/user-reg>

2



内容を確認し、
[同意 / 新規登録] をクリック

追加で登録する場合



① [同意 / 追加登録] をクリック



②登録済みの [ID]、[パスワード] を
入力

③ [ログイン] をクリック

このあと、手順 3 へお進みください。

3

画面の指示にしたがって、必要事項を入力し登録する

※ LAN ポートが複数ある LAN DISK の場合は、「MAC1」の MAC アドレスを入力してください。

4



登録完了画面に表示された
「ご利用コード」をメモする

※登録通知メールが送付されますので、保管しておいてください。

5

本製品にログオンする

6

NarSuS登録

インターネットに接続できない(しない)場合は、NarSuSへの登録は手動となります。またサービスの一部はご利用いただけません。

<ご利用いただけるサービス内容>

1. 土日もちょうどなる専用電話サポート
2. 修理代金20%引き

1. インターネットへ接続できる端末から下記URLで会員登録を行って、「ご利用コード」を取得してください。

<https://www.narsus.jp/user-reg>

製品情報(ユーザ登録時に記入ください)

製品型番	HDX-2000000000
MACアドレス	08:00:27:00:00:00

※シリアル番号は製品本体に貼ってあるシールを
ご確認ください。(12桁の英数字の番号です。)
例) ABCD1234567890

2. 取得した「ご利用コード」を入力

設定する

①メモした「ご利用コード」を入力

②「設定する」をクリック

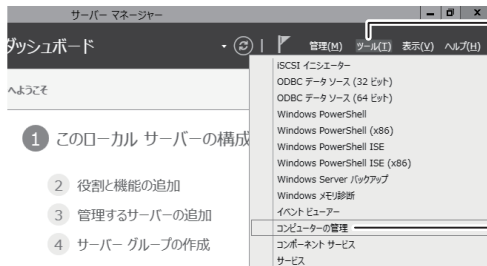
以上で NarSuS 登録は完了です。

次に【ユーザーを作成する】(29 ページ) へお進みください。

ユーザーを作成する

1 [サーバーマネージャー]を開く

2

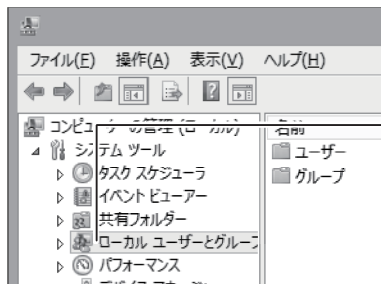


① [ツール] をクリック

- ① このローカル サーバーの構成
- ② 役割と機能の追加
- ③ 管理するサーバーの追加
- ④ サーバー グループの作成

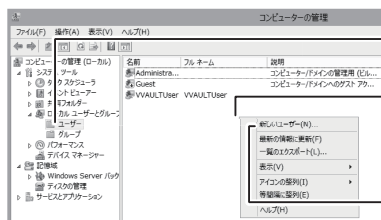
② [コンピューターの管理] をクリック

3



[ローカルユーザーとグループ] をダブルクリック

4

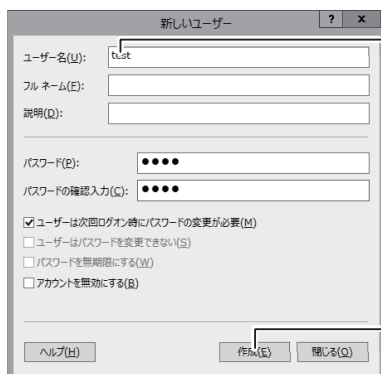


① [ユーザー] をクリック

② 右側のスペースを右クリック

③ [新しいユーザー] をクリック

5



① [ユーザー名] を入力

※他の項目も必要に応じて設定します。

② [作成] をクリック

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

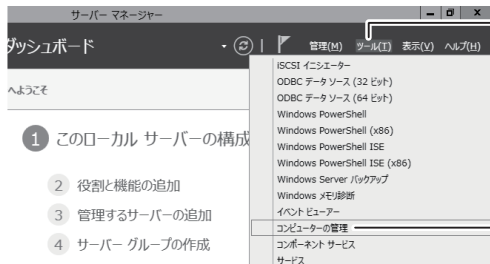
資料

以上で、ユーザーの作成は完了です。
※本製品に登録可能なユーザー数は、無制限です。

グループを作成する

1 [サーバーマネージャー]を開く

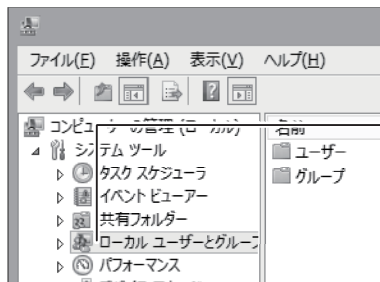
2



① [ツール] をクリック

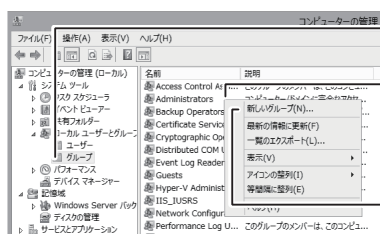
② [コンピューターの管理] をクリック

3



[ローカルユーザーとグループ] をダブルクリック

4



① [グループ] をクリック

② 右側のスペースを右クリック

③ [新しいグループ] をクリック

5

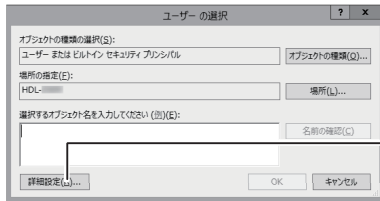


① [グループ名] を入力

※他の項目も必要に応じて設定します。

② [追加] をクリック

6



[詳細設定] をクリック

7

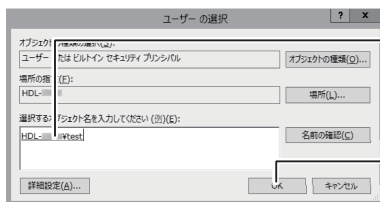


① [検索] をクリック

②グループに登録するユーザーを選択

③ [OK] をクリック

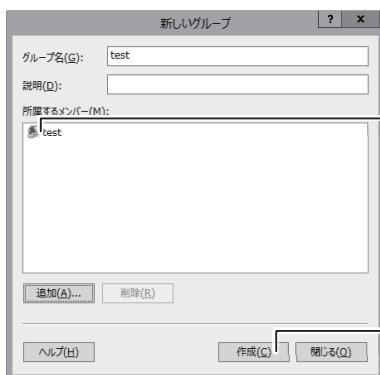
8



①選択したユーザーが表示されていることを確認

② [OK] をクリック

9



①選択したユーザーが表示されていることを確認

② [作成] をクリック

以上で、グループの作成は完了です。

使う前に

導入する

その他の設定

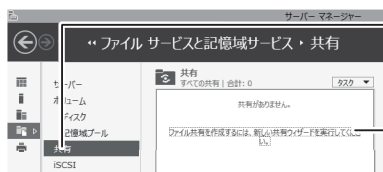
故障時の対応

資料

共有フォルダーを作成する

1 [サーバーマネージャー]→[ファイルサービスと記憶域サービス]を開く

2

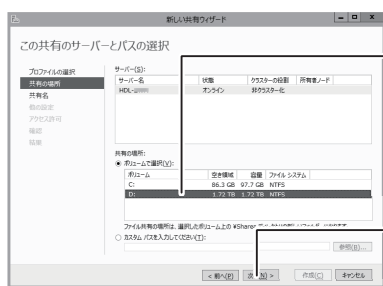


① [共有]をクリック

② [ファイル共有を作成する...]をクリック

※ 2 つ目以降の共有を作成する場合、
[タスク]→[新しい共有]をクリックします。

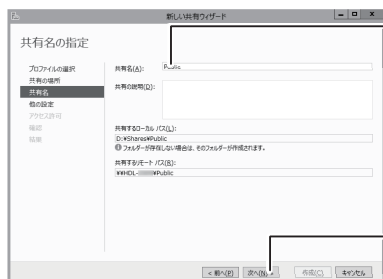
3



① 共有フォルダーを作成するドライブまたはパスを選択

② [次へ]をクリック

4

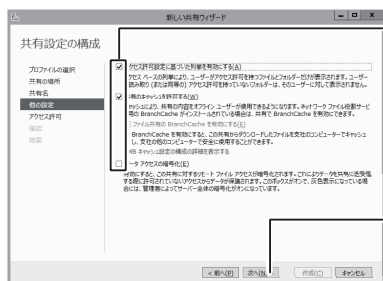


① [共有名]を入力

※他の項目も必要に応じて設定します。

② [次へ]をクリック

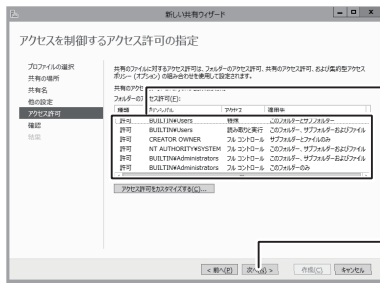
5



① 必要に応じて、共有設定の構成を選択

② [次へ]をクリック

6



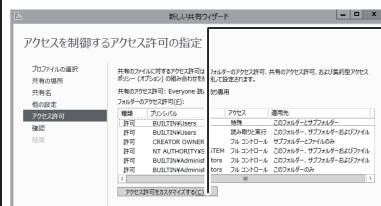
①アクセス許可設定を確認

※アクセス許可設定については、下の【アクセス許可設定を変更する】をご覧ください。

②[次へ]をクリック

アクセス許可設定を変更する

例) すべてのユーザーに読み書きを許可する場合



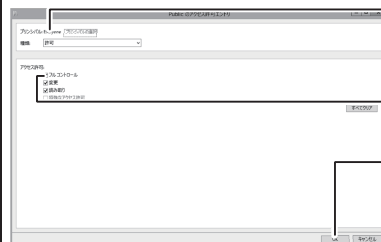
①[アクセス許可をカスタマイズする]をクリック



②[共有]をクリック

③ユーザー [Everyone] を選択

④[編集]をクリック



⑤プリンシパルが [Everyone] になっていることを確認

⑥[フルコントロール]をチェック

⑦[OK]をクリック

以上で設定されました。

7



[作成]をクリック

以上で、共有フォルダーの作成は完了です。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

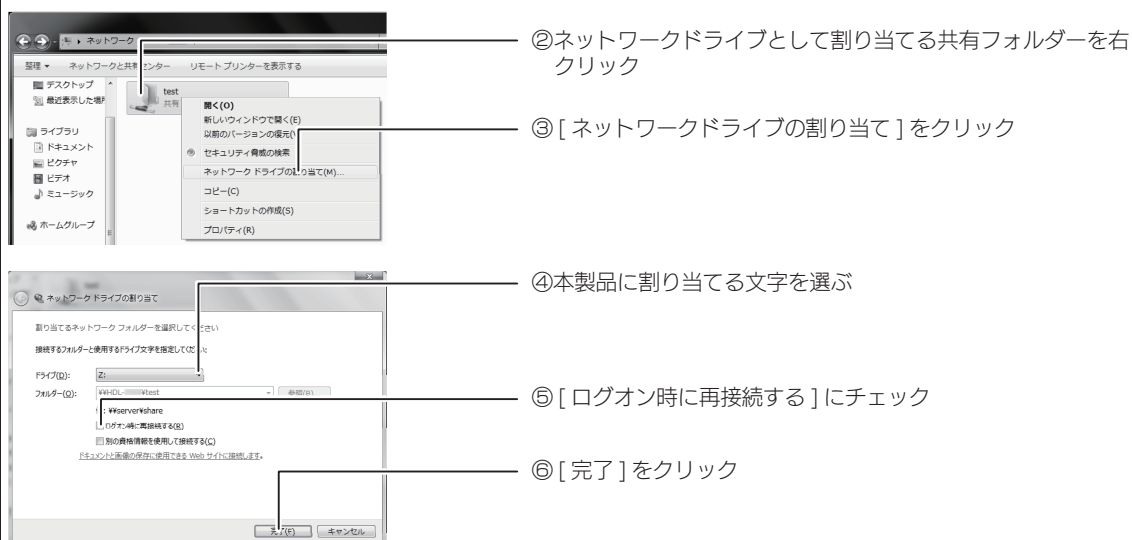
ご注意

- Windows Storage Server 2012 R2 では、ユーザー "Guest" のアカウント初期設定は、" 無効 " になっています。すべてのユーザーからアクセス可能な共有フォルダーを作成する場合、以下の手順にて、ユーザー "Guest" のアカウントを有効にしてください。
- ① [サーバマネージャー] を開き、[ツール] → [コンピューターの管理] を順にクリックします。
- ② [ローカルユーザーとグループ] をクリックします。
- ③ [ユーザー] をクリックし、右側のユーザーが表示されている [Guest] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- ④ [アカウントを無効にする] のチェックを外し、[適用] ボタンをクリックします。

ネットワークドライブの割り当て方法

本製品をネットワーク上から参照する際に、ネットワークドライブとして割り当てておくことができます。

- ① ネットワークに接続されているパソコンから、本製品の共有フォルダーを表示する



これでネットワークドライブの割り当ては完了しました。

[コンピューター] などを開き、割り当てられたドライブが認識されていることをご確認ください。

Active Directory へ参加する

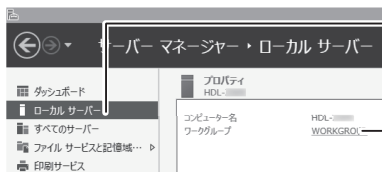
本製品を Active Directory 環境へ参加させる手順の一例です。
ご利用のネットワーク環境に合わせ、必要に応じて設定してください。

ご注意

- 以下の手順の前に、本製品の DNS サーバー設定をおこなう必要があります。
Active Directory ドメイン名を解決可能な DNS サーバーを指定してください。

1 [サーバーマネージャー]を開く

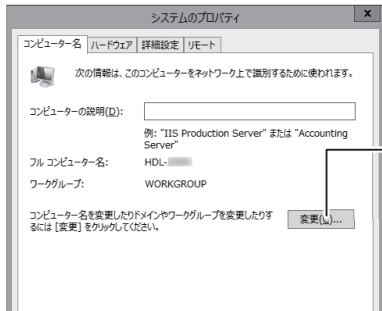
2



① [ローカルサーバー] を
クリック

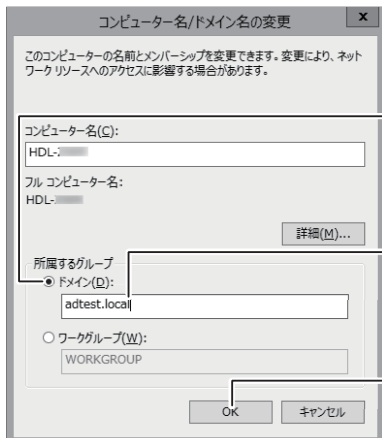
②ワークグループ横の設定値を
クリック

3



[変更] をクリック

4



① [ドメイン] を選択

②ドメイン名を入力

③ [OK] をクリック

使う前に

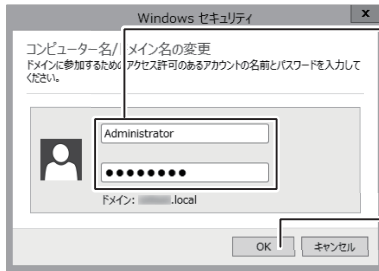
導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

5



①ドメインにアクセス可能な
[ユーザー名]、[パスワード]を
入力

② [OK] をクリック

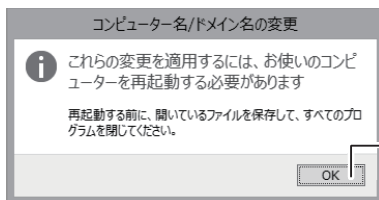
6



[OK] をクリック

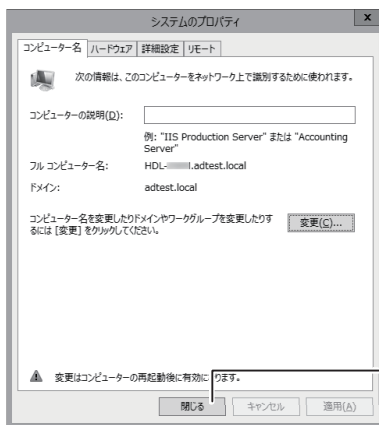
※この画面が表示されない場合は、アカウントが正
しいことをご確認ください。

7



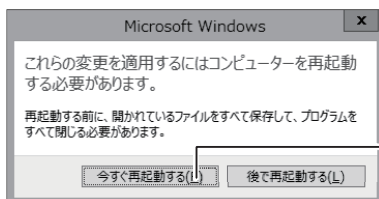
[OK] をクリック

8



[閉じる] をクリック

9



[今すぐ再起動する] をクリック

再起動後、本製品は Active Directory へのログオンができます。
[サーバーマネージャー] から、[ローカルサーバー] をクリックし、ドメイン
欄に参加したドメイン名が表示されていれば完了です。

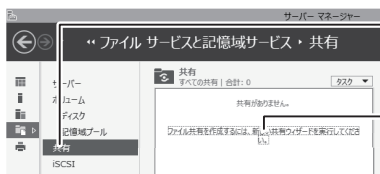
Active Directory で共有を作成する

Active Directory に登録されているユーザーが、読み書き可能な共有フォルダーを本製品に作成する手順です。

Active Directory 連携する共有フォルダーを作成するには、本製品が Active Directory へログオンしている必要があります。あらかじめ Active Directory へログオンしておいてください。【Active Directory へ参加する】(35 ページ) 参照

1 [サーバーマネージャー] → [ファイルサービスと記憶域サービス] を開く

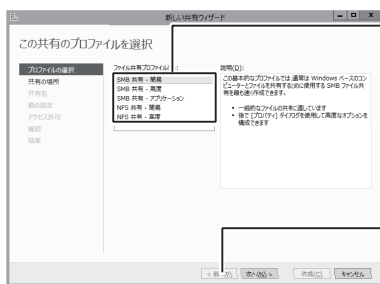
2



① [共有] をクリック

② [ファイル共有を作成する...] をクリック

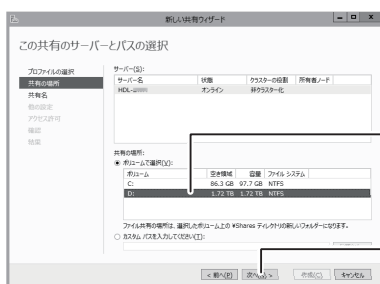
3



① 共有の種類を選ぶ

② [次へ] をクリック

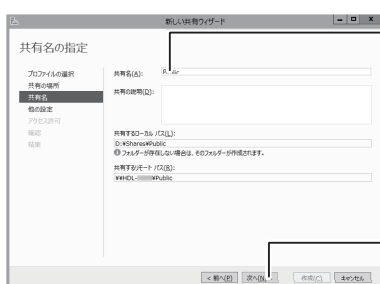
4



① 共有を作成する場所を選ぶ

② [次へ] をクリック

5



① [共有名] を入力

※他の項目も必要に応じて設定します。

② [次へ] をクリック

使う前に

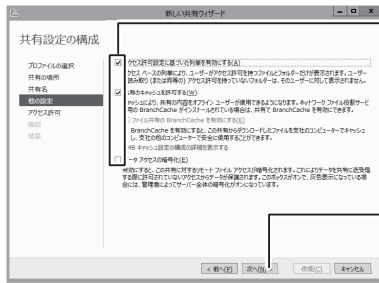
導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

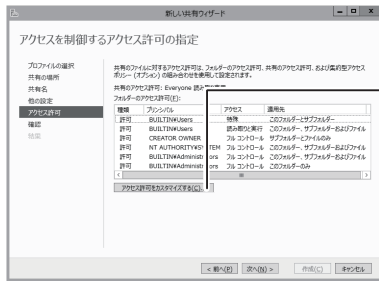
6



①必要に応じて、共有設定の構成
を選択

②[次へ]をクリック

7



[アクセス許可をカスタマイズ
する]をクリック

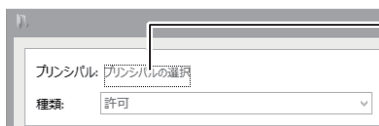
8



①[共有]をクリック

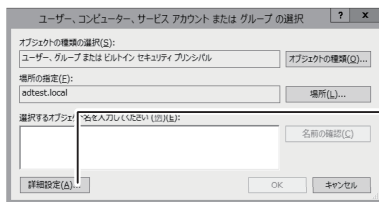
②[追加]をクリック

9



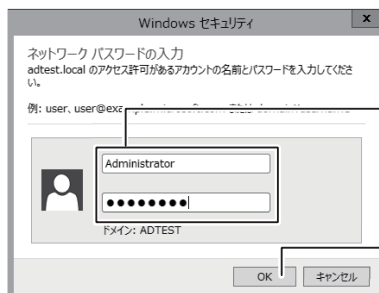
[プリンシパルの選択]をクリック

10



[詳細設定]をクリック

11



①ドメインにアクセス可能な
[ユーザー名]、[パスワード]を
入力

②[OK]をクリック

12

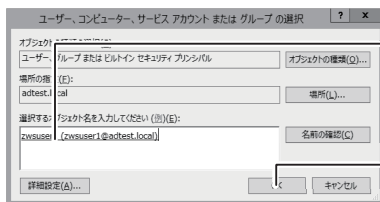


① [検索] をクリック

② グループに登録するユーザーを選択

③ [OK] をクリック

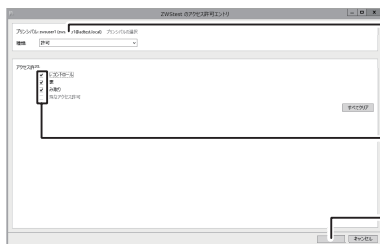
13



① 選択したユーザー（グループ）が表示されていることを確認

② [OK] をクリック

14

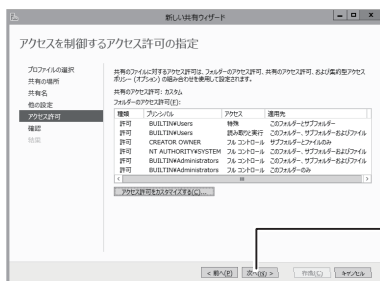


① 選択したユーザーが表示されていることを確認

② アクセス許可を設定

③ [OK] をクリック

15



[次へ] をクリック

16



[作成] をクリック

結果画面が表示されますので、[閉じる] ボタンをクリックします。
これで Active Directory 環境で共有フォルダーが作成されました。

電源を切る場合

本製品の電源を切る場合は、必ず以下のいずれかの手順にしたがってください。

ご注意

- 外付 HDD やプリンターがある場合は、本製品の電源を切ってから、外付 HDD やプリンターの電源を切ってください。
- ファイルコピー中に本製品や外付 HDD の電源を切るとコピーの処理が正常におこなわれません。本製品や外付 HDD のアクセスランプを確認の上、電源を切ってください。
- 本製品設定中は本製品の電源を切らないでください。
- 本製品起動処理中は本製品の電源を切ることはできません。
- 長期間使用しない場合は、電源コードをコンセントから外しておくことをおすすめします。

本製品の電源ボタンでシャットダウンする場合

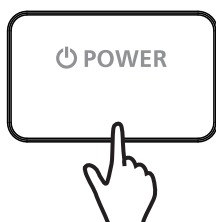
本製品前面の電源ボタンを短押し（1 秒程度）します。
シャットダウン処理が終了すると、自動的にランプが消灯します。

ご注意

- 電源ボタンを長押し（3 秒以上）しないようご注意ください。3 秒以上押した場合、強制電源断状態となり製品再起動後に RAID リビルドが発生する場合があります。
- 本製品がロック状態になっていると、電源ボタンを押してもシャットダウンできない場合があります。その場合は、USB キーボードでロックを解除してから電源ボタンを押してください。

前面の電源ボタンを押す

▼ 4 または 6 ドライブモデル



▼ 2 ドライブモデル



Windows のリモートデスクトップにてシャットダウンする場合

- ①画面の右上（下）にマウスポインターを移動し、チャームを表示します。
- ②チャームの [設定] → [電源] をクリックし、[シャットダウン] をクリックします。
シャットダウン処理が終了すると、自動的にランプが消灯します。

その他の設定

機能について詳しくはヘルプをご覧ください

本書に記載のない機能など詳しくは、[スタート]→[ヘルプとサポート]をご覧ください。

Windows Update

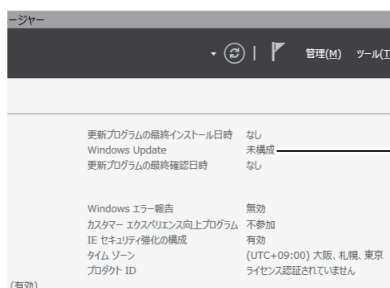
Windows Update では、本製品にインストールされている OS の既知の脆弱性に対する最新のセキュリティパッチがインストールされます。
必ずはじめにおこなってください。

ご注意

- 本手順は、本製品がインターネットにアクセスできる環境にある必要があります。

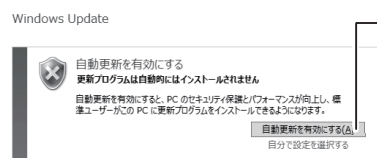
1 [サーバーマネージャ]→[ローカルサーバー]を開く

2



[Windows Update] 横のリンク
をクリック

3



[自動更新を有効にする]を
クリック

※出荷時は、自動更新が無効になっています。

更新プログラムのダウンロード、インストールが実行されますのでしばらくお待ちください。

使う
前に

導入
する

その
他の
設定

故障
時の
対応

資
料

RAID 設定

本製品で設定できる RAID モード

RAID 5 (出荷時設定) ※ 4、6ドライブモデルのみ	すべてのハードディスクを 1 つのボリュームとして認識、パリティとともに分散記録します。 ハードディスク 1 台の故障に対応するデータ保護機能、容量、高速性のバランスの良いモードです。
RAID 1 (出荷時設定) ※ 2ドライブモデルのみ	すべてのハードディスクに同じデータを同時に書き込むため、万一、一方のハードディスクが故障してもデータは安全に保護されます。
RAID 0	すべてのハードディスクを 1 つのボリュームとして認識します。 データ保護機能はありませんが、大容量と高速性を追求したモードです。
マルチディスクモード	すべてのハードディスクを別々に認識します。

RAID モードを変更する

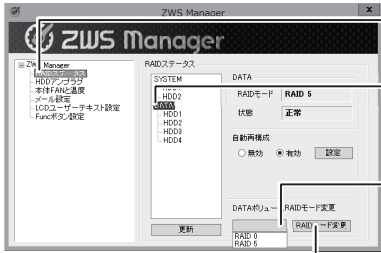
ご注意

- RAID モードを変更する前に、データをバックアップしてください。RAID モード変更時にデータは消去されます。
- 本製品のシステム領域の RAID モードは変更できません。
- マルチディスクモードから RAID モードに変更、RAID モードからマルチディスクモードに変更する場合は、以下の方法では設定できません。サポート DVD を使用して設定変更してください。設定方法については、【マルチディスク】(43 ページ) をご覧ください。

出荷時インストール済みの「ZWS Manager」で設定します。
「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】(99 ページ) をご覧ください。

1 タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動する

2



① [RAID ステータス] をクリック

② [DATA] をクリック

③ 変更する RAID モードを選ぶ

④ [RAID モード変更] をクリック

選択した [RAID モード] への変更を開始します。([状態] が再構築中になります。)
 ※ 6 ドライブモデルで、RAID 5 へ構築した場合、1.0TB HDD 搭載モデルで約 19 時間かかります。
 ※ 4 ドライブモデルで、RAID 5 へ構築した場合、1.0TB HDD 搭載モデルで約 15 時間かかります。
 ※ 2 ドライブモデルで、RAID 1 へ構築した場合、1.0TB HDD 搭載モデルで約 3 時間かかります。
 これで RAID モードの変更は完了です。

マルチディスク

マルチディスクは、ハードディスクを個々で認識し、複数のハードディスクとして使用できます。

ご注意

- RAID モードからマルチディスクモード、または、マルチディスクモードから RAID モードに変更する際、すべての設定情報や保存されていたデータが消去されます。必要なデータや設定情報は、必ずバックアップしてから切り替えてください。

ステップ 1 準備する

- 1 次の機材を用意する
ディスプレイ、USB キーボード、USB 接続の DVD ドライブ (USB 2.0 対応のもの)、本製品添付のサポート DVD
- 2 本製品の VGA コネクタにディスプレイをつなぐ
- 3 本製品の USB ポートに USB キーボードをつなぐ
- 4 本製品の USB ポートに USB 接続の DVD ドライブを接続します。
※上記以外の、USB ハードディスクおよび eSATA ハードディスクは接続しないでください。

次に以下の【ステップ 2】へお進みください。

ステップ 2 マルチディスクに設定する

- 1 DVD ドライブにサポート DVD をセットし、本製品の電源を入れる
リカバリープログラムが起動し、使用許諾が表示されます。

リカバリープログラムが起動しない場合
 - BIOS 設定の変更が必要な場合があります。
以下の手順で BIOS 設定を変更してください。
 - ① 本製品の電源投入直後より、[F2] キーを押してつづけて、BIOS 設定画面を起動します。
 - ② カーソルキーで [ブート] を選択します。
 - ③ [USB CD:] にカーソルを合わせ、[+] キーで優先順位を最も高く設定します。
 以上で BIOS 設定は変更されました。ステップ 2 手順 1 より再度実行してください。
- 2 キーボードの 2 を入力し [Enter] キーを押す
(「2 - マルチディスクモードでリカバリー」を選択します。)
※その他の選択については、【システムリカバリーする】(94 ページ) をご覧ください。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

- 3** 「本当にリカバリーを実行してよろしいですか? (yes/no)」で、[yes] と入力して、[Enter] キーを押す
リカバリーが開始されます。システムのリカバリーには 15 分～ 30 分程度必要です。

「リカバリーが正常に完了しました。サポート DVD を抜いてください。
何かキーを押すと再起動します。」と表示されたら、システムリカバリーは完了です。
サポート DVD を本製品から取り外し、何かキーを押します。
再起動完了後、本製品はマルチディスクモードとなっています。

次に以下の【ステップ3】へお進みください。

ステップ3 ハードディスクを初期化する

マルチディスクモードの起動直後は、次のようなディスク構成となっています。

▼ 2ドライブモデル

HDD1	起動用パーティション	システムパーティション	データパーティション
HDD2		データパーティション	

▼ 4ドライブモデル

HDD1	起動用パーティション	システムパーティション	データパーティション
HDD2		データパーティション	
HDD3		データパーティション	
HDD4		データパーティション	

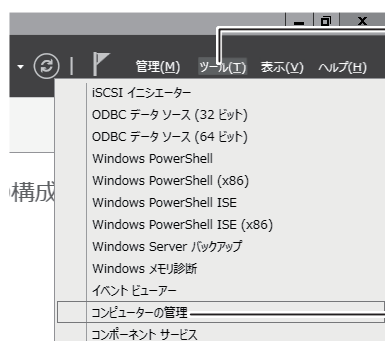
▼ 6ドライブモデル

HDD1	起動用パーティション	システムパーティション	データパーティション
HDD2		データパーティション	
HDD3		データパーティション	
HDD4		データパーティション	
HDD5		データパーティション	
HDD6		データパーティション	

※起動用パーティションが HDD 1 になった場合の例

1 [サーバermanage]を開く

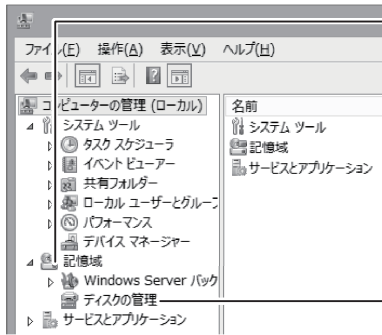
2



① [ツール] をクリック

② [コンピューターの管理] を
クリック

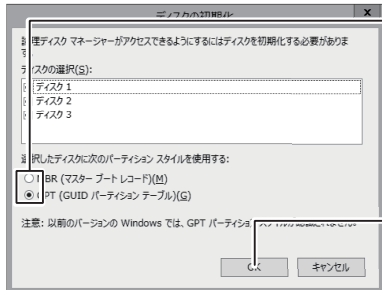
3



① [記憶域] をクリック

② [ディスクの管理] をクリック

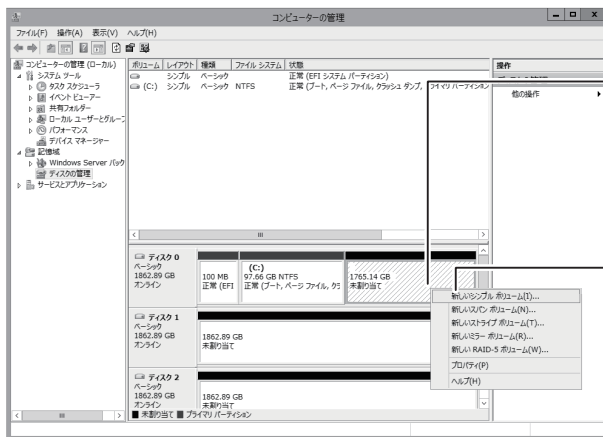
4



① パーティションスタイルを選択

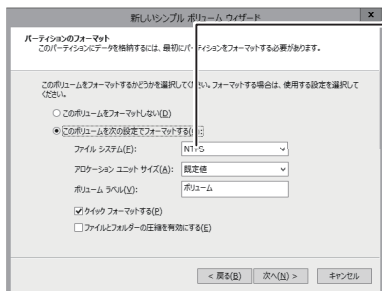
② [OK] をクリック

5

① データパーティション
を右クリック※データパーティションは「未
割り当て」と表示されます。② [新しいシンプルボ
リューム] をクリック

6

シンプルボリュームウィザードが表示されるため、画面の指示にしたがって進める。



ファイルシステムでは、[NTFS] を選ぶ
以降は画面の指示にしたがってください。

使う
前に導入
するその
他の
設定故
障
時
の
対
応資
料

すべてのドライブの未割り当て領域を NTFS フォーマットすると、それぞれのドライブを独立して管理できるようになります。

iSCSI 設定

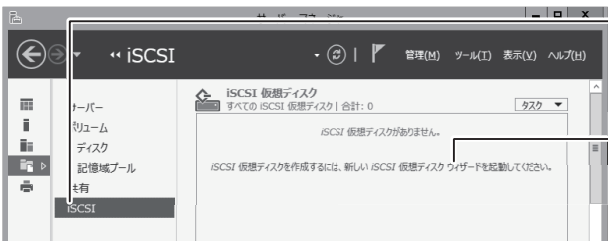
iSCSI Target 機能により、本製品上に作成した仮想ディスク (VHD) を iSCSI ストレージとして、提供することができます。

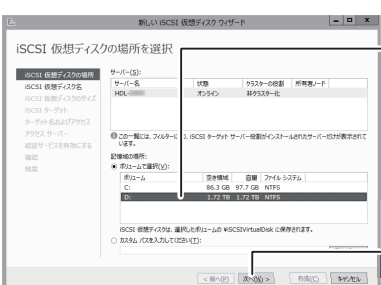
ご注意

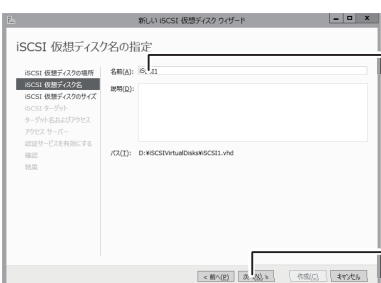
- 事前にファイアウォールの設定にて、TCP3260 番 (受信のみで可) を開ける必要があります。

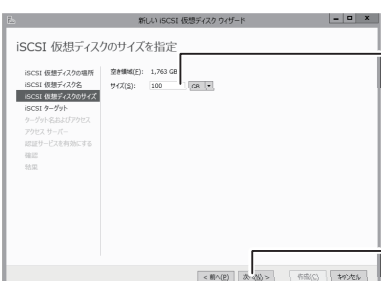
iSCSI Target の準備

- 1 [サーバーマネージャー] → [ファイルサービスと記憶域サービス] を開く

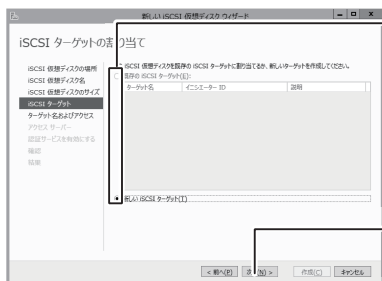
- 2
 
 - ① [iSCSI] をクリック
 - ② [iSCSI 仮想ディスクを作成するには...] をクリック

- 3
 
 - ① iSCSI 仮想ディスクを作成するボリュームを選ぶ
 - ② [次へ] をクリック

- 4
 
 - ① 任意の [名前] を入力
※ [説明] は必要に応じて入力します。
 - ② [次へ] をクリック

- 5
 
 - ① ディスクサイズを設定
 - ② [次へ] をクリック

6

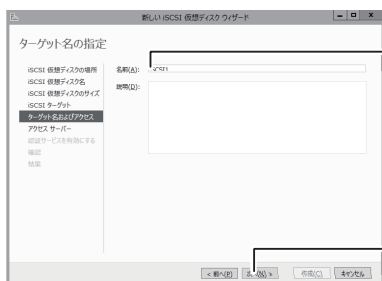


①割り当て先を選ぶ

※新しい iSCSI ターゲットを作成する場合は、[新しい iSCSI ターゲット] を選びます。

②[次へ]をクリック

7

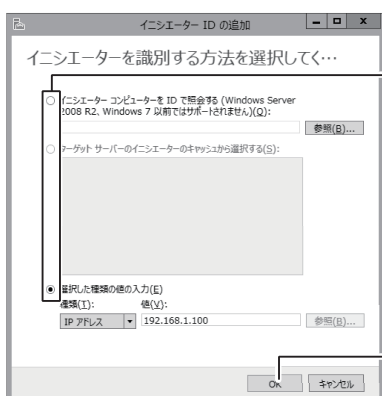


①任意の [名前] を入力

※ [説明] は必要に応じて入力します。

②[次へ]をクリック

8



①割り当て先のイニシエーターを選ぶ

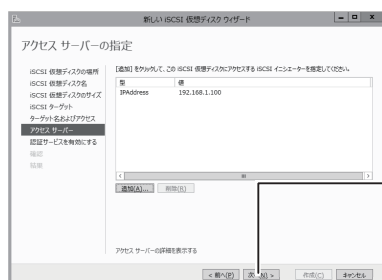
※下の【イニシエーターの選択について】をご覧ください。

② [OK] をクリック

イニシエーターの選択について

- 手動で入力する場合は、[選択した種類の値の入力] を選び、[種類]と[値]を設定します。画面例では[種類]に「IP アドレス」、[値]に「192.168.1.100」を設定しています。これにより、「192.168.1.100」のイニシエーターに作成する iSCSI 仮想ディスクが割り当て可能となります。
- IQN が不明な場合は、[詳細設定] からイニシエーター側パソコンの DNS ドメイン名、IP アドレス、MAC アドレスなどを指定することもできます。

9



[次へ]をクリック

※複数のイニシエーターに割り当てる場合は、[追加] ボタンをクリックします。

使う前に

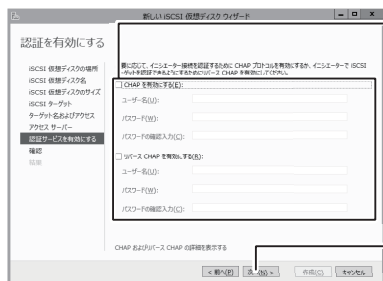
導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

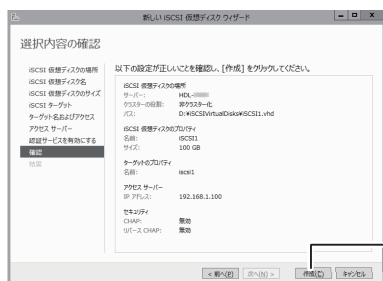
10



①認証方式を設定

②[次へ]をクリック

11



内容を確認し、[作成]をクリック

作成結果が表示されたら、iSCSI ターゲットの準備は完了です。

iSCSI イニシエーターの準備

Windows Vista 以前の OS の場合は、Microsoft のダウンロードサイトより iSCSI イニシエーターをダウンロードの上、iSCSI Target のディスクを使用する環境へインストールしてください。

※以下の画面は Windows Storage Server 2008 R2 での設定例です。

1 [スタート] → [管理ツール] → [iSCSI イニシエーター] をクリック

iSCSI イニシエーターの開き方

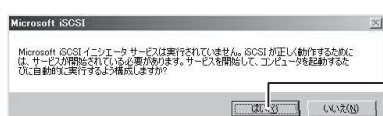
● Windows 8 の場合

- ①画面の右上（下）にマウスポインターを移動し、チャームを表示します。
- ②チャームから、[検索] → [設定] の検索入力欄に [iSCSI] と入力し、[Enter] キーを押します。

● Windows 7、Vista の場合

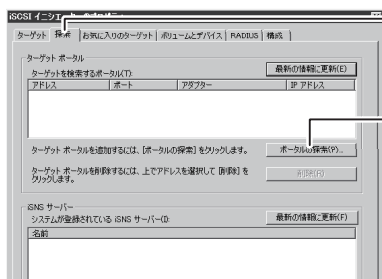
- [スタート] → [プログラムとファイルの検索] の入力欄に [iSCSI] と入力し、[Enter] キーを押します。

2



内容を確認し、[はい] をクリック

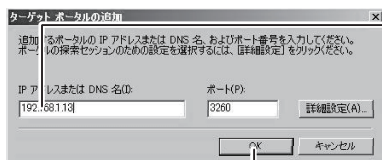
3



① [探索] をクリック

② [ポータルの探索] をクリック

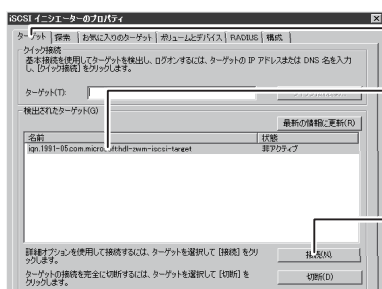
4



① iSCSI Target 側サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を設定

② [OK] をクリック

5

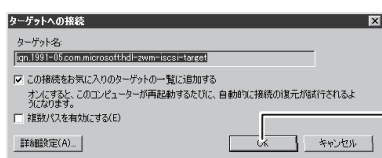


① [ターゲット] をクリック

② 検出されたターゲットを選ぶ

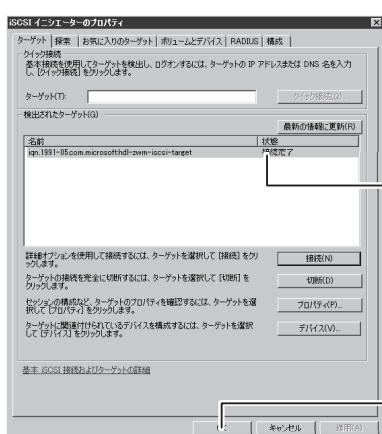
③ [接続] をクリック

6



[OK] をクリック

7



① [接続完了] となっていることを確認

② [OK] をクリック

以上で iSCSI イニシエーターの設定は完了です。

ディスクの管理を開き、接続した iSCSI Target 側の仮想ディスクが追加されたことを確認してください。

※ディスクの初期化画面が表示された場合は、ディスクを初期化する必要があります。表示された画面の指示にしたがって、ディスクの初期化をおこなってください。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

日時設定

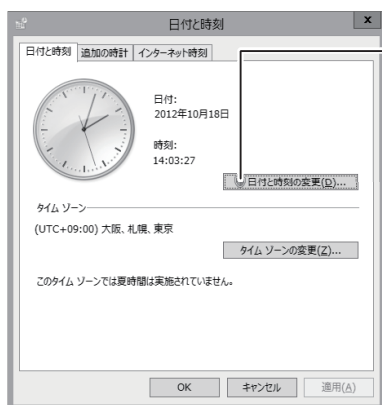
1



①タスクトレイの時刻をクリック

② [日付と時刻の設定の変更] をクリック

2



[日付と時刻の設定の変更] をクリック

おすすめ設定

●本製品がインターネットに接続されている場合は、[インターネット時刻] タブ → [設定の変更] をクリックし、[今すぐ更新] を選択すると自動で時刻を取得することができます。

3



①現在の日付、時刻を設定

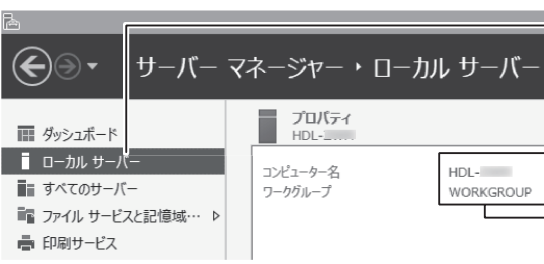
② [OK] をクリック

以上で設定は完了です。

コンピューター名 / ドメイン名の変更

1 [サーバーマネージャー]を開く

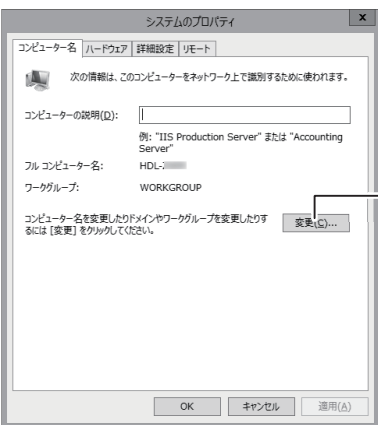
2



① [ローカルサーバー]をクリック

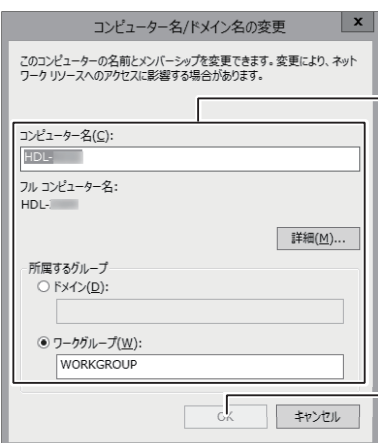
② [コンピューター名]または[ワークグループ]横のリンクをクリック

3



[変更]をクリック

4



①設定を変更する

② [OK] をクリック

以上で設定は完了です。

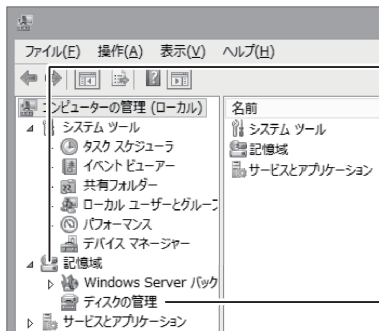
フォーマット

ご注意

- フォーマットを実行すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されます。必要なデータがある場合は、フォーマットする前に必ずバックアップしてください。

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール]→[コンピューターの管理]をクリック

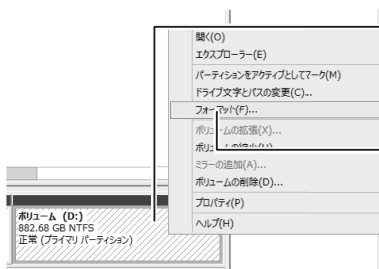
2



① [記憶域] をクリック

② [ディスクの管理] をクリック

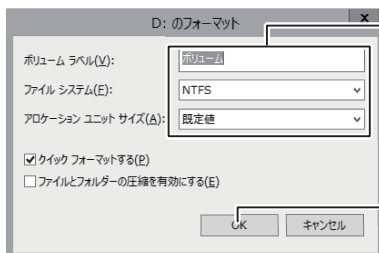
3



① フォーマットするボリュームを
右クリック

② [フォーマット] をクリック

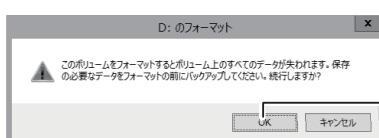
4



① 必要に応じて変更

② [OK] をクリック

5



[OK] をクリック

フォーマットを開始します。

IP アドレス設定

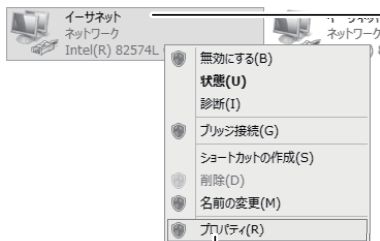
1 [サーバermanage]を開く

2 ①[ローカルサーバー]をクリック

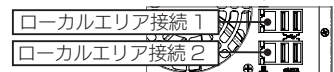


②[イーサネット]横のリンクをクリック

3 ①設定する LAN アダプターを右クリック

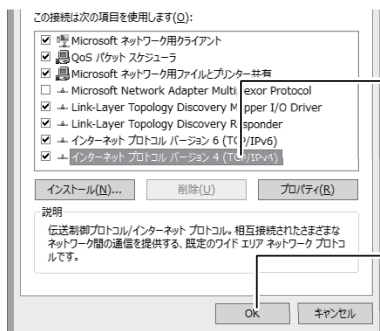


※対応する LAN ポートは、上が1、下が2となります。



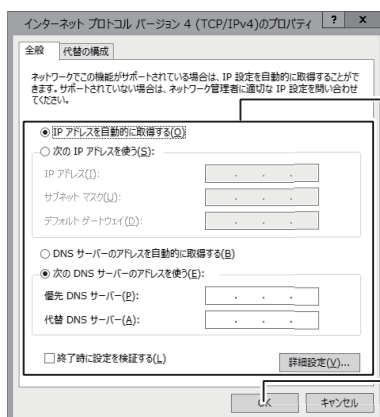
②[プロパティ]をクリック

4 ①[インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]を選ぶ



②[OK]をクリック

5 ① IP アドレスを設定



②[OK]をクリック

以上で、設定は完了です。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

パスワード変更

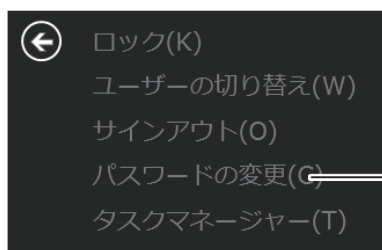
セキュリティのため、管理者パスワードは出荷時設定から変更することをおすすめします。

1 Administrator でログインする

2 ●リモートデスクトップ接続の場合
キーボードの [Ctrl]+[Alt]+[End] キーを押す

●本製品にキーボード等を接続しているの場合
キーボードの [Ctrl]+[Alt]+[Delete] キーを押す

3



[パスワードの変更] をクリック

4



①パスワードを設定

出荷時設定

出荷時のパスワードは「admin」です。

Administrator のパスワードを変更した場合は、変更後のパスワードを入力します。

② [>] をクリック

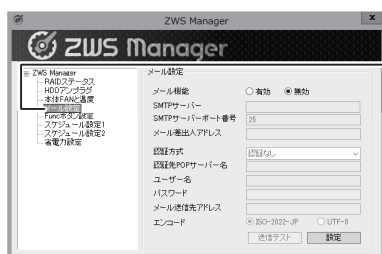
以上で、設定は完了です。

メール設定

「ZWS Manager」で設定します。
「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】(99 ページ) をご覧ください。

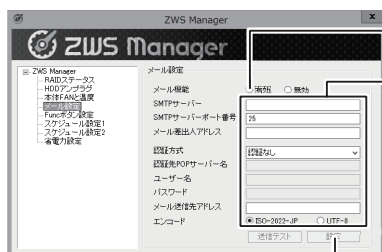
1 タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動する

2



[メール設定] をクリック

3



① [有効] を選ぶ

②設定する

※以下の【メール設定項目】をご覧ください。

③ [設定] をクリック

メール設定項目

SMTP サーバー	SMTP サーバーを入力します。
SMTP サーバーポート番号	SMTP サーバーポート番号を入力します。
メール差出人アドレス	差出人として表示するメールアドレスを入力します。
認証方式	認証方式を選択します。
認証 POP サーバー名	選択した [認証方式] に応じた認証 POP サーバー名を入力します。
ユーザー名	選択した [認証方式] に応じたユーザー名を入力します。
パスワード	選択した [認証方式] に応じたパスワードを入力します。
メール送信先アドレス	送信先のメールアドレスを入力します。 複数のアドレスを設定したい場合はセミコロン “;” で区切ってください。 (最大 255 文字)
エンコード	エンコード方式を [ISO-2022-JP] か [UTF-8] から選択します。

以上で、設定は完了です。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

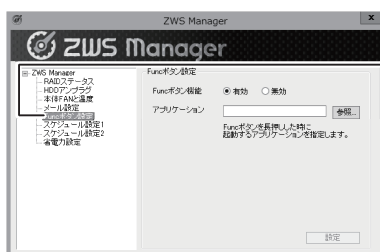
Func ボタン設定

「ZWS Manager」で設定します。

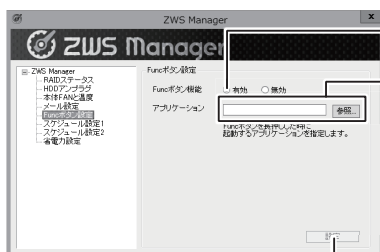
「ZWS Manager」については、【ZWS Manager】（99 ページ）をご覧ください。

1 タスクトレイのアイコンから [ZWS Manager] を起動する

2 [Func ボタン設定] をクリック



3 ① [有効] を選ぶ



②設定する

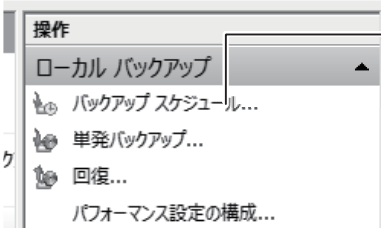
※ Func ボタンに登録できるアプリケーションは、管理者権限を必要としないコマンドラインプログラムのみとなります。
また、実行時に管理者権限を必要とする処理（フォルダーへのアクセス等）をおこなうプログラムも正常に動作しません。

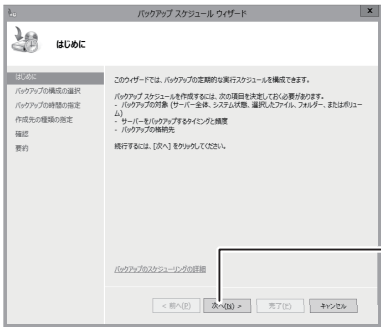
③ [設定] をクリック

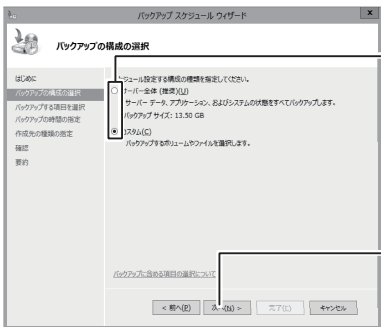
以上で、設定は完了です。

バックアップ設定

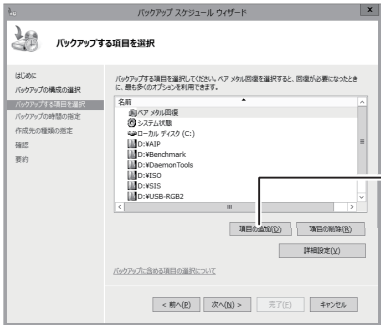
- 1 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール]→[Windows Server バックアップ]をクリック

- 2  画面左側の
[バックアップスケジュール]を
クリック

- 3  [次へ]をクリック

- 4  ①バックアップ構成を選ぶ

②[次へ]をクリック

- 5  [項目の追加]をクリック

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

6



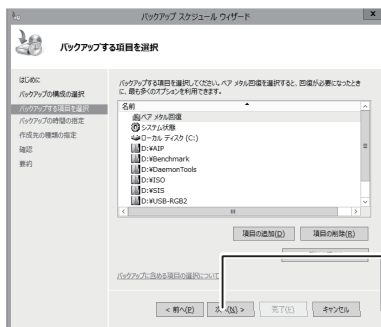
①バックアップ項目を選ぶ

※次の項目を選びます。

- [ベアメタル回復]
- [システム状態]
- [ローカルディスク C]
- [ローカルディスク D] (バックアップするフォルダーのみ)

② [OK] をクリック

7



内容を確認し、
[次へ] をクリック

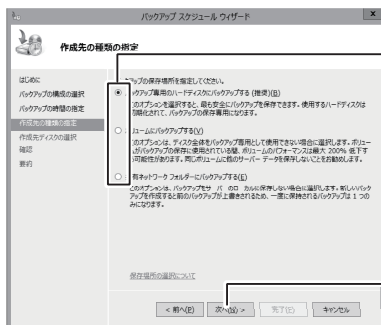
8



①バックアップ時刻と頻度を設定

② [OK] をクリック

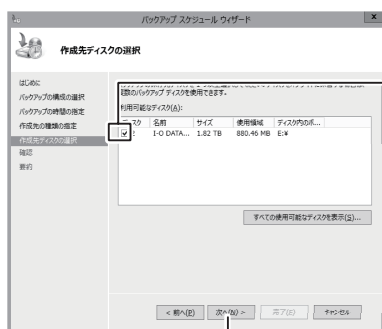
9



①バックアップの保存先の種類を
選ぶ

② [OK] をクリック

10



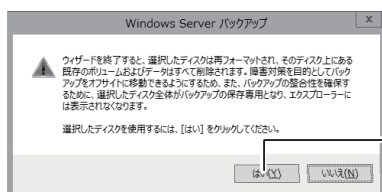
①バックアップの保存先を選ぶ

ご注意

●バックアップ先の HDD はフォーマットされます。必要なデータは、事前にバックアップしてください。

② [OK] をクリック

11



内容を確認し、
[はい] をクリック

※外付けハードディスクはバックアップの保存専用となり、エクスプローラーには表示されなくなります。

12



内容を確認し、
[完了] をクリック

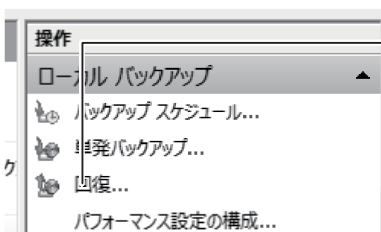
バックアップ先の HDD がフォーマットされ、バックアップスケジュールが作成されます。

以上で設定は完了です。

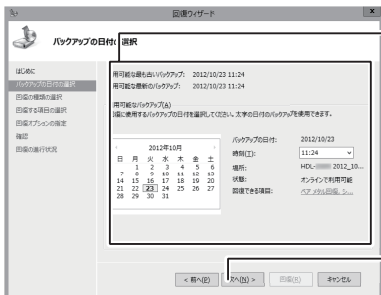
回復

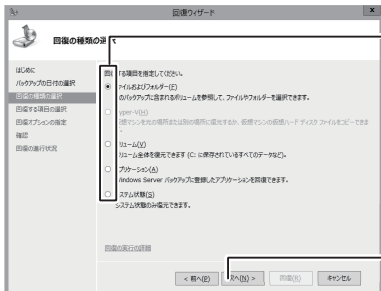
バックアップしたファイルおよびフォルダーを、本製品へ回復する方法を説明します。

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール]→[Windows Server バックアップ]をクリック

- 2  画面左側の
[回復]をクリック

- 3  ①バックアップデータの場所を
選ぶ
②[次へ]をクリック

- 4  ①回復に使うバックアップデータの
時刻を選ぶ
②[次へ]をクリック

- 5  ①バックアップの保存先の種類を
選ぶ
②[次へ]をクリック

Windows が起動しない状態でシステムを回復する場合

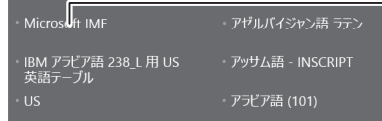
この操作をおこなう場合は、事前に本製品の VGA コネクタにディスプレイ、USB ポートにキーボード、マウス、USB 接続 DVD ドライブを接続してください。

1 サポート DVD を DVD ドライブにセットする

※本製品の電源が切れた状態でセットします。また、回復するシステムが保存されているデバイス（USB 接続 HDD など）がある場合は接続します。

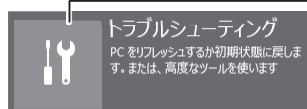
2 本製品の電源を入れる

3 キーボードレイアウトの選択



[Microsoft IME] をクリック

4



[トラブルシューティング] をクリック

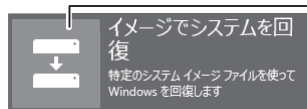
※リカバリープログラムがドライブ C: に Windows システムを発見した場合、[トラブルシューティング] の上に、[続行] と表示されます。[続行] をクリックすると、リカバリープログラムを終了して、Windows を起動します。

5



[詳細オプション] をクリック

6



[イメージでシステムを回復] をクリック

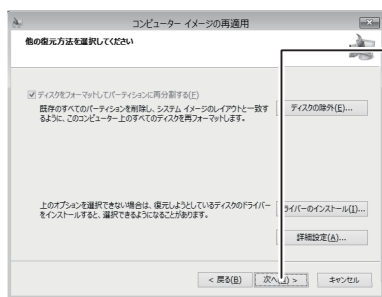
※自動的に Windows Server バックアップで作成したバックアップイメージを検索し、最新のバックアップイメージが選択されます。

7



[次へ] をクリック

8



[次へ] をクリック

※バックアップ時と同じ個体に対してリカバリーをおこなう場合、チェックを外します。

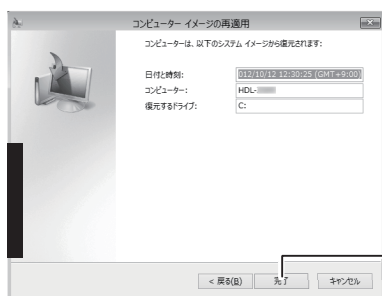
※バックアップ時とは別の個体に対してリカバリーをおこなう場合、チェックを入れます。

※チェックができない場合は、ハードディスクに対して Diskpart の clean コマンドを実施してください。

Diskpart の clean コマンドの実施方法

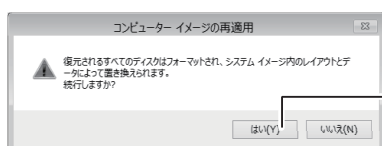
- ① USB 接続 HDD などのデバイスを取り外す
※誤って対象以外のディスクを消さないためです。
- ② サポート DVD からコマンドプロンプトを起動する
- ③ diskpart と入力し、[Enter] キーを押す
- ④ list disk と入力し、[Enter] キーを押す
- ⑤ すべてのカートリッジのディスク番号を確認
- ⑥ sel disk x(x は⑤で確認した番号) と入力し、[Enter] キーを押す
- ⑦ detail disk と入力し、[Enter] キーを押す (目的のディスクであることを確認)
- ⑧ clean と入力し、[Enter] キーを押す
- ⑨ ⑥～⑧を繰り返し、すべてのカートリッジで clean を実行する
- ⑩ exit と入力し、[Enter] キーを押す
- ⑪ 本製品をシャットダウンし、手順 2 ～ 10 をおこなう
※チェックはグレーアウトしていますが、そのまま [次へ] をクリックしてください。

9



[完了] をクリック

10



内容を確認し、
[はい] をクリック

ご注意

- [はい] をクリックすると、現在のディスク内容はすべて消去され、バックアップされていたイメージに置き換わります。

以上で復元処理は完了です。

復元後は自動的に再起動しますので、サポート DVD を抜いてお待ちください。

使う前に

導入する

その他の設定

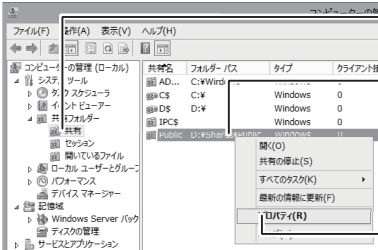
故障時の対応

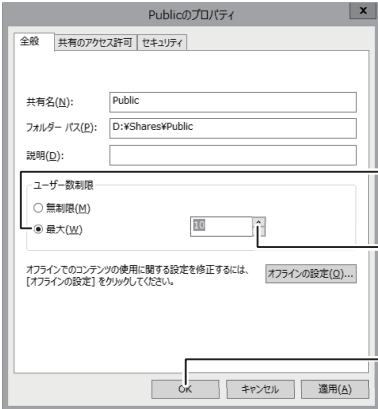
資料

ユーザー数制限

共有リソースに一度にアクセスできるユーザー数を制限する機能です。

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール]→[コンピューターの管理]をクリック

- 2
 
 - ① [共有]をクリック
 - ② 制限する共有フォルダーを
右クリック
 - ③ [プロパティ]をクリック

- 3
 
 - ① [最大]を選ぶ
 - ② 制限する人数を選ぶ
 - ③ [OK] をクリック

以上で設定は完了です。

アクセス許可

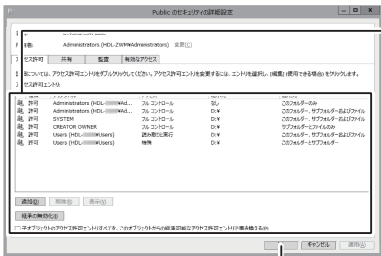
共有リソースにアクセス許可を割り当てると、ユーザーのアクセスを制限することができます。

共有リソースへのアクセス許可には、NTFS アクセス許可と共有アクセス許可があります。

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、[ファイルサービスと記憶域サービス]をクリック

- 2
 
 - ① [共有]をクリック
 - ② アクセス許可設定をする共有フォルダーを右クリック
 - ③ [プロパティ]をクリック

- 3
 
 - ① [アクセス許可]をクリック
 - ② [アクセス許可をカスタマイズする]をクリック

- 4
 
 - ① アクセス許可設定をする
 - ② [OK]をクリック

以上で設定は完了です。

使う前に

導入する

その他の設定

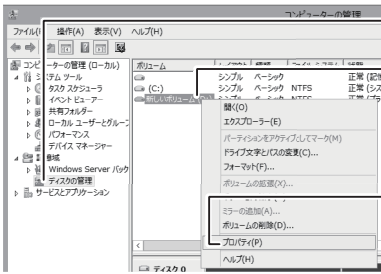
故障時の対応

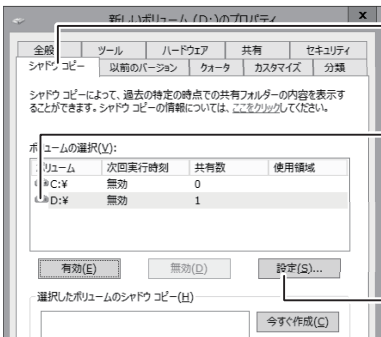
資料

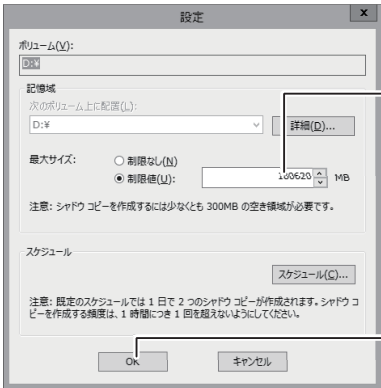
シャドウコピー設定

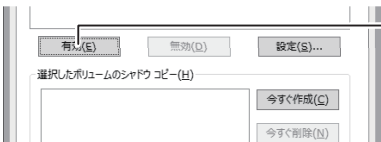
シャドウコピー（Shadow Copies of Shared Folders : SCSF）は、有る時点でのファイルのコピー（シャドウコピー）を作成するスナップショット技術です。

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、[ツール]→[コンピューターの管理]をクリック

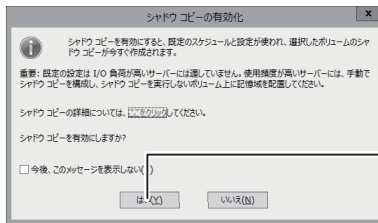
- 2
 
 - ① [ディスクの管理]をクリック
 - ② シャドウコピーを作成するフォルダーを右クリック
 - ③ [プロパティ]をクリック

- 3
 
 - ① [シャドウコピー]をクリック
 - ② シャドウコピー設定するボリュームを選ぶ
 - ③ [設定]をクリック

- 4
 
 - ① シャドウコピーの最大サイズを設定
 - ② [OK]をクリック

- 5
 
 - [有効]をクリック

6



[はい] をクリック

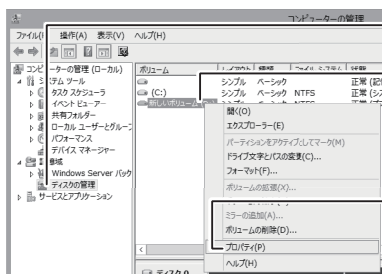
使う前に

以上で設定は完了です。

シャドウコピーから復元する

1 [サーバーマネージャー]を開き、[ツール]→[コンピューターの管理]をクリック

2



① [ディスクの管理] をクリック

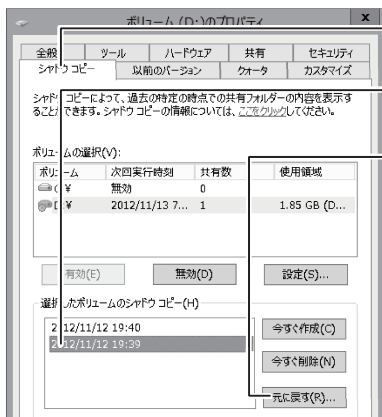
② 復元するボリュームを
右クリック

③ [プロパティ] をクリック

導入する

その他の設定

3



① [シャドウコピー] をクリック

② 復元する日時を選ぶ

③ [元に戻す] をクリック

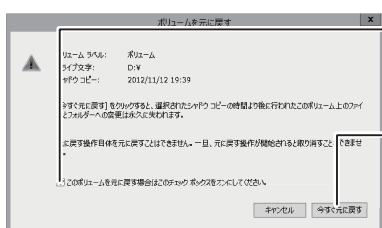
故障時の対応

ご注意

- 復元を実行すると、選択した日時より後におこなわれたシャドウコピーはすべて削除されます。
- 復元を開始後は、途中でキャンセルできません。

資料

4

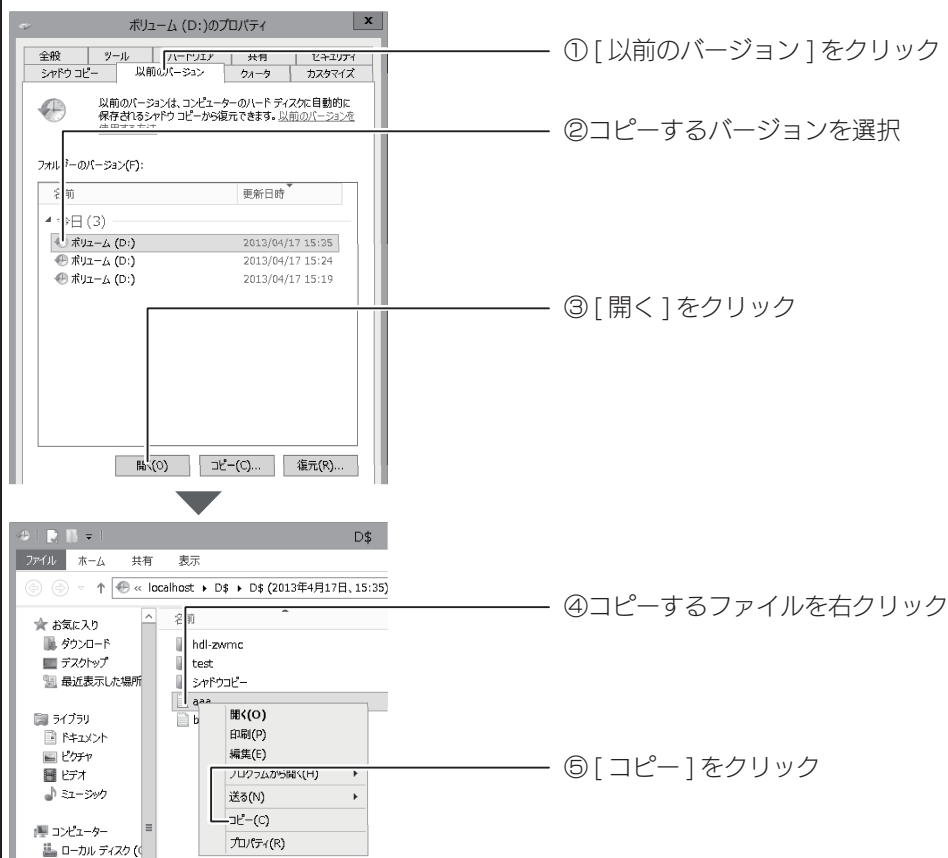
① [このボリュームを元に...] に
チェック

② [今すぐ元に戻す] をクリック

復元が完了すると、ボリュームのプロパティの画面に戻ります。

ファイル単位で復元する場合

ボリュームのプロパティ（前ページ手順3）でファイルを選択できます。



このファイルをコピー先フォルダーに貼り付けることで復元できます。

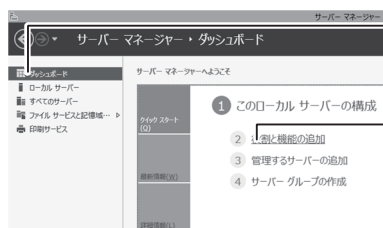
クォータ管理

クォータは、フォルダー単位で、ユーザーが使用できるディスクサイズを制限する機能です。

ファイルサーバーリソースマネージャーをインストールする

1 [サーバーマネージャー]を開く

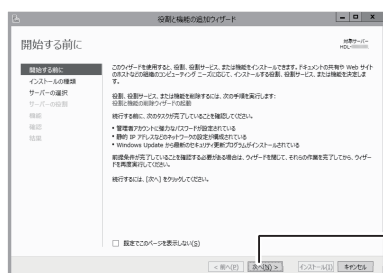
2



① [ダッシュボード] をクリック

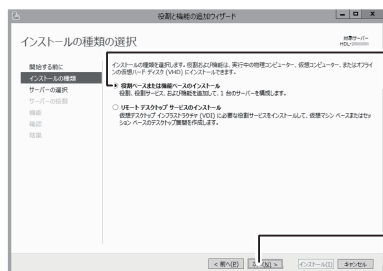
② [役割と機能の追加] をクリック

3



[次へ] をクリック

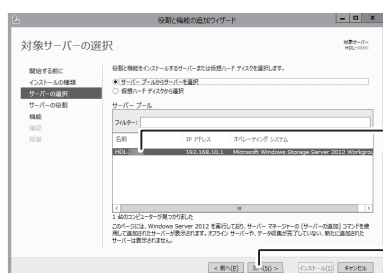
4



① [役割ベースまたは...] を選ぶ

② [次へ] をクリック

5



① インストール先の本製品を選択

② [次へ] をクリック

使う前に

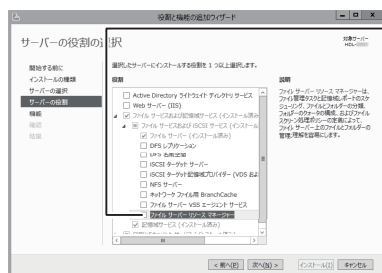
導入する

その他の設定

故障時の対応

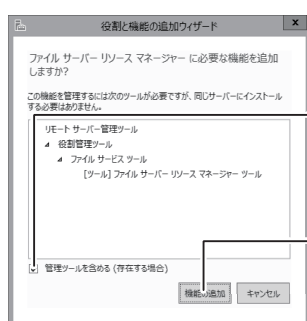
資料

6



[ファイルサービスおよび記憶域サービス] →
[ファイルサービスおよび iSCSI サービス] →
[ファイルサーバーリソースマネージャー] にチェック

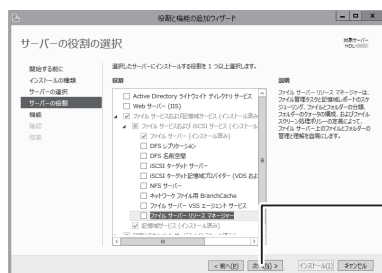
7



① [管理ツールを含める] にチェック

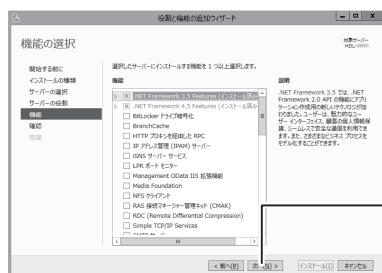
② [機能の追加] をクリック

8



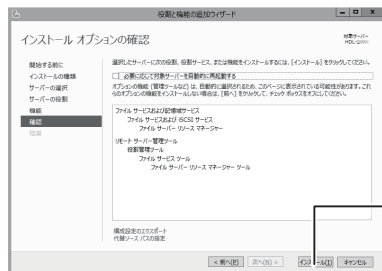
[次へ] をクリック

9



[次へ] をクリック

10

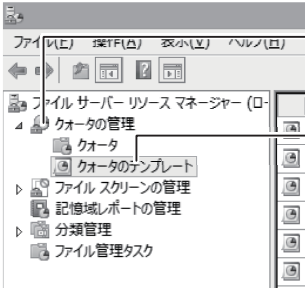


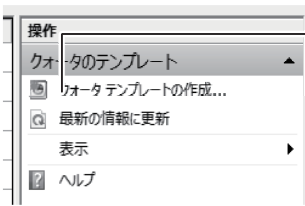
[インストール] をクリック

結果画面が表示されたら、インストールは完了です。
[閉じる] ボタンをクリックします。

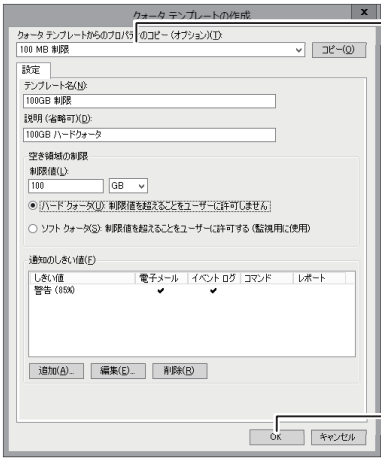
クォータテンプレートを作成する

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール]→[ファイルサーバーリソースマネージャ]をクリック

- 2 
 - ① [クォータの管理]をクリック
 - ② [クォータのテンプレート]をクリック

- 3 

画面右側の [クォータのテンプレートの作成] をクリック

- 4 
 - ① クォータテンプレートを設定
※設定項目については、下の【クォータテンプレート項目】をご覧ください。

- ② [OK] をクリック

クォータテンプレート項目

テンプレート名	任意の名前を入力します。
ラベル	必要に応じて入力します。
空き領域の制限	制限値を入力し、[ハードクォータ]または[ソフトクォータ]を選択します。
通知のしきい値	設定したしきい値に達するとメールで通知できる機能です。[追加] ボタンをクリックし、必要に応じて設定します。

以上で設定は完了です。

使う前に

導入する

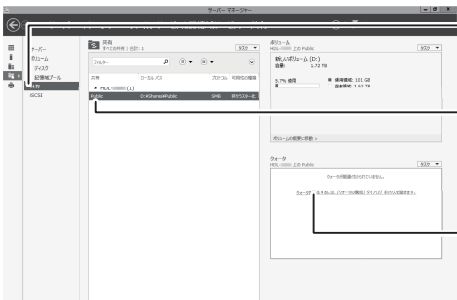
その他の設定

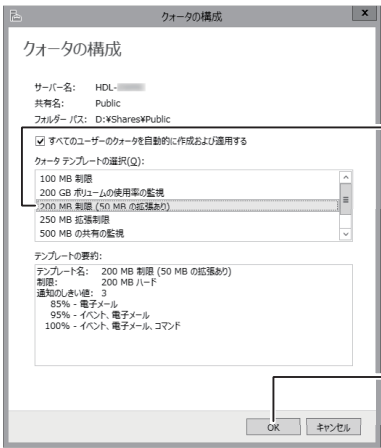
故障時の対応

資料

クォータを作成する

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、[ファイルサービスと記憶域サービス]をクリック

- 2
 
 - ① [共有]をクリック
 - ② クォータ設定をする共有フォルダーをクリック
 - ③ [クォータを設定するには...]をクリック

- 3
 
 - ① 適用するテンプレートを選ぶ
 - ② [OK]をクリック

クォータ欄に設定結果が表示されます。
以上で設定は完了です。

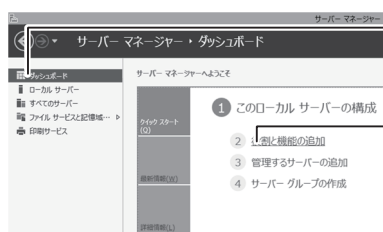
DFS 設定

[DFS の管理] コンソールは、DFS 名前空間と DFS レプリケーションの管理を行う MMC スナップインです。また、管理アクセス許可を、任意のユーザーに割り当てると DFS の管理タスクを委任することができます。

「名前空間」「DFS レプリケーション」をインストールする

1 [サーバーマネージャー]を開く

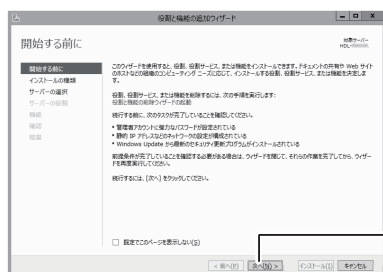
2



① [ダッシュボード] をクリック

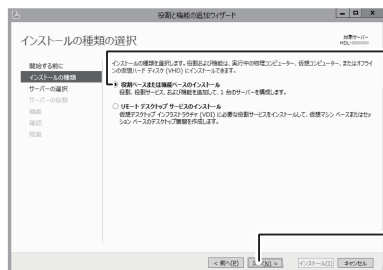
② [役割と機能の追加] をクリック

3



[次へ] をクリック

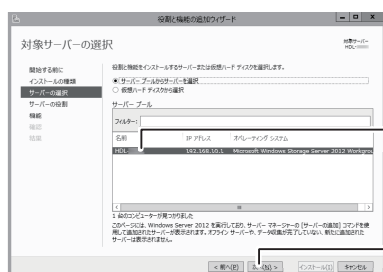
4



① [役割ベースまたは...] を選ぶ

② [次へ] をクリック

5



① インストール先の本製品を選択

② [次へ] をクリック

使う前に

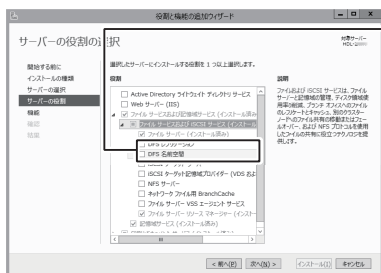
導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

6



[ファイルサービスおよび記憶域サービス] →
 [ファイルサービスおよび iSCSI サービス] →
 [DFS レプリケーション]、
 [DFS 名前空間] の状態を確認

- 「インストール済み」の場合は、そのまま以下の【名前空間を作成する】へお進みください。
- 「インストール済み」と表示されていない場合は、チェックを付け [インストール] ボタンをクリックし、インストールしてから、以下の【名前空間を作成する】へお進みください。

名前空間を作成する

- 1 [サーバーマネージャ] を開き、
[ツール] → [DFS の管理] をクリック

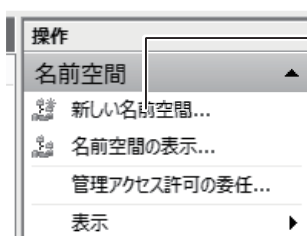
2



① [DFS の管理] をクリック

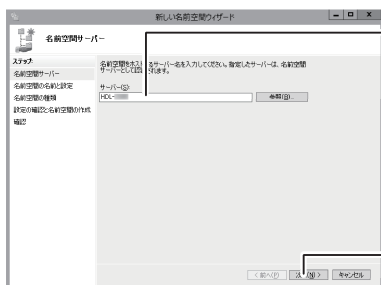
② [名前空間] をクリック

3



画面右側の [新しい名前空間] を
クリック

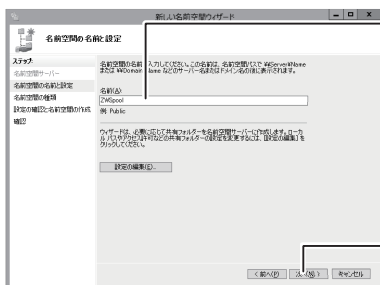
4



① 名前空間サーバーになるコン
ピューター名を入力

② [次へ] をクリック

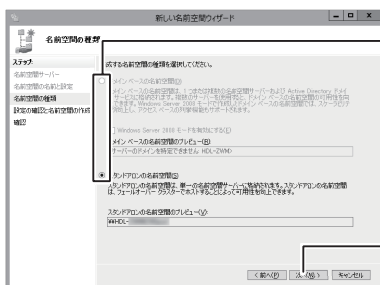
5



①名前空間ルート名を入力

②[次へ]をクリック

6

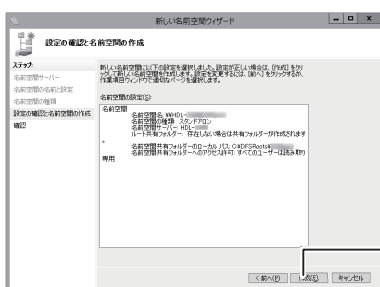


①名前空間の種類を選ぶ

※ DFS レプリケーション設定時は、[ドメインベースの名前空間]を指定します。

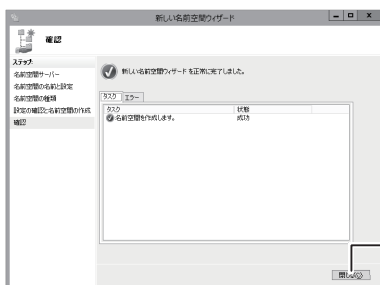
②[次へ]をクリック

7



[次へ]をクリック

8



[閉じる]をクリック

以上で設定は完了です。

使う前に

導入する

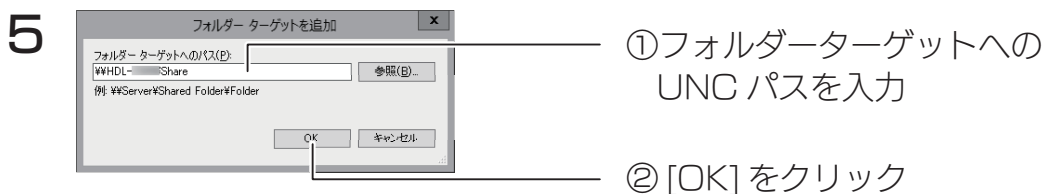
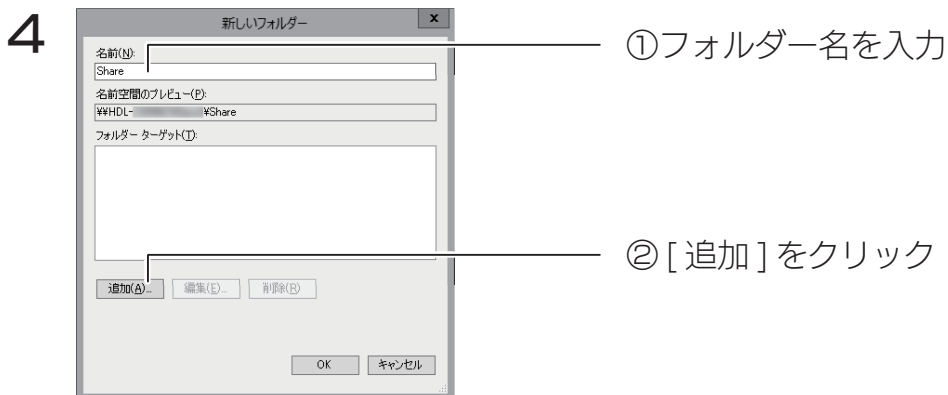
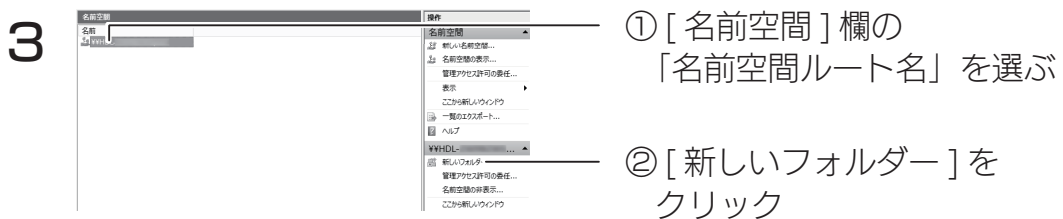
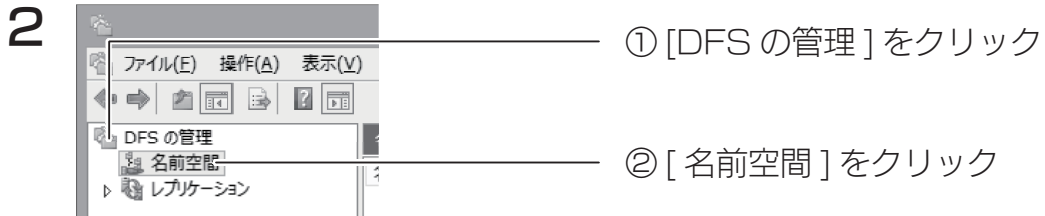
その他の設定

故障時の対応

資料

名前空間フォルダーを作成する

- 1 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール]→[DFS の管理]をクリック



DFS レプリケーション設定時のパスの設定例

レプリケーション対象となる共有フォルダー（複数）を追加しておきます。

例えば、サーバー「HDL-Z1」の共有「Share1」と、サーバー「HDL-Z2」の共有「Share2」をレプリケーションさせるには、¥¥HDL-Z1 ¥Share1 と、¥¥HDL-Z2 ¥Share2 を同一の名前空間に追加しておきます。

以上で設定は完了です。

DFS レプリケーションを設定する

ご注意

- DFS レプリケーション (DFS-R) 機能は、本製品同士のみでは利用できません。次の環境が必要です。
 - ① Windows Server 2003 R2 以降の Active Directory 環境に参加していること。
 - ② レプリケーショングループのメンバー (本製品) が、同一フォレストにあること。
- DFS レプリケーション実行時は、あらかじめ [DFS 名前空間] で [ドメインベースの名前空間] を作成しておいてください。 (【名前空間フォルダーを作成する】 (76 ページ) 参照)

- 1 [サーバーマネージャー] を開き、
[ツール] → [DFS の管理] をクリック

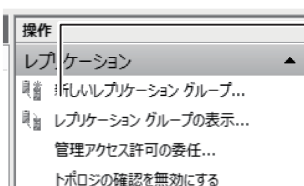
2



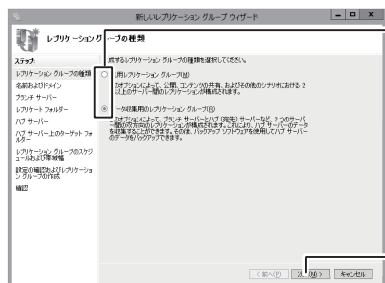
① [DFS の管理] をクリック

② [レプリケーション] を
クリック

3

画面右側の [新しいレプリケーション
グループ] をクリック

4

① レプリケーショングループの種
類を選ぶ※ 【レプリケーショングループの選び方】を
ご覧ください。

② [次へ] をクリック

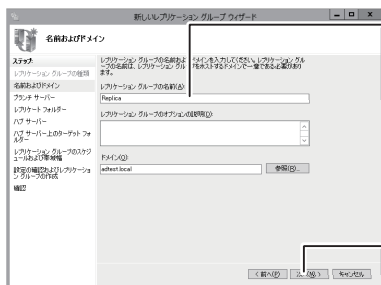
レプリケーショングループの選び方

データ収集用のレプリケーショングループ	レプリケーションを行うファイルサーバーが2台の場合
汎用レプリケーショングループ	レプリケーションを行うファイルサーバーが2台以上ある 場合

使う
前に導入
するその
他の
設定故障
時の
対応

資料

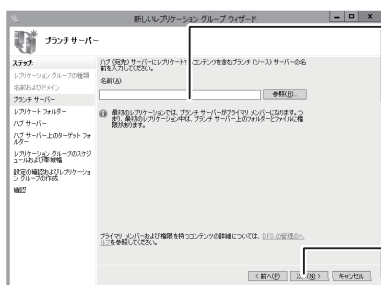
5



①レプリケーショングループの名前を入力

②[次へ]をクリック

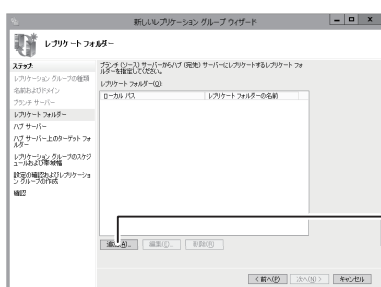
6



①レプリケーション開始時に元となるファイルサーバーの名前を入力

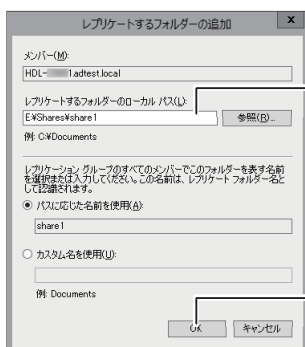
②[次へ]をクリック

7



[追加]をクリック

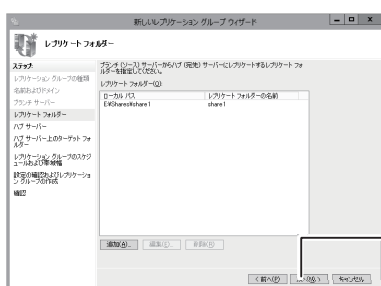
8



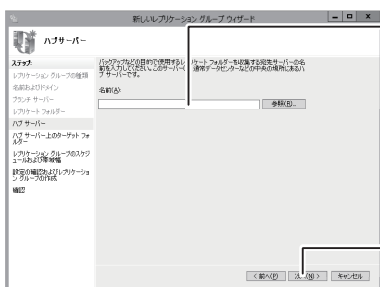
①レプリケート元フォルダーを入力

②[OK]をクリック

9

内容を確認して、
[次へ]をクリック

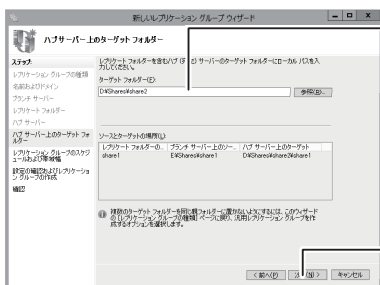
10



①もう 1 台のファイルサーバーの名前を入力

②[次へ]をクリック

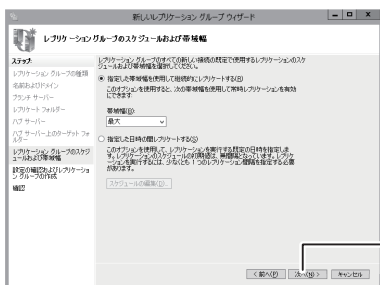
11



①もう 1 台のファイルサーバーでレプリケートするフォルダーのパスを入力

②[次へ]をクリック

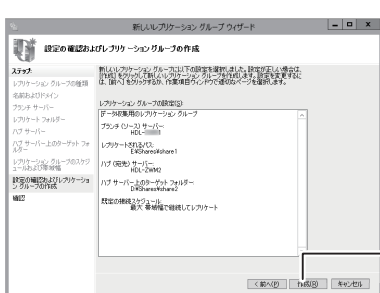
12



※ WAN 接続などの帯域幅に余裕がない場合、帯域幅の調整とレプリケーションの実行スケジュールを設定できます。

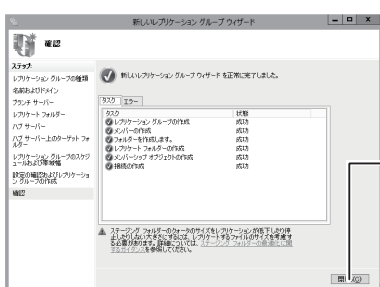
[次へ]をクリック

13



[作成]をクリック

14



[閉じる]をクリック

※はじめて同期する場合は、同期の開始までに少し時間がかかります。

以上で、設定は完了です。

データ重複除去

ご注意

重複除去できる対象ファイルの合計サイズはメモリーの空き容量 1 GB 当り、約 1 TB となります。対象ファイルの合計サイズが大きい場合、重複除去が実行されなくなる場合があります。データ重複除去をご利用になる場合は、該当ボリューム内のデータが少ないうちに設定してください。

例) メモリーの空き容量が 1 GB で 1 TB 以上のデータの重複を除去する場合

最初の 1 TB の書き込み後、重複除去処理の完了を確認してから、次の 1 TB を書き込んでください。

Windows が重複するファイルを検出し、ファイルの実体を 1 つだけ残して他はリンク情報として配置し直す機能です。例えば、デジカメ写真をカメラから削除することなく次々本製品にアップロードした場合でも、重複するデータを自動的に整理しますので、本製品の容量を節約することができます。

データ重複除去をインストールする

1 [サーバーマネージャー]を開く

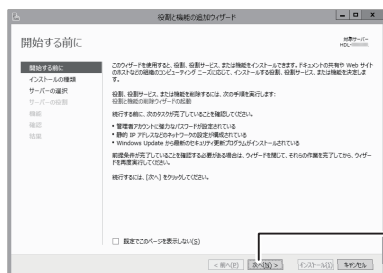
2



① [ダッシュボード] をクリック

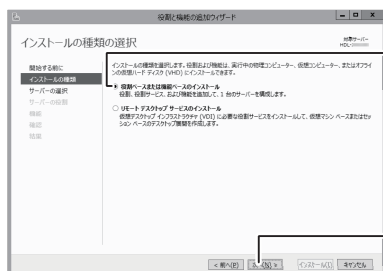
② [役割と機能の追加] をクリック

3



[次へ] をクリック

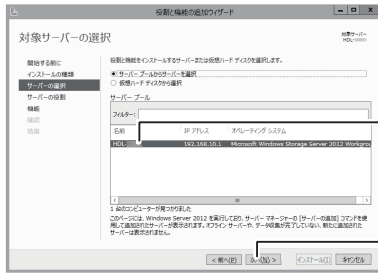
4



① [役割ベースまたは...] を選ぶ

② [次へ] をクリック

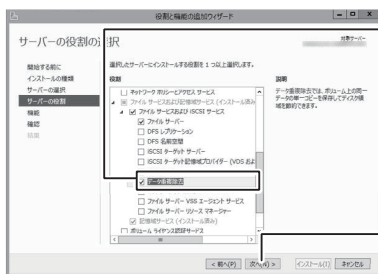
5



①インストール先の本製品を選択

②[次へ]をクリック

6



①[ファイルサービスおよび記憶域サービス]→[ファイルサービスおよびiSCSI サービス]→[データ重複除去]にチェックをつける

②[次へ]をクリック

7

画面の指示にしたがってインストールする

以上でインストールは完了です。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

データ重複除去を設定する

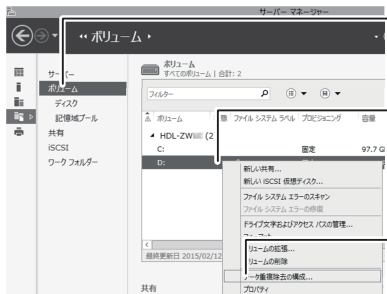
1 [サーバーマネージャー] を開く

2



[ファイルサービスと記憶域サービス] をクリック

3

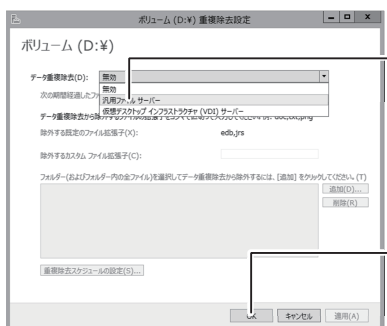


① [ボリューム] をクリック

② 重複除去を適用するドライブを
右クリック

③ [データ重複除去の構成] を
クリック

4



① [汎用ファイルサーバー] を選択
※必要に応じて、日数や拡張子を設定します。

② [OK] をクリック

以上で設定は完了です。

記憶域プールと仮想ディスク

記憶域プールに登録されているストレージを自由に仮想ディスクとして切り出して利用できます。

仮想ディスク機能を利用するには、あらかじめ記憶域プールに物理ストレージを登録しておく必要があります。

ご注意

- 記憶域プールに利用可能なストレージは、ボリューム確保されていない「未使用」状態である必要があります。すでにボリューム確保されているストレージを記憶域プールで利用する場合は、あらかじめ[コンピューターの管理]から該当するボリュームを削除しておいてください。

ボリュームを削除すると該当ボリューム内のすべてのデータが消去されますので、必要に応じてバックアップをお取りください。

Windows Storage Server 2012の仮想ディスク機能では、それ自身でミラーリングやパリティ処理、スペア処理などを実施できますので、マルチディスクモードでリカバリー処理直後に設定することを推奨します。

1 [サーバーマネージャー]を開く

2



[ファイルサービスと記憶域サービス]をクリック

3



① [記憶域プール]をクリック

② [タスク] → [記憶域プールの新規作成]をクリック

4



[次へ]をクリック

使う前に

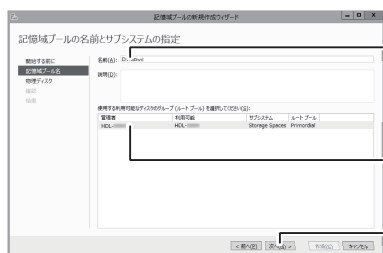
導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

5

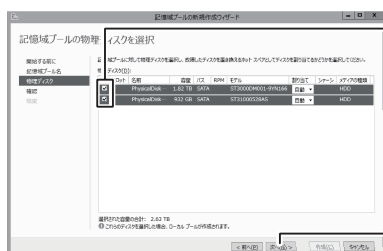


①任意の[名前]を入力
※[説明]は必要に応じて入力します。

②使用可能なディスクを選ぶ

③[次へ]をクリック

6



①記憶域プールに登録する物理ディスクをチェック

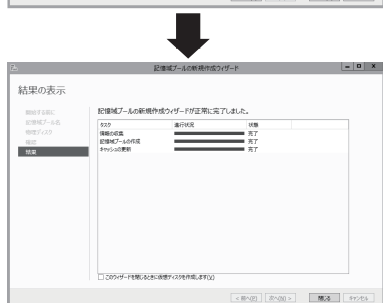
※記憶域プールに登録できるディスクは、確保されていない領域を持ったディスクです。

②[次へ]をクリック

7



内容を確認し、[作成]をクリック

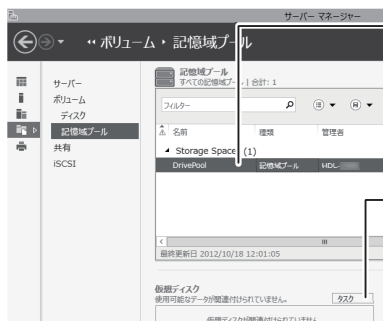


設定完了画面が表示されます。

以上で、記憶域プールへの物理ディスク登録は完了です。

引き続き、仮想ディスクを作成します。次ページへお進みください。

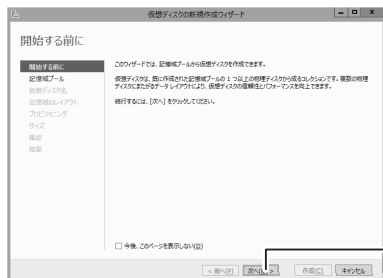
8



①作成した記憶域プールを選ぶ

②仮想ディスク欄の[タスク]→[仮想ディスクの新規作成]をクリック

9



[次へ]をクリック

使う前に

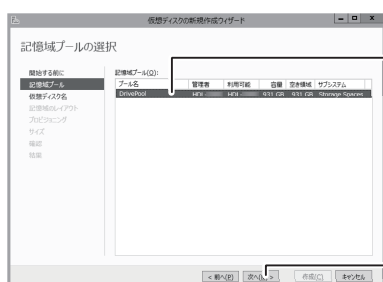
導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

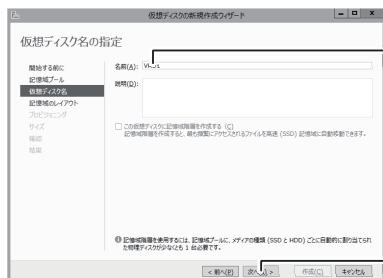
10



①仮想ディスクを作成する記憶域プールを選ぶ

②[次へ]をクリック

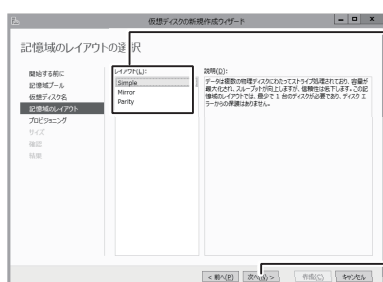
11



①任意の[名前]を入力
※[説明]は必要に応じて入力します。

②[次へ]をクリック

12



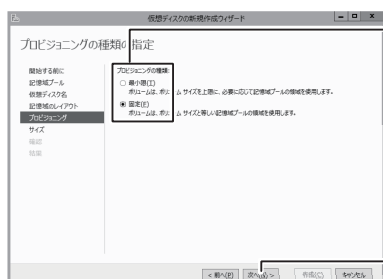
①[レイアウト]を選ぶ
※次ページの【[レイアウト]設定項目】を参照

②[次へ]をクリック

[レイアウト] 設定項目

Simple	冗長性を持たない仮想ディスクを作成します。
Mirror	ミラーリング構成の仮想ディスクを作成します。 手順 6 で選んだ物理ディスクが 2 台以上で構成されている必要があります。また、5 台以上の物理ディスクで構成されている場合は、同時に 2 台までの物理ディスク障害に対応可能です。
Parity	RAID 5 のようにパリティ演算を行い、1 台分の冗長性を確保します。 手順 6 で選んだ物理ディスクが 3 台以上で構成されている必要があります。

13



①プロビジョニングの種類を選ぶ

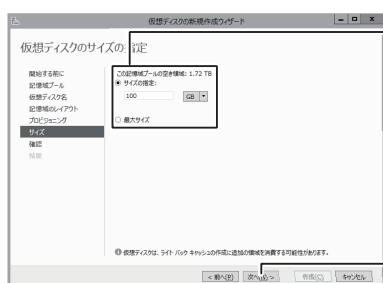
※下の【[プロビジョニングの種類] 設定項目】を参照

②[次へ]をクリック

[プロビジョニングの種類] 設定項目

最小限	仮想的なボリュームサイズを設定し、実際に使用する分だけ記憶域プールから切り出して割り当てます。利用量が記憶域プールの上限に近付いた場合は、新しく物理ディスクを記憶域プールに追加することで対応できます。
固定	実際のボリュームサイズと同じ容量のストレージを記憶域プールから切り出します。

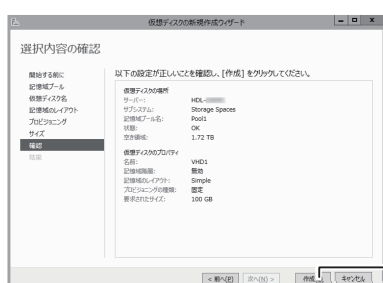
14



①ディスクのサイズを設定

②[次へ]をクリック

15



内容を確認し、[作成]をクリック

設定完了画面が表示されたら、設定は完了です。

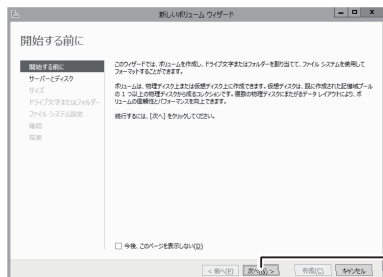
[このウィザードを閉じるときにボリュームを作成します] にチェックをつけると、作成した仮想ディスク上にボリュームを作成することができます。

この場合、引き続き次ページをご覧ください。

ボリュームを作成する

仮想ディスクの新規作成完了時に、[このウィザードを閉じるときにボリュームを作成します] にチェックを付けると、「新しいボリュームウィザード」が起動します。
※ [サーバーマネージャー] の [ファイルサービスと記憶域サービス] → [ボリューム] から、[タスク] の [ボリュームの新規作成] を選択しても「新しいボリュームウィザード」が起動します。

1



[次へ] をクリック

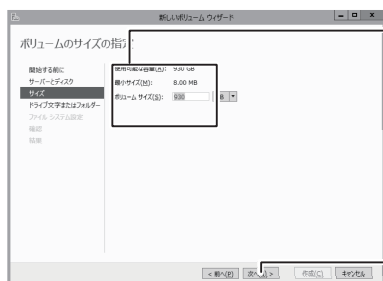
2



① ボリュームを作成するディスクを選ぶ

② [次へ] をクリック

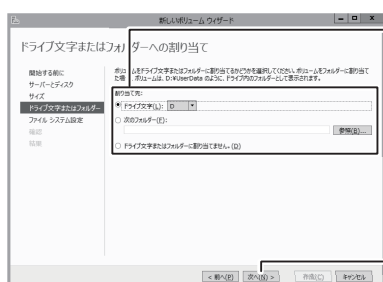
3



① 作成するボリュームのサイズを設定

② [次へ] をクリック

4



① 割り当てるドライブレターを選ぶ

② [次へ] をクリック

使う前に

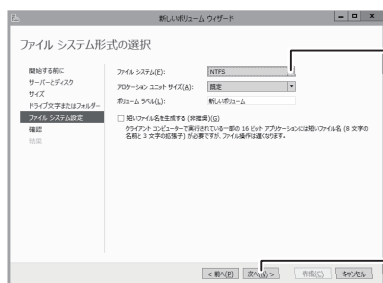
導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

5



①ファイルシステムを選ぶ

②[次へ]をクリック

6



内容を確認し[作成]をクリック

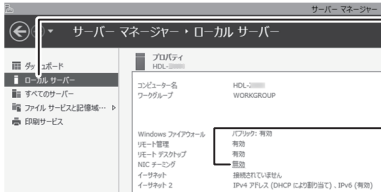
完了画面が表示されたら、ボリュームの作成は完了です。

NIC チーミング

NIC チーミングでは、複数のネットワークインターフェースを束ねて帯域を拡大したり、ネットワークインターフェースの片方に障害が発生した場合でもサービスを停止しないストレージを構築できます。

1 [サーバーマネージャー]を開く

2



① [ローカルサーバー] をクリック

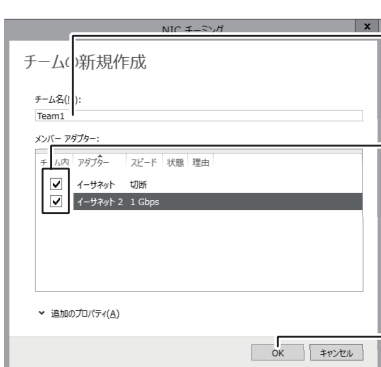
② NIC チーミング横の [無効] をクリック

3



[チーム] 欄の [タスク] → [チームの新規作成] をクリック

4



① チーム名を入力

② チームに所属するアダプターを選択

③ [OK] をクリック

NIC チーミングに登録したチーム名が表示され、状態が [OK] に変わったら完了です。(OK に変わるまで数分かかる場合があります。)

チーム				
すべてのチーム 合計: 1				タスク ▼
チーム	状態	チーミング モード	負荷分散	アダプター
Team1	① OK	スイッチに依存しない	動的	2

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

故障時の対応

保守サービスのご案内

アイオー・セーフティ・サービス (ISS) は、本製品をより長く安心してご利用いただくために、万が一の場合の保守を実施する有償保守サービスです。

設置から、故障時の交換、ハードディスクのデータ復旧まで充実のサービスをご用意。

ワンストップでのサービスをご提供いたします。詳しくは以下をご確認ください。

<http://www.iodata.jp/biz/iss/tokusetsu/>



カートリッジの交換方法

本製品の電源が入っている状態で、HDD アンプラグをおこなうと、故障したカートリッジを交換できます。

対応カートリッジは、【オプション HDD】(9 ページ) をご確認ください。

ご注意

- RAID 崩壊した本製品のデータを復旧することはできません。万一来備えて定期的にバックアップをお取りください。
- カートリッジ (HDD) は、故障時以外には取り外さないでください。不用意に取り外すと冗長性が失われたり、RAID 崩壊しすべてのデータを失い、修復不能な状態になる場合があります。
- RAID 1/RAID 5 の場合、一度に取り外しできるカートリッジは、1 台のみです。2 台以上取り外すと RAID 崩壊し、保存されているデータを失うことがあります。
- マルチディスクの場合、ZWS Manager ではアンプラグできません。タスクトレイの取り外しアイコンから取り外すか、本製品の電源を切ってから交換してください。 ([ステップ 2] カートリッジを外す) (92 ページ) 参照)

故障と思ったら…

故障したカートリッジの HDD ランプは赤点灯します。

本製品の HDD ランプをご確認の上、次ページ以降の手順をご確認ください。

▼故障の状態と対処

その他の状態については、【ランプの状態】(96 ページ) をご覧ください。

STATUS	HDD	ブザー※	動作内容	対処
赤点滅	該当 HDD 赤点灯	ピッピッ、 ピッピッ …	デグレード発生時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
赤点滅	全 HDD 赤点灯	ピーポー、 ピーポー …	RAID 崩壊時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。ボリュームに対してチェックディスクを実行し、ファイルシステムに問題がないことを確認してください。ログ・メールより構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。ボリュームにアクセスできなくなった場合は、ボリュームを再構築してください。

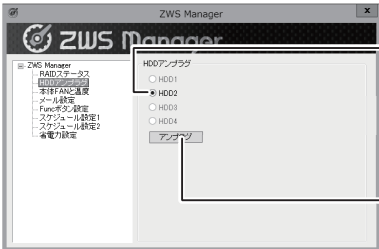
※ RAID に変化があったときにブザーが鳴ります。

ブザーが鳴った場合、Func ボタンを押すか、ZWS Manager で [ブザー OFF] をクリックするとブザーが停止します。

[ステップ 1]HDD アンプラグ

1 タスクトレイのアイコンから、ZWS Manager を起動する

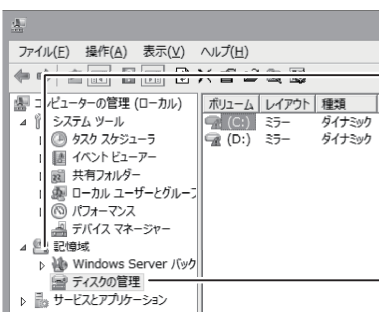
2  [HDD アンプラグ] をクリック

3  ①故障した HDD を選択
※故障した HDD は、HDD ランプが赤点灯します。
② [アンプラグ] をクリック

「アンプラグに失敗しました」と表示された
[アンプラグ] 処理ができていません。

本製品の電源を切り、【[ステップ 2] カートリッジを外す】(92 ページ) にお進みください。

4 [サーバーマネージャー]を開き、
[ツール] → [コンピューターの管理] をクリック

5  ① [記憶域] をクリック
② [ディスクの管理] をクリック

6  アンプラグしたディスクが
オフラインになっていることを
確認

使う
前に

導入
する

その
他の
設定

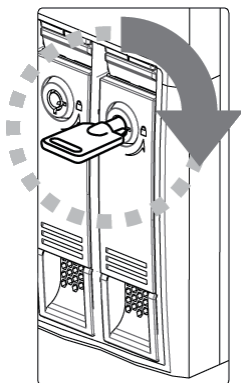
故障
時の
対応

資料

次に、故障したカートリッジを外します。次ページへお進みください。

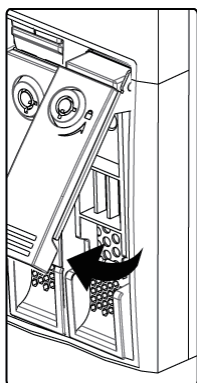
[ステップ 2] カートリッジを外す

1



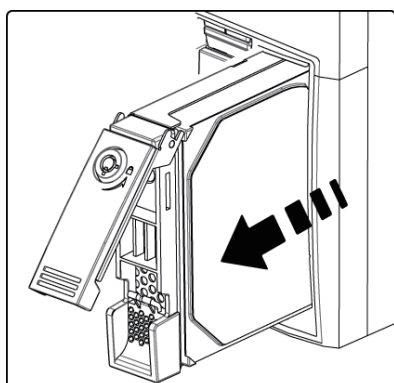
添付のロックキーを[カートリッジ固定ロック]に合わせ横向きに挿し、時計回りにまわして、[UNLOCK]にする
※ロックキーは、縦向きになります。

2



取り外すカートリッジの着脱レバーを開く

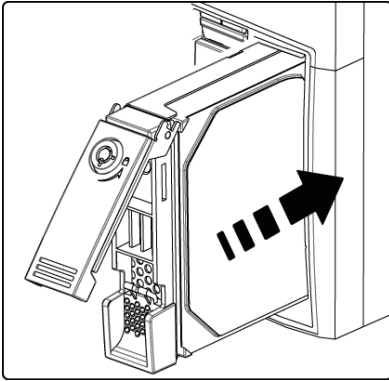
3



カートリッジを手前に引いて、取り出す

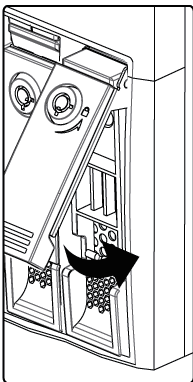
[ステップ3] カートリッジを取り付ける

1



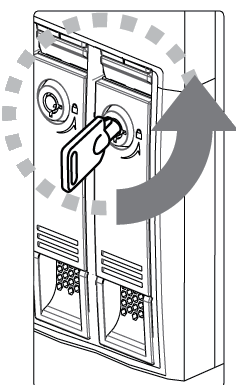
カートリッジをスロットの奥まで挿入する

2



"カチッ"と音が鳴るまで、着脱レバーをおろす

3



添付のロックキーを[カートリッジ固定ロック]に合わせ縦向きに挿し、反時計回りにまわして、[LOCK]にする
※ロックキーは、横向きになります。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

以上で交換は終了です。

取り付け完了後、ZWS Manager の[自動再構成]が[有効]に設定されている場合は、自動的に RAID の再構築を開始します。マルチディスクモード時は、交換した HDD を初期化する必要があります。【ステップ3 ハードディスクを初期化する】(44 ページ) 参照

HDD1 を交換した場合

交換後に以下をおこなってください。

- ① [コントロールパネル] から [システム] → [システムの詳細設定] を開く
- ② [詳細設定] タブの「起動と回復」の [設定] をクリック
- ③ 「既定のオペレーティングシステム」で、[セカンダリ] を選択し設定する

システムリカバリーする

ご注意

- システムリカバリーをおこなうと、選択したモードによっては、本製品のシステムドライブ (C:) およびデータ領域は完全に出荷時の状態に戻ります。保存されていたデータや、設定情報はすべて失われますので、必ず事前にバックアップしてください。
- システムリカバリー後、システム領域および選択したモードによってはデータ領域の再構築がおこなわれます。
- システムリカバリーは、必ずすべてのカートリッジが取り付けられた状態でおこなってください。

ステップ 1 準備する

- 1 次の機材を用意する
ディスプレイ、USB キーボード、USB 接続の DVD ドライブ (USB 2.0 対応のもの)、本製品添付のサポート DVD
- 2 本製品の VGA コネクタにディスプレイをつなぐ
- 3 本製品の USB ポートに USB キーボードをつなぐ
- 4 本製品の USB ポートに USB 接続の DVD ドライブを接続します。
※上記以外の、USB および eSATA HDD は接続しないでください。

次に以下の【ステップ 2】へお進みください。

ステップ 2 リカバリープログラムを起動する

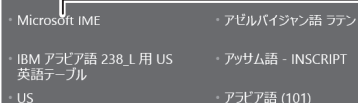
- 1 DVD ドライブにサポート DVD をセットし、本製品の電源を入れる
リカバリープログラムが起動し、使用許諾が表示されます。

リカバリープログラムが起動しない場合

- BIOS 設定の変更が必要な場合があります。
以下の手順で BIOS 設定を変更してください。
 - ① 本製品の電源投入直後より、[F2] キーを押しつづけて、BIOS 設定画面を起動します。
 - ② カーソルキーで [ブート] を選択します。
 - ③ [USB CD:] にカーソルを合わせ、[+] キーで優先順位を最も高く設定します。以上で BIOS 設定は変更されました。ステップ 2 手順 1 より再度実行してください。

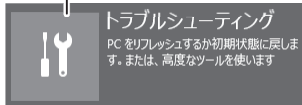
2

キーボードレイアウトの選択



[Microsoft IME] をクリック

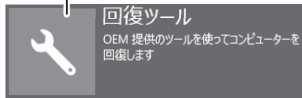
3



[トラブルシューティング] をクリック

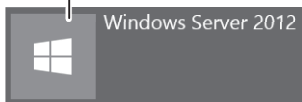
※リカバリープログラムがドライブ C: に Windows システムを発見した場合、[トラブルシューティング] の上に、[続行] と表示されます。[続行] をクリックすると、リカバリープログラムを終了して、Windows を起動します。

4



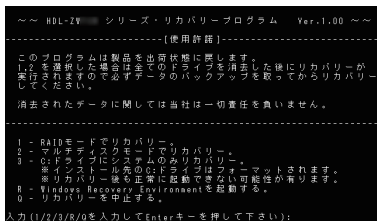
[回復ツール] をクリック

5



OS 選択が表示された場合は、[Windows Server 2012] をクリック

6

状況に応じて以下を選ぶ
※該当するキーを押します。

1	出荷時状態に戻す場合に選択します。 すべてのデータが消去されます。
2	マルチディスクモードに設定します。 すべてのデータが消去されます。 ※マルチディスクモードについては、【マルチディスク】(43 ページ) をご覧ください。
3	システム領域のみリカバリーします。データは残りますが、起動情報が失われている場合は復元できない場合があります。
Q	リカバリーを中止します。

7

確認メッセージが表示されたら、[yes] と入力して、Enter キーを押す → リカバリーを開始します。リカバリーが完了するまでしばらくお待ちください。

8

完了のメッセージが表示されたら、DVD ドライブを取り外し、何かキーを押す

以上でリカバリーは完了です。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

ご注意

- Windows の初期化作業のため、起動するまでに何度か自動的に再起動します。
- 「1 (RAID モードでリカバリー)」を選択した場合、Windows 起動後にデータボリュームの生成をおこないます。データボリュームの生成には、RAID のリビルド作業を伴います。
- 「2 (マルチディスクモード)」を選択した場合、Windows 領域以外は、未使用領域となります。個別に領域確保、フォーマットをしてください。手順は、【マルチディスク】内【ステップ3 ハードディスクを初期化する】(44 ページ) をご覧ください。

出荷時設定

コンピューター名	HDL-ZWLC2	
ワークグループ名	WORKGROUP	
IP アドレス	自動取得	
DNS サーバーアドレス	自動取得	
RAID 状態	2ドライブモデル	RAID 1
	4、6ドライブモデル	RAID 5

ランプの状態

カテゴリ	LCD 表示内容 ^{※1}	LCD 表示例 ^{※1}	STATUS	HDD	ブザー ^{※2}	動作内容	対処
通常稼働時 ^{※3}	RAID モード RAID 状態	RAID MODE RAID x または Unknown Mode	緑点灯	緑点灯	なし	現在の RAID モードの表示	「Unknown Mode」と表示された場合は、ボリュームが複数 認識されています。ボリュームを2つに戻して RAID モード が表示されるか確認してください。
	IP アドレス 設定した IP アドレス	IP ADDRESS x 192.168.0.1	緑点灯	緑点灯	なし	現在の IP ア ドレスの表示	—
	HDD 容量 空き容量 / 全容量	C : CAPACITY xxxxx/yyyyyGB	緑点灯	緑点灯	なし	ドライブごと の HDD 容量 の表示	—
	ホスト名 設定したホスト名	HOST NAME HDL-ZWL2C2	緑点灯	緑点灯	なし	設定したホス ト名を表示	—
	日付時刻 今の時間を表示	DATE 10/05/06 17:16	緑点灯	緑点灯	なし	現在の時刻を 表示	—
	ユーザーテキスト設定(1行目) ユーザーテキスト設定(2行目)	XXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXX	緑点灯	緑点灯	なし	ユーザー設定 を表示	—
RAID 再構築	RAID モード RAID 再構築中	RAID MODE RAID Rebuild	緑点滅	緑点滅	ピロツ	RAID 再構築 中のとき	RAID を再構築中です。再構築が完了するまで HDD の抜き 差しを行わないでください。
エラー	システムエラー デグレード	SYSTEM ERROR RAID Degraded	赤点滅	該当 HDD 赤点灯	ビッピッ、 ビッピッ ...	デグレード発 生時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。構成ディス クにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交 換してください。
	システムエラー RAID 崩壊	SYSTEM ERROR RAID Crash	赤点滅	全HDD 赤点灯	ピーポー、 ピーポー ...	RAID 崩壊時	至急ボリュームのバックアップを取ってください。ポリュ ームに対してチェックディスクを実行し、ファイルシステムに 問題がないことを確認してください。ログ・メールより構成 ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいもの に交換してください。ボリュームにアクセスできなくなった 場合は、ボリュームを再構築してください。
	システムエラー システムなし	SYSTEM ERROR SYSTEM NotFound	緑点灯	認識し たHDD のみ緑 点灯	なし	起動 HDD が ない時	起動 HDD が接続されていません。HDD が正常に接続され ていることを確認してください。
	システムエラー 温度異常	SYSTEM ERROR Heat Error	赤点灯	緑点灯	なし	温度異常の時	設置環境を確認し、FAN からの排熱が逃げ易い環境であるこ とを確認してください。温度異常を検知したら自動的に電源 が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたら FAN が 正常に稼働していることを確認してください。

※1 LCD は、4 ドライブモデル、6 ドライブモデルのみです。

※2 RAID 状態に変化があったときにブザーが鳴ります。ブザー音が鳴った場合、Func ボタンを押す、または、
ZWS Manager 上で [ブザー OFF] をクリックするとブザーが停止します。

※3 通常起動中は SELECT ボタンで、表示内容を変更でき、ENTER ボタンで、バックライトの ON/OFF が行えます。

ログ、メール一覧

ログ・メール内容	メールタイトル	概要	対処
内蔵スロット x のディスクにエラーが検出されました。 システムを再起動しても再度エラーが検出される場合は、ディスクに致命的なエラーが発生している可能性があるため、至急交換してください。 (x は、1 ～ 4)	ディスクエラー	内蔵スロット x のディスクが「エラー」状態になった。 (x は、1 ～ 4)	至急システムボリュームおよびデータボリュームのバックアップを取ってください。 システムボリュームおよびデータボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 システムを再起動可能な場合は、再起動を行ってエラーが消えるが確認してください。 内蔵スロット x のディスクを交換してください。 ZWS Manager からアンプラグできない場合は、システムの電源を切ってから交換してください。(x は、1 ～ 4)
システムボリューム上にエラーが検出されました。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「失敗」となった。 システムボリュームの情報が「危険」となった。	至急システムボリュームのバックアップを取ってください。 システムボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。 システムが起動不能となった場合は、システムのリストアを行ってください。
データボリューム上にエラーが検出されました。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「失敗」となった。 システムボリュームの情報が「危険」となった。	至急データボリュームのバックアップを取ってください。 データボリュームに対してチェックディスクを実行してファイルシステムに問題がないことを確認してください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。 データボリュームにアクセスできなくなった場合は、データボリュームを再構築してください。
システムボリュームの冗長性が失われています。	ボリュームエラー	システムボリュームの状態が「冗長の失敗」となった。	至急システムボリュームのバックアップを取ってください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
データボリュームの冗長性が失われています。	ボリュームエラー	データボリュームの状態が「冗長の失敗」となった。	至急データボリュームのバックアップを取ってください。 構成ディスクにエラーがある場合は、そのディスクを新しいものに交換してください。
システムボリュームの再構築が開始されました。	ボリューム情報	システムボリュームの状態が「再構築中」となった。	システムボリュームの状況を確認してください。
データボリュームの再構築が開始されました。	ボリューム情報	データボリュームの状態が「再構築中」となった。	データボリュームの状況を確認してください。
システムボリュームの再構築が完了しました。	ボリューム情報	システムボリュームの状態が(「正常」以外の状態から)「正常」となった。	システムボリュームの状況を確認してください。
データボリュームの再構築が完了しました。	ボリューム情報	データボリュームの状態が(「正常」以外の状態から)「正常」となった。	データボリュームの状況を確認してください。
ZWS RAID Manager で管理できない状態です。	(メールなし)	内蔵ディスク上にボリュームが 3 個以上存在する。	内蔵ディスク上にシステムボリュームと、データボリュームが 1 個だけ存在する状態にしてください。
本体内部の温度が仕様範囲を超えたため本体をシャットダウンしました。	温度異常	システム温度が仕様範囲を超えた。	設置環境を確認し、FAN からの排熱が逃げ易い環境であることを確認して下さい。温度異常を検知したら自動的に電源が切れますので、再起動後に再び同じ現象が起きたら FAN が正常に稼働していることを確認してください。
Func ボタンが押され登録されているコマンド xxx が実行されました。(x x x は登録したコマンド)	(メールなし)	Func. ボタンが有効で、Func. ボタンが押された。	Func ボタン機能が有効の場合は、Func. ボタンを 3 秒以上押すと登録したコマンドが実行されますので、登録されたコマンドが実行されたことを確認してください。

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

ハードウェア仕様

シリーズ		HDL-Z6WLC2 シリーズ	HDL-Z4WLC2 シリーズ	HDL-Z2WLC2 シリーズ
搭載 OS		Windows Storage Server 2012 R2 Standard 64 ビット版		
カートリッジ		6 スロット対応 (SATA 接続)	4 スロット対応 (SATA 接続)	2 スロット対応 (SATA 接続)
メモリ容量		4.0G バイト		
RAID		RAID 0/5		RAID 0/1
CPU		Intel Atom Processor 2.13GHz(Dual Core)		
LAN	転送規格	IEEE 802.3ab、IEEE802.3u、IEEE802.3 (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)		
	最大転送速度	1000/100/10Mbps		
	コネクタ	RJ-45 × 2		
	アクセス方法	CSMA/CD		
	MDI/MDI-X	自動切換		
eSATA ホスト	適合ケーブル	UTP カテゴリー 5e 以上、100m 以下		
	転送規格	SATA I / SATA II (NCQ 対応)		
	最大転送速度	3.0Gbps		
	コネクタ	eSATA コネクタ × 2		eSATA コネクタ × 1
USB ホスト	転送規格	USB 2.0(1.1 含む) / USB 3.0		
	最大転送速度	480Mbps / 5Gbps		
	コネクタ	USB 2.0 用 A コネクタ × 5 USB 3.0 用 A コネクタ × 2	USB A コネクタ × 7	USB A コネクタ × 5
電源仕様	定格電圧	AC100V(50/60Hz)		DC12V
	消費電力 (電流)	101W(TYP)	77W(TYP)	5A
動作環境		0 ~ 40℃ 20 ~ 80% (結露なきこと)		
物理仕様	外形寸法 (突起部含まず)	260(W)×235(D)×180(H) mm	180(W)×235(D)×180(H) mm	102(H)×216(W)×150(H)mm
	質量	約 9.6kg	約 7.2kg	約 3.7kg

ZWS Manager

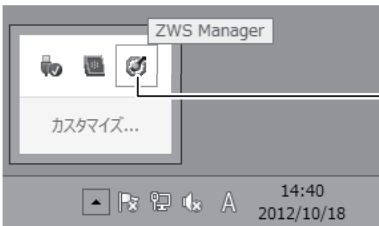
ZWS Manager は本製品の RAID 管理、温度管理、その他設定を行う管理ソフトです。

ZWS Manager は本製品の起動と同時に自動的に起動します。初期状態はタスクトレイ上に表示されています。

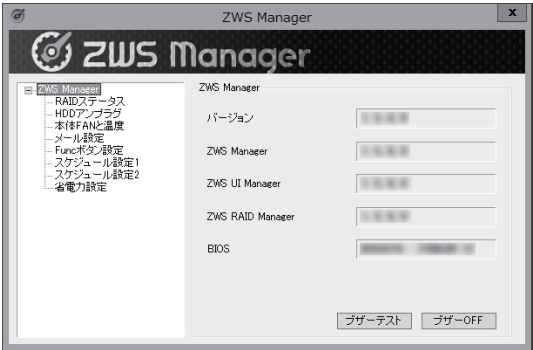
ご注意

- ZWS Manager は、Administrator の権限のユーザーでログオンした場合のみ起動できます。

ZWS Manager メイン画面の表示方法



タスクトレイのアイコンをクリック



ZWS Manager のメイン画面が表示されます。

画面左側が項目、右側が詳細情報ビューです。

▼ ZWS Manager … メイン画面です。各種バージョンを表示します。

ZWS Manager バージョン	ZWS Manager のバージョンを表示します。
ZWS UI Manager バージョン	ZWS UI Manager のバージョンを表示します。
ZWS RAID Manager バージョン	ZWS RAID Manager のバージョンを表示します。
BIOS バージョン	製品の BIOS バージョンを表示します。

使う前に

導入する

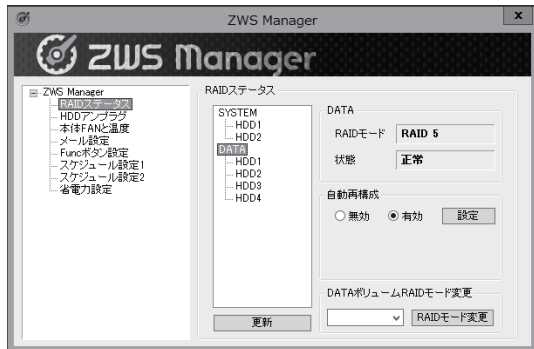
その他の設定

故障時の対応

資料

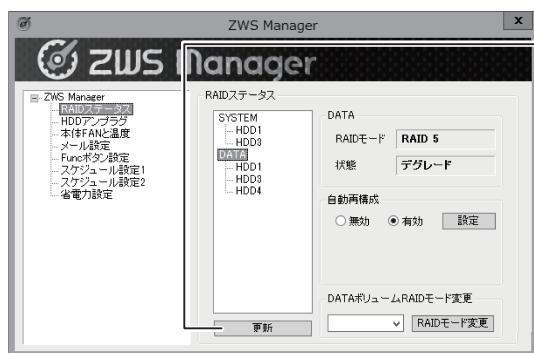
ZWS Manager 画面一覧

▼ RAID ステータス … RAID 設定の実行、RAID 情報が表示されます。



SYSTEM	システムに使用しているハードディスクを表示します。
DATA	データ領域に使用しているハードディスクを表示します。 ※マルチディスクの場合、表示されません。
RAID モード	現在設定されている RAID モードを表示します。
状態	現在の RAID の状態を表示します。
自動再構成	自動再構成の有効 / 無効を設定します。 有効に設定すると、故障ハードディスク（カートリッジ）の交換時に自動的に再構築を行います。 無効に設定すると、故障ハードディスク（カートリッジ）の交換をしても自動再構築を行いません。 RAID 構成に組み込む HDD にチェックをつけてから、[設定] ボタンをクリックすると、再構築を行います。 結果は RAID ステータス画面で確認します。（結果の反映まで数分必要な場合があります。）
RAID モード変更	データボリュームの RAID モードを変更・表示します。 ※マルチディスクの場合、変更できません。設定方法は、【マルチディスク】（43 ページ）をご覧ください。

カートリッジ交換後に RAID ステータスで認識されない場合

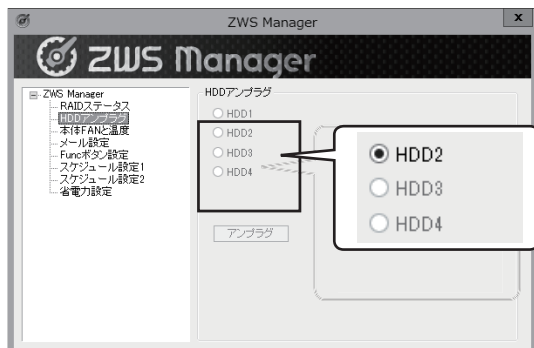


[更新] をクリック

本製品の電源が入っている状態で、カートリッジを交換後に、ZWS Manager の RAID ステータスで認識されず、リビルドが開始できない場合があります。

※ RAID ステータス画面の反映まで、数分程度かかります。

▼ HDD アンプラグ … 障害が発生したハードディスクを指定し、[アンプラグ] 処理を行います。



障害が発生した HDD 番号以外は、選択できません。

※マルチディスクの場合、ZWS Manager からは取り外しできません。

※左の画面は、HDD2 に障害が発生した場合の表示例です。

▼本体 FAN と温度 … FAN の回転数と本体温度を表示します。



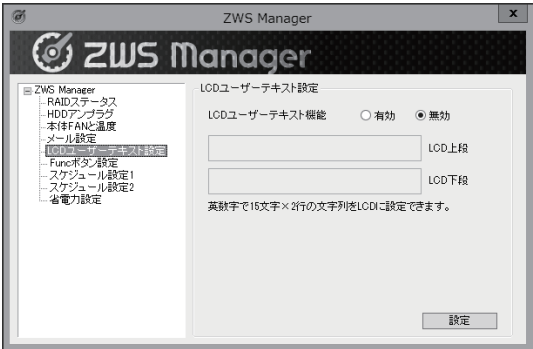
FAN 回転数	現在の FAN の回転数を表示します。 搭載されている FAN の数に応じて、複数表示される場合があります。
本体温度	現在の本体の温度を表示します。

▼メール設定 … メール送信設定を表示します。



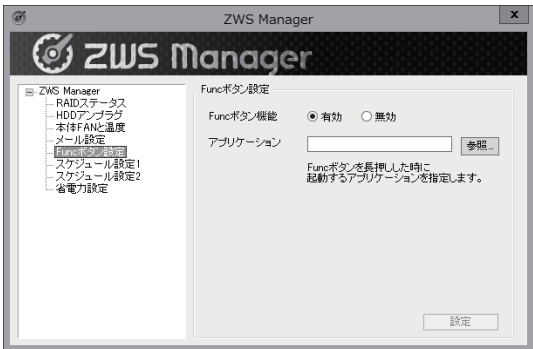
メール機能	メール機能の有効 / 無効を設定します。
SMTP サーバー	SMTP サーバーを入力します。
SMTP サーバーポート番号	SMTP サーバーポート番号を入力します。
メール差出人アドレス	差出人として表示するメールアドレスを入力します。
認証方式	認証方式を選択します。
認証 POP サーバー名	選択した [認証方式] に応じた認証 POP サーバー名を入力します。
ユーザー名	選択した [認証方式] に応じたユーザー名を入力します。
パスワード	選択した [認証方式] に応じたパスワードを入力します。
メール送信先アドレス	送信先のメールアドレスを入力します。 複数のアドレスを設定した場合はセミコロン ";" で区切ってください。(最大 255 文字)
エンコード	エンコード方式を [ISO-2022-JP] か [UTF-8] から選択します。

▼ LCD ユーザーテキスト設定 … LCD のテキストの設定を表示します。(4、6 ドライブモデルのみ)



LCD ユーザーテキスト機能	LCD ユーザーテキスト機能の有効 / 無効を設定します。
LCD 上段	上段に表示したい文字を入れます。
LCD 下段	下段に表示したい文字を入れます。

▼ Func ボタン設定 … Func ボタンの設定を表示します。



Func ボタン機能	Func ボタン機能の有効 / 無効を設定します。
アプリケーション	Func ボタンを押すと起動するアプリケーションを設定します。

使う前に

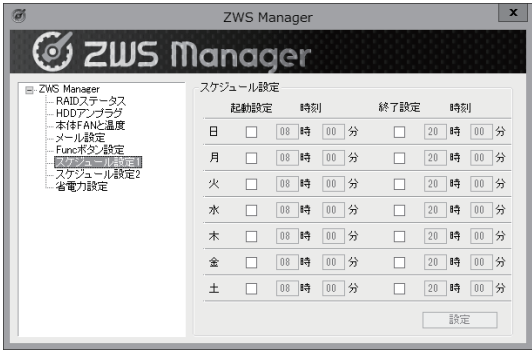
導入する

その他の設定

故障時の対応

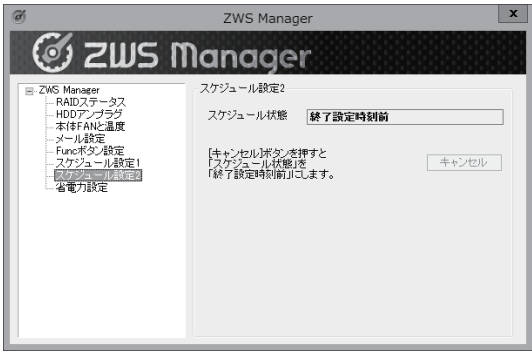
資料

▼スケジュール設定 1 … 終了する曜日や時刻を設定できます。



終了する曜日にチェックをつけ、時刻を入力します。
終了時刻にシャットダウンします。
※本製品はスケジュール起動には対応しておりません。
※設定時刻にバックアップなどソフトウェアが動作しないようにご注意ください。

▼スケジュール設定 2 … スケジュール終了の保留状態の確認と処理をおこなえます。



次の状態の場合、終了設定時刻を過ぎてもシャットダウンは実行されずに保留状態になります。

- ・RAID 再構築中
- ・ユーザーが共有フォルダー内のファイルを開いている

[スケジュール設定2] では、保留状態の確認や保留状態の解除ができます。

スケジュール状態	次の内容が表示されます。	
	終了設定時刻前	終了時刻になると、終了動作をおこないます。
	ユーザーログオン中 RAID 再構築中	保留状態です。 該当の動作が完了時に、終了動作をおこないます。
[キャンセル] ボタン	「ユーザーログオン中」や「RAID 再構築中」の保留状態を解除する場合にクリックします。 次の終了時刻まで終了しません。	

▼省電力設定 … 内蔵・外付けの各ディスクに対してアクセスされなくなってから、スピンドアを実行するまでの時間を設定できます。

※システム (Windows) がインストールされた内蔵ディスクでは、機能しません。(システムは、内蔵ディスクの C ドライブ領域にインストールされています。)

※省電力設定対応の外付け HDD は、【対応外付 HDD】(8 ページ) をご確認ください。



省電力機能	省電力機能の有効 / 無効を設定します。
停止までの時間	内蔵・外付けの各ディスクに対してアクセスされなくなってから、スピンドアを実行するまでの時間を設定します。

※設定時間内に共有フォルダーなどにアクセスしなくても、本製品のシステムが HDD にアクセスした場合は、停止しません。
※ HDD 停止中に、本製品システムからのアクセスによりディスクがスピンドアする場合があります。

対応ソフトウェア

本製品では、次のソフトウェアが利用できます。

クローン for Windows	2台の NAS の共有フォルダーを定期的に同期させ、NAS の故障からの復旧時間を大幅に短縮させるバックアップソフトです。 万一、メイン機が故障した場合でも、バックアップ機に切り替えるだけですぐに運用を再開することができます。 また、古くなった Windows Server 2003 搭載サーバーから新しい NAS にデータを移行する場合も利用できます。 詳しくは次のサイトをご覧ください。 http://www.iodata.jp/biz/cloneforwindows/ 
データコピー for Windows	NAS のリプレイス時などに古い NAS から LAN DISK Z シリーズにデータをコピーできるデータコピーツールです。 古い LAN DISK Z シリーズからコピーはもちろん、Linux 系 OS を搭載した当社オリジナル OS モデルや他社製 NAS からもスムーズに新しい LAN DISK Z シリーズへコピーできます。 また、スケジュール設定やコピー元の ACL 情報のコピーにも対応しています。 詳しくは次のサイトをご覧ください。 http://www.iodata.jp/product/app/nas/datacopy-for-windows/index.htm 

使う前に

導入する

その他の設定

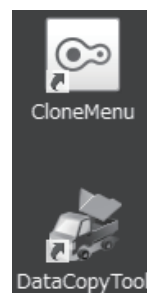
故障時の対応

資料

各ソフトウェアのご利用方法

本製品を起動し、デスクトップ上の各ソフトウェアアイコンをダブルクリックします。

- ・クローン for Windows は、インストーラーが起動します。画面の指示にしたがってください。
- ・データコピー for Windows は、インストール不要です。



※詳しくは、それぞれの「画面で見るマニュアル」をご覧ください。

※各ソフトウェアのファイルを消してしまった場合は、【対応ソフトウェアのダウンロード方法】（104 ページ）をご覧ください。

対応ソフトウェアのダウンロード方法

- 1 以下の Web ページにアクセスする
<https://ioportal.iodata.jp/>

ソフトウェアをダウンロードするため、ユーザー登録してください

ユーザー登録後、本製品のシリアル番号を登録することで、ソフトウェアをダウンロードできます。

2



IOPortal へログイン

はじめて登録する場合
[新規会員登録へ]をクリックし、画面の指示にしたがってください。

3



[製品を登録する]をクリック

4



①本製品のシリアル番号を入力

② [製品を登録する] をクリック

5

内容を確認して、
[製品を登録する]をクリック

6

[登録製品の一覧へ戻る]を
クリック

7

目的のソフトウェアの
[ダウンロード]をクリック

8

ここで画面で見るマニュアルが
ダウンロードできます。

お使いの OS をクリック

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

9



[ダウンロード]をクリック

これでソフトウェアのダウンロードは完了です。

アフターサービス

重要

- 本製品の修理対応、電話やメール等によるサポート対応、ソフトウェアのアップデート対応、本製品がサーバー等のサービスを利用する場合、そのサービスについては、弊社が本製品の生産を完了してから5年間を目途に終了とさせていただきます。ただし状況により、5年以前に各対応を終了する場合があります。
- 個人情報は、株式会社アイ・オー・データ機器のプライバシーポリシー (<http://www.iodata.jp/privacy.htm>) に基づき、適切な管理と運用をおこないます。

お問い合わせについて

弊社サポートページにて、**以下をご確認ください**

▼ 弊社サポートページ

<http://www.iodata.jp/support/>



- 1 「Q&A よくあるご質問」を参照
- 2 最新のソフトウェアをダウンロード



それでも解決できない場合は、**サポートセンターへ**

電話 ▶ 050-3116-3025

受付時間 9:00～17:00 月～金曜日(祝祭日・年末年始・夏期休業期間をのぞく)

インターネット ▶ <http://www.iodata.jp/support/>

※ご用意いただく情報▶製品情報(製品名、シリアル番号など)、PCや接続機器の情報(型番、OSなど)

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

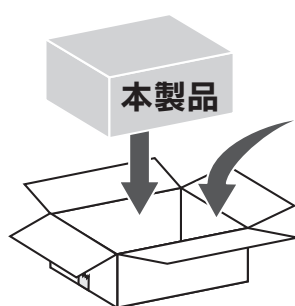
資料

保証期間

3 年間

修理について

以下を**梱包**し、**修理センター**へ**お送りください**



レシート、納品書

など**購入日**を示すもの
または**保証書**

+

メモ

・名前・住所・TEL/FAX番号
・メールアドレス・症状

※メモの代わりにWeb掲載の修理
依頼書を印刷すると便利です。



〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
株式会社 アイ・オー・データ機器 修理センター 宛

※厳重に梱包してください。弊社到着までに破損した場合、有料修理となる場合があります。

※紛失をさけるため宅配便でお送りください。

※送料は、発送時はおお客様ご負担、返送時は弊社負担です。

【見積無料】有料修理となる場合は、先に見積をご連絡します。金額のご了承をいただいてから、修理いたします。

【データ】内部にデータがある場合、厳密な検査のため、内部データは消去されます。何卒、ご了承ください。バックアップ可能な場合は、お送りいただく前にバックアップしてください。弊社修理センターではデータの修復はおこなっておりません。

【シール】お客様が貼られたシールなどは、修理時に失われる場合があります。

【保証内容】ハードウェア保証規定をご確認ください。

【控え】製品名とシリアル番号(S/N)はお手元に控えておいてください。

【修理について詳しくは】以下のURLをご覧ください(修理依頼書はここから印刷できます)。

<http://www.iodata.jp/support/after/>

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

MICROSOFT WINDOWS STORAGE SERVER 2012 R2 STANDARD

本マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項（以下「本ライセンス条項」といいます）は、お客様と以下の当事者との契約を構成します。

- ・ ソフトウェア（以下「本ソフトウェア」といいます）をサーバーと共に頒布するサーバー製造業者（以下「製造業者」といいます）、または
- ・ 本ソフトウェアをサーバーと共に頒布するソフトウェア インストール業者（以下「インストール業者」といいます）

以下のライセンス条項をお読みください。本ライセンス条項は、上記のソフトウェアおよびソフトウェアが記録されたメディア（以下総称して「本ソフトウェア」といいます）に適用されます。また、本ライセンス条項は本ソフトウェアに関連する下記マイクロソフト製品にも適用されるものとします。

- ・ 更新プログラム
- ・ 追加ソフトウェア
- ・ インターネット ベースのサービス
- ・ サポート サービス

これらの製品に別途ライセンス条項が付属している場合には、当該ライセンス条項が適用されるものとします。お客様が更新プログラムまたは追加ソフトウェアをマイクロソフトから直接入手された場合は、製造業者またはインストール業者ではなく、マイクロソフトが当該更新プログラムまたは追加ソフトウェアのライセンスを付与します。本ソフトウェアに印刷されたライセンス条項が付属していることがあります。その場合は、印刷されたライセンス条項が画面に表示される条項に優先されます。

本ソフトウェアを使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。本ライセンス条項に同意されない場合、本ソフトウェアを使用することはできません。この場合、製造業者またはインストール業者に問い合わせ、お支払いいただいた金額の払い戻しに関する方針を確認してください。以下に説明するように、一部の機能を使用することにより、インターネット ベースのサービスのために特定のコンピューター情報を送信することにお客様が同意されたものとします。

お客様がこれらのライセンス条項を遵守することを条件として、お客様には、取得する各ソフトウェア ライセンスにつき以下が許諾されます。

1. 総則。

- ソフトウェア。本ソフトウェアは次の製品で構成されます。
 - ・ サーバー ソフトウェア
 - ・ サーバー ソフトウェアと共にのみ使用できる追加ソフトウェア
- ライセンスの形態。本ソフトウェアは、以下の条件に基づいて許諾されます。
 - ・ お客様が実行するサーバー ソフトウェアのインスタンス数
 - ・ 物理的ハードウェアに含まれるプロセッサの数
- ライセンスに関する用語。
 - ・ インスタンス。お客様は、ソフトウェアのセットアップまたはインストール手順を実行することにより、ソフトウェアの「インスタンス」を作成したものとみなされます。また、既存のインスタンスを複製することによって、ソフトウェアのインスタンスを作成したものとみなされます。本ライセンス条項に含まれる本ソフトウェアに関する記述は、本ソフトウェアの「インスタンス」も含まれます。
 - ・ インスタンスの実行。お客様は、ソフトウェアのインスタンスをメモリに読み込み、その 1 つ以上の命令を実行することにより、「インスタンスを実行」したものとみなされます。実行された、インスタンスはそれがメモリから削除されるまで実行中であるとみなされます。その指示が引き続き実行されているか否かには左右されません。
 - ・ オペレーティング システム環境。「オペレーティング システム環境」とは次のように定義されます。
 - 別個のコンピューター（プライマリ コンピューター名などの一意の識別子）または別個の管理者権限を識別できる、オペレーティング システム インスタンスの全部または一部、仮想（またはエミュレートされた）オペレーティング システム インスタンスの全部または一部
 - (i) (該当する場合は) 上記のオペレーティング システム インスタンスまたはその一部で実行されるように構成されているアプリケーションのインスタンス
 オペレーティング システム環境には、物理環境と仮想環境の 2 種類があります。物理的オペレーティング システム環境は、物理的ハードウェア システム上で直接動作するように構成されています。ハードウェア仮想化ソフトウェア (Microsoft Virtual Server または同様のテクノロジなど) を実行するため、またはハードウェア仮想化サービス (Microsoft 仮想化テクノロジまたは同様のテクノロジなど) を提供するために使用されるオペレーティング システム インスタンスは、物理的オペレーティング システム環境の一部とみなされます。仮想オペレーティング システム環境は、仮想的（またはエミュレートされた）ハードウェア システム上で動作するように構成されています。
 物理的ハードウェア システムには、次のいずれかまたは両方が含まれます。
 - 1 つの物理的オペレーティング システム環境
 - 1 つ以上の仮想オペレーティング システム環境
 - サーバー。サーバーとは、サーバー ソフトウェアを実行することのできる物理的ハードウェア システムまたはデバイスをいいます。ハードウェア パーティションまたはブレードは、別個の物理的ハードウェア システムとみなされます。
 - ライセンスの割り当て。ライセンスの割り当てとは、単純に、ライセンスを 1 台のデバイスまたは 1 人のユーザーに対して指定することをいいます。

2. 使用に関する権利。

- 本サーバーへのライセンスの割り当て。本ソフトウェアのライセンスは、お客様が本ソフトウェアを取得する際に使用したサーバーに永続的に割り当てられます。そのサーバーは、その特定のライセンスに関して「ライセンス取得済みのサーバー」とみなされます。ハードウェアのパーティションまたはブレードは、別個のサーバーとみなされます。お客様は、同じライセンスを複数のサーバーに割り当てておくことはできません。
- サーバー ソフトウェアのインスタンスの実行。お客様は、一度に次のことを行うことができます。
 - ・ 1 つの物理的オペレーティング システム環境で、サーバー ソフトウェアの 1 つのインスタンスを実行すること。
 - ・ お客様がサーバーに割り当てたライセンスごとに、仮想オペレーティング システム環境で、最大 2 つのサーバー ソフトウェアのインスタンスを実行すること（1 つの仮想オペレーティング システム環境につき 1 つのインスタンスのみ）。
 許可されたすべてのインスタンスを同時に実行する場合、物理的オペレーティング システム環境において実行されているサーバー ソフトウェアのインスタンスは、次の目的に限り使用することができます。
 - ・ ハードウェア仮想化ソフトウェアを実行する。
 - ・ ハードウェア仮想化サービスを提供する。
 - ・ ライセンス取得済みのサーバー上でオペレーティング システム環境を管理および操作するためのソフトウェアを実行する。
- 追加ソフトウェアのインスタンスの実行。お客様は、以下に規定している Web サイトに一覧された追加ソフトウェアを、任意の数のデバイス上で物理的または仮想的な 1 つのオペレーティング システム環境で任意の数のインスタンスを実行することができます。お客様は、追加ソフトウェアをサーバー ソフトウェアと共にのみ使用することができます。追加ソフトウェアの一覧に記載されていないツールは、本サーバー ソフトウェアと使用するためにライセンスされるものではありません。追加ソフトウェアの一覧については、go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=290989 をご参照ください。
- サーバーまたはストレージ メディア上でのインスタンスの作成と格納。お客様は、取得されるソフトウェア ライセンス 1 つにつき、本ソフトウェアの任意の数のインスタンスを作成し、かかるインスタンスをお客様の任意のサーバーまたはストレージ メディアに格納することができます。これは、適用される使用権に規定されているお客様の任意のライセンスに基づいて、本ソフトウェアのインスタンスを実行する権利を行使するためにのみ実行できます（たとえば、お客様は第三者にインスタンスを頒布することはできません）。
- 含まれるマイクロソフト製プログラム。本ソフトウェアには、他のマイクロソフト製プログラムも含まれています。お客様によるこれらのプログラムの使用は、本ライセンス条項が適用されます。

3. 追加のライセンス条件および追加の使用権。

- 特定用途。製造業者またはインストール業者は、本サーバーを特定用途向けに設計しました。お客様は、当該用途に限り本ソフトウェアを使用することができます。お客様は、本サーバーの管理、パフォーマンス強化、予防保守、または無料のデータ ストレージ機能の提供のみを目的として使用するユーティリティまたは同様のソフトウェアを除き、追加のソフトウェア プログラムまたは機能をサポートするために本ソフトウェアを使用することはできません。
- 本ソフトウェアでサポートされる機能の制限。製造業者またはインストール業者は、本サーバーに提供およびインストールされている基本機能のみをサポートするために、本サーバー ソフトウェアの使用をお客様に許諾します。お客様は、本サーバーを使用し以下を実行またはサポートすることは許諾されていません。
 - ・ Microsoft SQL Server Express Edition などの非エンタープライズ データベース エンジンを除く、エンタープライズ データベース ソフトウェア (Microsoft SQL Server など)。本サーバー ソフトウェアは、製造業者またはインストール業者が本サーバーを設計した特定用途の一部として本サーバー ソフトウェアをサポートするためにのみ統合および使用されている、エンタープライズ データベース エンジン (Microsoft SQL Server など) を実行またはサポートすることもできます。
 - ・ エンタープライズ リソース プランニング (ERP) ソフトウェア。
 - ・ メッセージングまたはエンタープライズ メール。

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

- Microsoft Exchange または Microsoft SharePoint Portal Server。
 - チーム コラボレーション ソフトウェア。および
 - 予定、会議、およびその他の予定表アイテムを処理する Web ベースの時間管理アプリケーション。
- これらの制限は、上記に示すソフトウェアのデータ管理（ストレージおよびバックアップ機能の提供など）のために本サーバーを使用することを制限しません。
- c. Windows Server CAL は不要。本ライセンス条項に基づいて許諾されている Windows Storage Server ソフトウェアの機能にアクセスしたり、当該機能を使用したりするサーバーには、Windows Server 用クライアント アクセス ライセンス (CAL) は必要ありません。マイクロソフト製品の CAL を取得しても、お客様には、本ライセンス条項により許諾されていない本サーバー ソフトウェアの機能を使用する権利は付与されません。
- d. フォント コンポーネント。本ソフトウェアの実行中、お客様は本ソフトウェアに付属のフォントを使用してコンテンツを表示および印刷することができます。ただし、以下の用途に限定されます。
- フォントの埋め込みに関する制限の下で許容される範囲でコンテンツにフォントを埋め込む。
 - コンテンツを印刷するために、フォントをプリンターまたはその他の出力デバイスに一時的にダウンロードする。
- e. アイコン、画像、および音声。本ソフトウェア作動中、本ソフトウェアのアイコン、イメージ、サウンド、およびメディアを使用することはできますが、これらを共有することはできません。本ソフトウェアと共に提供されるサンプルの画像、音声、およびメディアは、お客様の非商業的な使用のみを目的としています。
- f. サーバー ソフトウェアの分離の禁止。明示的に許可されている場合を除き、お客様は、1 つのライセンスに基づいて本サーバー ソフトウェアを分離して、複数のオペレーティング システム環境で実行することはできません。この制限は、オペレーティング システム環境が同一の物理的ハードウェア システム上に存在する場合でも適用されます。
- g. 追加の機能。マイクロソフトは、本ソフトウェアに追加機能を提供する場合があります。その際、別途のライセンス条項および料金が適用されることがあります。
- h. インスタンスの最大数。本ソフトウェアまたはお客様のハードウェアにより、サーバー上の物理的または仮想オペレーティング システム環境で実行することができる本サーバー ソフトウェアのインスタンスの数が制限される場合があります。
4. ライセンス認証の義務。ライセンス認証により、ソフトウェアの使用が特定のデバイスに関連付けられます。ライセンス認証中、本ソフトウェアにより本ソフトウェアおよび当該デバイスに関する情報がマイクロソフトに送信される場合があります。この情報には、本ソフトウェアのバージョン、言語、プロダクトキーの他、デバイスのインターネット プロトコル アドレス、およびデバイスのハードウェア構成から派生した情報が含まれます。詳細については、microsoft.com/privacy/ をご参照ください。本ソフトウェアを使用することにより、お客様はこうした情報の送信に同意されたものとします。正式にライセンスを取得している場合、お客様は、ライセンス認証が認められている期間中は、インストール プロセスにおいてインストールされた本ソフトウェアのバージョンを使用する権利を有します。本ソフトウェアがライセンス認証されていない場合、お客様は、ライセンス認証が認められた期間の終了後に本ソフトウェアを使用する権利を有しません。これは、不正使用を防止するための措置です。ライセンス認証を無視または回避することは、禁止されています。デバイスがインターネットに接続されている場合、本ソフトウェアはライセンス認証を行うためにマイクロソフトへ自動的に接続されます。本ソフトウェアのライセンス認証は、インターネットまたは電話により、手動で行うこともできます。その場合、インターネットおよび電話の通信料金が発生することがあります。お客様がコンピューターのハードウェア構成を変更した場合や、本ソフトウェアの設定を変更した場合には、本ソフトウェアのライセンス認証を再度行う必要が生じることがあります。本ソフトウェアは、ライセンス認証が実行されるまで、ライセンス認証が必要であることをお知らせする場合があります。
5. 検証。
- a. 製造業者またはインストール業者がお客様のために本ソフトウェアのライセンス認証を実行した場合、お客様が本ソフトウェアを初めて使用するとき、ライセンス認証を行うかどうかを確認するメッセージは表示されません。本ソフトウェアでは、本ソフトウェアの有効性の検証が随時実行されます。本ソフトウェアの検証機能は随時更新されるため、お客様はダウンロードを実行するよう求められる場合があります。検証では、本ソフトウェアがライセンス認証されており、正式にライセンス供与されていることを確認します。お客様は、検証によって本ソフトウェアの特定機能を使用したり追加の便宜を得たりすることができます。詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=39157 をご参照ください。
- b. 有効性の確認中。本ソフトウェアは、ソフトウェアとデバイスに関する情報をマイクロソフトに送信します。こうした情報の中には、本ソフトウェアのバージョンとプロダクト キー、およびデバイスのインターネット プロトコル (IP) アドレスが含まれています。マイクロソフトがこれらの情報を利用してお客様を特定したり、お客様に連絡したりすることはありません。本ソフトウェアを使用することにより、お客様はこうした情報の送信に同意されたものとします。確認の詳細、および有効性の確認中に送信される情報の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=69500 をご参照ください。
- c. 有効性の確認後に、本ソフトウェアに適切なライセンスが与えられていないことが判明した場合は、本ソフトウェアの機能に影響が出る可能性があります。たとえば、次のような可能性があります。
- ソフトウェアのライセンス認証を再度行う必要がある。または
 - 適切にライセンスを取得したソフトウェアの複製を求めるアラームを受信する。
- または、次のような場合があります。
- 本ソフトウェアの一部の機能を使用できないか、使い続けることができない。または
 - マイクロソフトから特定の更新プログラムまたはアップグレードを取得できない。
- d. お客様は、マイクロソフトまたは正規マイクロソフト販売代理店からのみ、本ソフトウェアの更新プログラムまたはアップグレードを入手することができます。正規マイクロソフト販売代理店からの更新プログラムを入手する方法の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=69502 をご参照ください。
6. インターネット ベースのサービス。マイクロソフトは、本ソフトウェアについてインターネット ベースのサービスを提供します。マイクロソフトは、いつでもこのサービスを変更または中止できるものとします。
- a. インターネット ベースのサービスに関する同意。以下および「Windows Storage Server のプライバシーに関する声明」に記載されているソフトウェア機能は、インターネットを介してマイクロソフトまたはサービス プロバイダーのコンピューター システムに接続します。接続が行われた際、通知が行われない場合があります。お客様は、これらの機能を解除するか、または使用しないことができます。これらの機能の詳細については、go.microsoft.com/fwlink/?linkid=280262 をご参照ください。これらの機能を利用することにより、お客様はこの情報の送信に同意されたものとします。マイクロソフトがこれらの機能を利用してお客様を特定したり、お客様に連絡したりすることはありません。
- コンピューター情報。以下の機能はインターネット プロトコルを使用しており、お客様の IP アドレス、オペレーティング システムの種類、ブラウザーの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、本ソフトウェアを実行するデバイスの言語コードなどのコンピューター情報を適切なシステムに送信します。マイクロソフトは、お客様にインターネット ベースのサービスを提供するためにこの情報を使用します。
- Windows (または Microsoft) Update 機能。お客様は、本ソフトウェアをインストールしたデバイスに新しいハードウェアを接続することができます。デバイスには、かかるハードウェアと通信するために必要なドライバーがインストールされていない場合があります。この場合、本ソフトウェアの更新機能により、マイクロソフトから適切なドライバーを取得し、お客様のデバイスにインストールすることができます。お客様は、この更新機能を解除することができます。
 - Web コンテンツ機能。本ソフトウェアには、関連するコンテンツをマイクロソフトから取得し、お客様に提供する機能が含まれます。これらの機能の例としては、クリップ アート、テンプレート、オンライン トレーニング、オンライン アシスタンス、および Appshelp が挙げられます。お客様は、これらの Web コンテンツ機能を使用しないことも選択できます。
 - デジタル証明書。本ソフトウェアはデジタル証明書を使用しています。これらのデジタル証明書は、X.509 標準暗号化情報を使用し、インターネット ユーザーの身元を特定します。デジタル証明書をファイルやマクロの電子署名に使用して、ファイルの内容についての整合性や作成元を証明することもできます。本ソフトウェアは、インターネットが使用できる場合はそれを使用して、証明書を取得し、証明書失効リストを更新します。
 - Auto Root 更新。Auto Root 更新機能は、信頼できる証明機関のリストを更新するものです。お客様は Auto Root 更新機能を解除することができます。
 - Windows Media デジタル著作権管理。コンテンツの所有者は、著作権を含む知的財産を保護する目的で、Windows Media デジタル著作権管理技術 (WMDRM) を使用しています。本ソフトウェアおよび第三者のソフトウェアは、WMDRM が保護するコンテンツを再生、複製する際に WMDRM を使用します。本ソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、コンテンツ権利者がマイクロソフトに対して、保護されたコンテンツを WMDRM で再生または複製する本ソフトウェアの機能を無効にするよう要求することがあります。無効にされた場合も、その他のコンテンツには影響を受けません。お客様は、保護されたコンテンツのライセンスをダウンロードすることでマイクロソフトがライセンスに失効リストを含めることに同意したものとします。コンテンツの所有者は、お客様がコンテンツの所有者のコンテンツにアクセスする前に、WMDRM のアップグレードを要請することがあります。WMDRM を含むマイクロソフト ソフトウェアでは、アップグレードに先立ってお客様の同意が求められます。アップグレードを行わない場合、お客様はアップグレードが必要なコンテンツにアクセスできません。お客様は、インターネットに接続する WMDRM 機能を解除することができます。この機能が解除されている場合でも、正規のライセンスを取得しているコンテンツを再生することは可能です。
 - Windows Media Player。お客様が Windows Media Player を使用するごと、マイクロソフトに対して以下が確認されます。
 - お客様の地域において利用可能なオンライン音楽サービス
 - Windows Media Player の最新バージョン
 - コーデック (コンテンツの再生に必要なコーデックがデバイスにない場合)
- 最後の機能は解除することができます。詳細については、www.microsoft.com/windows/windowsmedia/player/12/privacy.aspx をご参照ください。

- ・ ネットワーク認識。ネットワーク トラフィックのパッシブ モニタリングまたはアクティブ DNS (または HTTP) クエリにより、システムがネットワークに接続されているかどうか判別されます。このクエリでは、ルーティングのための標準的な TCP/IP 情報または DNS 情報の送信のみを行います。お客様は、レジストリ設定により、このアクティブ クエリ機能を解除することができます。
 - ・ Windows タイム サービス。このサービスは、time.windows.com と週に 1 回同期することで、お客様のコンピューターの時刻を正確に設定するものです。お客様は、この機能をオフにすることができます。また、優先するタイム ソースを [日付と時刻] コントロール パネル アプレットから選ぶこともできます。接続には標準の NTP プロトコルを使用します。
 - ・ IPv6 ネットワーク アドレス変換 (NAT) Traversal サービス (Teredo)。これは、既存の家庭用インターネット ゲートウェイ デバイスを IPv6 に移行させるための機能です。IPv6 は、次世代のインターネット プロトコルです。ピア ツー ピア アプリケーションで頻繁に必要となる、エンド ツー エンド接続を有効にするために便利です。これを行うために、Teredo クライアント サービスでは、本ソフトウェアが起動されるたびに、パブリック Teredo インターネット サービスを探そうとします。インターネットを介してクエリを送信することでこのサービスを探します。このクエリは、標準の DNS (ドメイン ネーム サービス) 情報のみを送信してお客様のコンピューターがインターネットに接続されているかどうかを判断し、パブリック Teredo サービスを探すことができます。たとえば、お客様が以下のいずれかを行っているとしています。
 - ・ IPv6 接続を必要とするアプリケーションを使用している
 - ・ 常に IPv6 接続を有効にするようにファイアウォールを構成している
- 既定では、標準の IP (インターネット プロトコル) 情報がマイクロソフトの Teredo サービスに定期的に送信されます。それ以外の情報はマイクロソフトに送信されません。この既定の設定を変更して、マイクロソフト以外のサーバーを使用することもできます。また、"netsh" というコマンド ライン ユーティリティを使用して、この機能を無効にすることも可能です。

7. データ ストレージ テクノロジ。サーバー ソフトウェアには、Windows Internal Database と呼ばれるデータ ストレージ テクノロジが含まれている場合があります。サーバー ソフトウェアのコンポーネントは、データを格納する目的でこのテクノロジを使用します。本ライセンス条項では、上記以外の方法でこのテクノロジを利用またはアクセスすることが一切禁止されています。

8. MICROSOFT .NET のベンチマーク テスト。本ソフトウェアは、.NET Framework のコンポーネント (以下「.NET コンポーネント」といいます) を 1 つ以上含んでいます。お客様は、これらのコンポーネントの内部ベンチマーク テストを実施することができます。お客様は、go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=66406 に掲載されている条件に従うことによって、これらのコンポーネントのベンチマーク テストの結果を開示できます。マイクロソフトと別途の合意がある場合でも、お客様が当該ベンチマーク テストの結果を開示した場合、マイクロソフトは、go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=66406 に掲載されている条件と同じ条件に従うことを条件に、該当する .NET コンポーネントと競合するお客様の製品についてマイクロソフトが実施したベンチマーク テストの結果を開示する権利を有します。

9. ライセンスの適用範囲。本ソフトウェアは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本ライセンス条項は、お客様に本ソフトウェアを使用する限定的な権利を付与します。製造業者またはインストール業者、およびマイクロソフトは、その他の権利をすべて留保します。適用される法令により上記の制限を超える権利が与えられる場合を除き、お客様は本ライセンス条項で明示的に許可された方法でのみ本ソフトウェアを使用することができます。お客様は、使用方法を制限するために本ソフトウェアに組み込まれている技術的制限に従わなければなりません。詳細については、本ソフトウェア付属の文書を参照するか、製造業者またはインストール業者にお問い合わせください。お客様は、以下を行うことはできません。

- ・ 本ソフトウェアの技術的な制限を回避して使用すること。
 - ・ 本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすること。ただし、適用される法令により明示的に認められている場合を除きます。
 - ・ 別のオペレーティング システムまたは別のオペレーティング システムで実行されるアプリケーション内で本ソフトウェアのファイルおよびコンポーネントを使用すること。
 - ・ 本ライセンス条項で規定されている数以上の数の本ソフトウェアの複製を作成すること。ただし、適用される法令により認められている場合を除きます。
 - ・ 第三者が複製できるように本ソフトウェアを公開すること。
 - ・ 本ソフトウェアをレンタル、リース、または貸与すること。
 - ・ ソフトウェアを商用ソフトウェア ホスティング サービスで使用する。
- 任意のデバイス上で本ソフトウェアにアクセスする権利は、当該デバイスにアクセスするソフトウェアまたはデバイスに関するマイクロソフトの特許またはその他の知的財産権を行使する権利をお客様に付与するものではありません。

10. バックアップ用の複製。お客様は、本ソフトウェア メディアのバックアップ複製を 1 つ作成することができます。お客様は、バックアップを作成した同じサーバーにのみ、そのバックアップ イメージを復元できます。バックアップ用の複製は、本ソフトウェアのインスタンスを作成する目的に限り使用することができます。

11. ドキュメンテーション。お客様のコンピューターまたは内部ネットワークに有効なアクセス権を有する者は、お客様の内部使用目的に限り、ドキュメントを複製して使用することができます。

12. ライセンス証明書 (「PROOF OF LICENSE」または「POL」)。お客様が本ソフトウェアを本サーバー、CD-ROM、またはその他の媒体で入手した場合、お客様のライセンス証明書は、本サーバーに付属している正規の Certificate of Authenticity ラベルになります。正規のラベルは本サーバーに貼付、または製造業者、インストール業者の本ソフトウェア梱包に貼付されている必要があります。ラベルが本ソフトウェアの梱包とは別に提供されたものである場合、そのラベルは無効です。お客様が本ソフトウェアの使用許諾を受けていることを証明するため、ラベルをサーバーまたはパッケージに貼付したままにしてください。正規のマイクロソフト ソフトウェアを識別する方法については、www.howtotell.com をご参照ください。

13. 第三者への譲渡。お客様は、ライセンス取得済みサーバー、Certificate of Authenticity ラベル、および本ライセンス条項を共に譲渡する場合に限り、本ソフトウェアを第三者に直接譲渡することができます。許諾された譲渡を行う前に、本ソフトウェアの譲渡者は本ライセンス条項が譲渡および本ソフトウェアの使用に適用することに同意しなければならない。お客様が、本ソフトウェアのインスタンスを保有し続けることは禁止されています。ただし、お客様が本ソフトウェアの別のライセンスを保有している場合は例外です。

14. H.264/AVC ビデオ規格および VC-1 ビデオ規格に関する注意。本ソフトウェアには、H.264/AVC および VC-1 画像圧縮テクノロジが含まれます。このテクノロジについては、MPEG LA, L.L.C. により以下の注意書きを表示することが義務付けられています。本製品は、消費者による個人使用および非商業的使用を前提とし、[H.264/AVC VIDEO PATENT PORTFOLIO LICENSE] および [VC-1 VIDEO PATENT PORTFOLIO LICENSE] の下、次の用途に限ってライセンスされています。(i) 上記の規格 (以下「ビデオ規格」といいます) に従ってビデオをエンコードすること、または (ii) 個人使用および非商業的活動に従事する消費者がエンコードした H.264/AVC および VC-1 ビデオをデコードする。もしくは、かかるビデオを提供するライセンスを有するビデオ プロバイダーから取得した H.264/AVC および VC-1 ビデオをデコードすること。その他の用途については、明示が黙示かを問わず、いかなるライセンスも許諾されません。ビデオ規格に関して質問がある場合、詳細情報については MPEG LA, L.L.C. から入手できます。www.mpegla.com をご参照ください。

15. 輸出規制。本ソフトウェアは米国および日本国の輸出に関する規制の対象となります。お客様は、本ソフトウェアに適用されるすべての国内法および国際法 (輸出対象国、エンド ユーザーおよびエンド ユーザーによる使用に関する制限を含みます) を遵守しなければなりません。詳細については www.microsoft.com/japan/exporting をご参照ください。

16. サポート サービス。サポート オプションについては、製造業者またはインストール業者にお問い合わせください。その際、本ソフトウェアと共に提供されるサポート番号をお知らせください。マイクロソフトから直接入手された更新プログラムまたは追加ソフトウェアについては、マイクロソフトからサポートを提供いたします。www.support.microsoft.com/common/international.aspx をご参照ください。

17. 完全合意。本ライセンス条項 (下記の品質保証規定を含みます)、ならびに追加ソフトウェア、更新プログラム、インターネット ベースのサービス、およびサポート サービスに関する使用条件は、本ソフトウェアおよびサポート サービスについてのお客様とマイクロソフトとの間の完全なる合意です。

18. 準拠法。
- ・ 日本。お客様が本ソフトウェアを日本国内で入手された場合、本ライセンス条項は日本法に準拠するものとします。
 - ・ 米国。お客様が本ソフトウェアを米国内で入手された場合、抵触法に関わらず、本ライセンス条項の解釈および契約違反への主張は、米国ワシントン州法に準拠するものとします。消費者保護法、公正取引法、および違法行為を含みますがこれに限定されない他の主張については、お客様が所在する地域の法律に準拠します。
 - ・ 日本および米国以外。お客様が本ソフトウェアを日本国および米国以外の国で入手された場合、本ライセンス条項は適用される地域法に準拠するものとします。

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

とします。

19. 法的効力。本ライセンス条項は、特定の法的な権利を規定します。お客様は、地域や国によっては、本ライセンス条項の定めにかかわらず、本ライセンス条項と異なる権利を有する場合があります。また、お客様は本ソフトウェアの取得取引の相手方に対して権利を取得できる場合もあります。本ライセンス条項は、お客様の地域または国の法律がその法律に基づく権利の変更を許容しない場合、それらの権利を変更しないものとします。

20. 本ソフトウェアのセカンダリ ブート用および復旧用の複製。

- セカンダリ ブート用の複製。本サーバー ソフトウェアのセカンダリ ブート用の複製がデバイス上にインストールされている場合、お客様は、本サーバー ソフトウェアのプライマリ オペレーティング用の複製に不具合、誤動作、または破損が発生した場合のみ、プライマリ オペレーティング用の複製が修復または再インストールされるまでに限り、セカンダリ ブート用の複製にアクセスしたり、当該複製からブートしたり、当該複製を表示および実行したりすることができます。お客様は、本サーバー ソフトウェアのプライマリ オペレーティング用の複製とセカンダリ ブート用の複製の両方からブートしたり、かかる両方の複製を使用したりするようライセンス許諾されていません。
- 復旧用の複製。お客様は、デバイス上の本サーバー ソフトウェアを修復または再インストールすることのみを目的として、本サーバー ソフトウェアの復旧用の複製を使用することができます。

21. リースされたハードウェア。お客様が製造業者またはインストール業者からデバイスをリースしている場合、次の追加条項が適用されます。(i) お客様は、本ソフトウェアをデバイスと共に永続的に譲渡することが本ライセンス条項で別途許可されているかどうかにかかわらず、デバイスの譲渡の一部として本ソフトウェアを別のユーザーに譲渡することはできません。(ii) お客様がソフトウェア アップグレードを行う権利は、デバイスに関して締結したリース契約によって決定されます。(iii) お客様は、お客様のリース期間の終了後、製造業者またはインストール業者からデバイスを購入しない限り、本ソフトウェアを使用することはできません。

22. 非フォールト トレラント。本ソフトウェアは、フォールト トレラントではありません。製造業者またはインストール業者は、本ソフトウェアをデバイスにインストールしており、本ソフトウェアのデバイス上での動作に責任を負うものとします。

23. 使用制限。マイクロソフト ソフトウェアは、フェール セーフ性能が不要なシステム用に設計されました。お客様は、本ソフトウェアの誤動作があった場合に人身傷害または死亡の予測できるリスクをもたらすデバイスまたはシステムで、マイクロソフト ソフトウェアを使用することはできません。

24. 責任の制限および除外。製造業者またはインストール業者が提供する払戻しを除き、その他の損害（派生的損害、逸失利益、特別損害、間接損害、または付随的損害を含みますがこれらに限定されません）に関しては、製造業者、インストール業者およびマイクロソフトは一切責任を負いません。

この制限は、以下に適用されるものとします。

- 本ソフトウェア、サービス、第三者のインターネットのサイト上のコンテンツ（コードを含みます）、または第三者のプログラムに関連した事項
 - 契約違反、保証違反、厳格責任、過失、または不法行為等の請求（適用される法令により認められている範囲において）
 - また、以下のいずれかに該当する場合においても、この制限が適用されるものとします。
 - 本ソフトウェアの修理、交換、または返金を行ってもお客様の損失が完全に補償されない場合
 - 製造業者もしくはインストール業者またはマイクロソフトがこのような損害の可能性を認識していたか、または認識し得た場合
- 一部の地域では付随的、結果的損害の免責、または責任の制限が認められないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。また、一部の国では付随的、派生的、およびその他の損害の免責、または責任の制限が認められないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。

品質保証規定

A. 品質保証規定。お客様が説明書に従うことを条件とし、本ソフトウェアは本ソフトウェアに含まれた、または同梱されたマイクロソフト資料に従って実質的に動作します。

「品質保証規定」に関する記述は、製造業者またはインストール業者により提供される明示の保証に関する記述を意味します。本保証規定は、地域の消費者法に基づく法定保証に従ったお客様の権利および救済を含め、法律に基づきお客様に付与されている場合があるその他の権利および救済に加えて提供されます。

B. 保証期間、保証の対象、黙示の保証の期間。品質保証規定は、最初のユーザーが本ソフトウェアを取得後 90 日間有効です。90 日間の有効期間内に追加ソフトウェア、更新プログラム、または交換ソフトウェアを入手された場合、それらは有効期間の残存期間中、または入手後 30 日間のいずれか遅く到来する日まで保証されます。お客様が本ソフトウェアを譲渡した場合、残りの有効期間は本ソフトウェアの譲受者に適用されます。

制定法上許容される最大限において、適用される法令によりお客様に与えられる黙示的な保証または条件は、本品質保証規定の有効期間に限定されるものとします。一部の地域では黙示的な保証の期間の制限が認められていないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。また、一部の国では黙示的な保証または条件の有効期間の設定が認められていないため、上記の制限事項が適用されない場合があります。

C. 免責。本品質保証規定では、お客様の行為（または不作為）、第三者の行為、または製造業者、インストール業者、またはマイクロソフトの合理的な支配の及ばない事柄に起因して発生した問題は対象としていません。

D. 保証違反に対する救済。製造業者またはインストール業者は、自らの裁量において、(i) 無償で本ソフトウェアを修理または交換するか、または、(ii) 本サーバーと共に本ソフトウェアの返品を受け付け、支払われた金額を払い戻します。また、製造業者またはインストール業者は、追加ソフトウェアを修理または交換するか、ソフトウェアを更新して交換するか、お客様が支払われた金額を払い戻すこともできます。製造業者またはインストール業者の方針については、それぞれにお問い合わせください。以上が、品質保証規定違反に対する、お客様への唯一の救済手段となります。

E. 変更できない消費者権利。本品質保証規定が変更できないお客様の地域の法令による追加の消費者の権利が存在する場合があります。

F. 保証に関するお問い合わせ。本ソフトウェアの保証サービスについては、製造業者またはインストール業者にお問い合わせください。返金の場合、お客様は製造業者またはインストール業者の返品条件に従うものとします。

G. 無保証。本ソフトウェアの品質保証規定は、お客様が製造業者またはインストール業者から受けられる唯一の直接的保証となります。製造業者またはインストール業者、およびマイクロソフトは、他の明示的な保証は一切いたしません。地域の法令上許容される最大限において、製造業者、インストール業者、またはマイクロソフトは、商品性、特定目的に対する適合性、侵害の不存在に関する黙示の保証については一切責任を負いません。地域の法令により黙示の保証が認められている場合、本条にかかわらず、お客様に与えられる救済手段は、法律上許容される限りにおいて、上記「保証違反に対する救済」の条項で規定された救済手段に限定されるものとします。

オーストラリア限定。「品質保証規定」に関する記述は、製造業者またはインストール業者により提供される保証に関する記述を意味します。本保証規定は、オーストラリア消費者法に基づく法定保証に従ったお客様の権利および救済を含め、法律に基づきお客様に付与されている場合があるその他の権利および救済に加えて提供されます。マイクロソフトの商品には、オーストラリア消費者法に基づき除外することのできない保証が付随するものとします。お客様は、重大な欠陥に対する交換または返金、およびその他の合理的に予測可能なあらゆる損失または損害に対する補償を受ける権利を有します。また、お客様は、かかる商品が合格品質に至っておらず当該欠陥が重大な欠陥とはみなされない場合に、かかる商品の修理または交換を受ける権利を有します。修理に提示された商品は、当該商品と交換されるのではなく、同じ種類の再生された商品と交換される場合があります。商品の修理には、再生された部品が使用されることがあります。

本保証規定に関する詳細、および保証（該当する場合）に関連する費用の請求については、製造業者またはインストール業者にお問い合わせください。システム梱包に記載されている連絡先情報をご参照ください。

H. 保証規定違反に関する責任の制限および除外。上記の「無保証」の規定は、本品質保証規定の違反にも適用されるものとします。本保証規定は、お客様の法的な権利を定めたものです。また、地域や国によって異なるその他の権利が存在する場合があります。

EULAID:WSB_R8_1_ED_SRVSSS_O_ja-jp

ハードウェア保証規定

弊社のハードウェア保証は、ハードウェア保証規定（以下「本保証規定」といいます。）に明示した条件のもとにおいて、アフターサービスとして、弊社製品（以下「本製品」といいます。）の無料での修理または交換をお約束するものです。

1 保証内容

取扱説明書（本製品外箱の記載を含みます。以下同様です。）等に示した正常な使用状態で故障した場合、ハードウェア保証書をご提示いただく事によりそこに記載された期間内においては、無料修理または弊社の判断により同等品へ交換いたします。

2 保証対象

保証の対象となるのは本製品の本体部分のみとなります。ソフトウェア、付属品・消耗品、または本製品もしくは接続製品内に保存されたデータ等は保証の対象とはなりません。

3 保証対象外

以下の場合には保証の対象とはなりません。

- 1) 保証書に記載されたご購入日から保証期間が経過した場合
- 2) 修理ご依頼の際、ハードウェア保証書のご提示がいただけない場合
- 3) ハードウェア保証書の所定事項（型番、お名前、ご住所、ご購入日等〔但し、ご購入日欄については、保証期間が無期限の製品は除きます。〕）が未記入の場合または字句が書き換えられた場合
- 4) 中古品でご購入された場合
- 5) 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害または異常電圧等の外部的事情による故障もしくは損傷の場合
- 6) お買い上げ後の輸送、移動時の落下・衝撃等お取扱いが不適当なため生じた故障もしくは損傷の場合
- 7) 接続時の不備に起因する故障もしくは損傷、または接続している他の機器やプログラム等に起因する故障もしくは損傷の場合
- 8) 取扱説明書等に記載の使用方法または注意書き等に反するお取扱いに起因する故障もしくは損傷の場合
- 9) 合理的使用方法に反するお取扱いまたはお客様の維持・管理環境に起因する故障もしくは損傷の場合
- 10) 弊社以外で改造、調整、部品交換等をされた場合
 - 1) 弊社が寿命に達したと判断した場合
 - 2) 保証期間が無期限の製品において、初回に導入した装置以外で使用された場合
 - 3) その他弊社が本保証内容の対象外と判断した場合

4 修理

- 1) 修理を弊社へご依頼される場合は、本製品とご購入日等の必要事項が記載されたハードウェア保証書を弊社へお持ち込みください。本製品を送付される場合、発送時の費用はお客様のご負担、弊社からの返送時の費用は弊社負担とさせていただきます。
- 2) 発送の際は輸送時の損傷を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材をご使用いただき、輸送に関する保証および輸送状況が確認できる業者のご利用をお願いいたします。弊社は、輸送中の事故に関しては責任を負いかねます。
- 3) 本製品がハードディスク・メモリーカード等のデータを保存する機能を有する製品である場合や本製品の内部に設定情報をもつ場合、修理の際に本製品内部のデータはすべて消去されます。弊社ではデータの内容につきましては一切の保証をいたしかねますので、重要なデータにつきましては必ず定期的にバックアップとして別の記憶媒体にデータを複製してください。
- 4) 弊社が修理に代えて交換を選択した場合における本製品、もしくは修理の際に交換された本製品の部品は弊社にて適宜処分いたしますので、お客様へはお返しいたしません。

5 免責

- 1) 本製品の故障もしくは使用によって生じた本製品または接続製品内に保存されたデータの毀損・消失等について、弊社は一切の責任を負いません。重要なデータについては、必ず、定期的にバックアップを取る等の措置を講じてください。
- 2) 弊社に故意または重過失のある場合を除き、本製品に関する弊社の損害賠償責任は理由のいかんを問わず製品の価格相当額を限度といたします。
- 3) 本製品に隠れた瑕疵があった場合は、この約款の規定に関わらず、弊社は無償にて当該瑕疵を修理し、または瑕疵のない製品または同等品に交換いたしますが、当該瑕疵に基づく損害賠償責任を負いません。

6 保証有効範囲

弊社は、日本国内のみにおいてハードウェア保証書または本保証規定に従った保証を行います。本製品の海外でのご使用につきましては、弊社はいかなる保証も致しません。

Our company provides the service under this warranty only in Japan.

使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

[MEMO]

【技術動向、導入事例などについて】

次のサイトに、弊社製ネットワークハードディスク（NAS）「LAN DISK シリーズ」に関するホワイトペーパーを掲載しています。必要に応じてご確認ください。

<http://www.iodata.jp/biz/whitepaper/>



使う前に

導入する

その他の設定

故障時の対応

資料

【ご注意】

- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、別段の定めが無い限り、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 2) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器、兵器システムなどの人命に関する設備や機器、及び海底中継器、宇宙衛星などの高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意ください。
- 3) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。
また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
- 4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

記載されている会社名、製品名等は一般に各社の商標または登録商標です。

型 番	HDL-ZWLC2シリーズ
保証期間	ご購入日より 3 年間有効です

☆ お 客 様	ふりがな	
	お名前	様
	TEL. () -	
	〒□□□-□□□□ ご住所	

「ハードウェア保証規定」をご確認の上、☆印の箇所に楷書で明確にご記入ください。
記入漏れがあると、保証期間内でも無料修理が受けられませんのでご注意ください。
販売店欄は販売店でご記入いただくものです。記入がない場合はお買い上げの販売店
にお申し出ください。
また、本保証書は再発行いたしませんので紛失しない様大切に保管してください。

販 売 店	ご購入日	
	住所・店名	
	TEL. () -	印

ご販売店様へ

- お客様へ商品をお渡しする際は必ず販売日をご記入日欄に記入し貴店名／住所、貴店印をご記入ご捺印ください。
- 記載漏れがあると、保証期間内でも無償修理が受けられません。

取扱説明書などの注意書きに従った正常な使用状態で、保証期間内に故障した場合には、ハードウェア保証規定に従った保証を行いますので、商品と本保証書をご持参ご提示の上お買い求めの販売店または、弊社（修理センター宛）にご依頼ください。

I-O DATA

株式会社 アイ・オー・データ機器



最新ニュースや電子カタログをスマホで見られる
「I/Oカタログ」アプリ!パソコンからも閲覧OK。
無料ダウンロードはこちら。

<http://catalog.iodata.jp/sp/>



【マニュアルアンケートはこちら】
よりよいマニュアル作りのため
アンケートにご協力願います。



進化する明日へ Continue thinking

株式会社 **アイ・オー・データ機器**
ホームページ <http://www.iodata.jp/>